

平成 29 年度 業務実績報告書（暫定版）

（第 2 期中期計画・第 4 事業年度）

平成 3 0 年 2 月



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

目 次

I 機構の概要 (平成29年4月1日現在)

1	名 称	1
2	所 在 地	1
3	法人の設立年月日	1
4	設 立 団 体	1
5	目 的	1
6	業 務	1
7	資本金の額	1
8	代表者の役職氏名	1
9	役 員	2
10	組 織 図	2
11	法人が運営する病院の概要	3

II 当該事業年度における業務実績報告

1	対 象 期 間	5
2	業務実績全般	5
	(1) 機構全体	5
	(2) 総合病院	15
	(3) こころの医療センター	16
	(4) こども病院	17
3	県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置	18
	(1) 医療の提供	18
	(2) 医療に関する技術者(医師・看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	23
	(3) 医療に関する調査及び研究	24
	(4) 医療に関する地域への支援	27
	(5) 災害等における医療救護	28
4	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	28
	(1) 簡素で効率的な組織づくり	28
	(2) 効率的な業務運営の実現	28
	(3) 事務部門の専門性の向上	29
	(4) 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成	29
5	項目別実績	30
	(参考) 用語解説	62

【数値の表記方法について】

この報告書内の数値は表示単位未満を四捨五入のため、各項目の和と総計が一致しない場合がある。



静岡県立総合病院

 地方独立行政法人 静岡県立病院機構

Shizuoka Prefectural Hospital Organization

ともにつくる 信頼と安心の医療

この地方独立行政法人は、静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与することを目的とする



静岡県立こころの医療センター



静岡県立こども病院

I 機構の概要 (平成29年4月1日現在)

1 名称

地方独立行政法人静岡県立病院機構

2 所在地

静岡市葵区北安東四丁目27番1号

3 法人の設立年月日

平成21年4月1日

4 設立団体

静岡県

5 目的

静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与する。

6 業務

(1) 病院の名称及び所在地

名称	所在地
静岡県立総合病院	静岡市葵区北安東
静岡県立こころの医療センター	静岡市葵区与一
静岡県立こども病院	静岡市葵区漆山

(2) 業務の範囲

- ・医療を提供すること。
- ・医療に関する調査及び研究を行うこと。
- ・医療に関する技術者の研修を行うこと。
- ・医療に関する地域への支援を行うこと。
- ・災害等における医療救護を行うこと。
- ・及び上記の附帯業務。

7 資本金の額

6,822,733,469円

8 代表者の役職氏名

理事長 田中一成

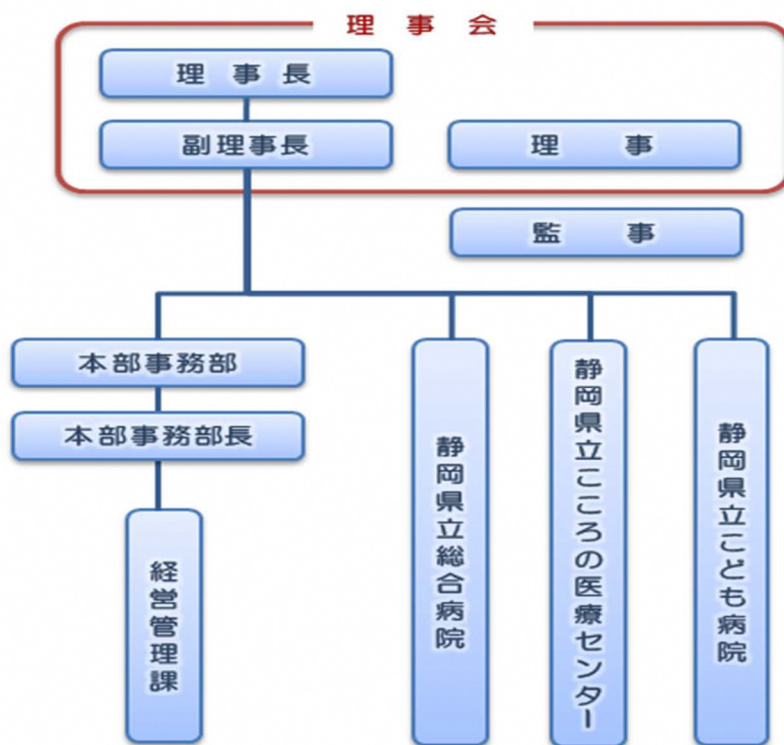
9 役員

(平成29年9月末現在)

役員名	区分	氏名
理事長	常勤	田中一成
副理事長	常勤	宮城島好史
理事	常勤	村上直人
理事	常勤	坂本喜三郎
理事	非常勤	柏崎順子
理事	非常勤	椎名正樹
理事	非常勤	中村彰宏
理事	非常勤	星野希代絵
監事	非常勤	鈴木素子
監事	非常勤	谷川樹史

(定款に定めた定数 理事長1名・副理事長1名・理事7名以内・監事2名)

10 組織図



○ 全職員数 (平成29年4月1日現在、現員)

医師※	410名
看護師	1,370名
医療技術	315名
事務ほか	118名
計	2,213名

※職員数には、アソシエイトを含む。また、医師には歯科医師4名、自治医大初期研修医4名、へき地指定公立病院派遣医2名、有期職員医師146名を含む。

※職員の増減状況は、14ページ参照

11 法人が運営する病院の概要

(1) 病院の名称・所在地等

(平成29年4月1日現在)

区分	地方独立行政法人 静岡県立病院機構		
病院名	総合病院	こころの医療センター	こども病院
所在地	静岡市葵区北安東 4丁目27-1	静岡市葵区与一 4丁目1-1	静岡市葵区漆山860番地
開設年月日	昭和58年2月1日	昭和31年11月1日	昭和52年4月1日
診療科 (医療法)	内科、救急科、心療内科、精神科、循環器内科、心臓血管外科、腎臓内科、泌尿器科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、脳神経外科、消化器内科、消化器外科、呼吸器内科、呼吸器外科、産婦人科、乳腺外科、小児科、整形外科、リハビリテーション科、心臓リハビリテーション科、眼科、頭頸部・耳鼻いんこう科、血液内科、皮膚科、形成外科、歯科口腔外科、麻酔科、放射線科、病理診断科、腫瘍内科	精神科、内科、外科、歯科	小児科、小児救急科、新生児小児科、血液・腫瘍内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、アレルギー科、神経内科、循環器内科、皮膚科、小児外科、消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、耳鼻いんこう科、泌尿器科、眼科、歯科、麻酔科、放射線科、産科、精神科、児童精神科、臨床検査科、病理診断科
	31科	4科	28科
許可病床数 (29年度)	一般 662床 結核 50床	精神 280床 (稼働172床)	一般 243床 (稼働235床) 精神 36床
年間延患者数 (29年度計画)	入院 236,301人 外来 440,610人	入院 55,956人 外来 38,942人	入院 82,000人 外来 107,000人
理念	信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います	安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも	私たちは、すべての子どもと家族のために、安心と信頼の医療を行います。 (平成26年10月改定)
備考	昭和23年6月 中央病院 昭和33年3月 富士見病院	「養心荘」 平成9年4月1日名称変更	

※昭和39年4月1日 中央病院、富士見病院、養心荘の3病院で病院事業会計開始。

(2) 施設状況

(平成 29 年 4 月 1 日現在)

区分	病棟	許可 病床数	内 容	
総合	本館	3 A	12	ハイケアユニット(HCU) (H29.9 から 3 A 病棟 12 床→4 M 病棟 先端医学棟 20 床へ変更)
		3 B	37	小児科、頭頸部・耳鼻いんこう科、救命救急科、病院管理ベッド (H29.8 から 37 床→36 床)
		3 D	44	産婦人科、小児科(新生児)、病院管理ベッド (H29.5 から 44 床→43 床、H29.9 から 43 床→40 床)
		4 A	44	総合診療科、皮膚科、整形外科 00
		4 B	47	腎臓内科、泌尿器科 (H29.9 から 47 床→46 床)
		4 D	42	血液内科、眼科、歯科口腔外科 (H29.9 から 42 床→41 床)
		5 A	46	消化器外科、泌尿器科
		5 B	46	消化器内科、消化器外科、腫瘍内科
		6 A	42	整形外科、消化器内科、病院管理ベッド (H29.9 から 42 床→41 床)
		6 B	50	結核
	6 C	49	呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科 (H29.9 から 49 床→48 床)	
	6 D	39	呼吸器内科、呼吸器外科、消化器内科、放射線科	
	北館	3 E	42	整形外科、神経内科、救急科
		4 E	34	消化器外科、乳腺外科、形成外科、循環器内科
		5 E	19	緩和医療科
	センター 循環器病	1 G	11	救命救急科 (H29.5 から 11 床→12 床)
		3 G	12	集中治療室 (ICU、CCU)
4 G		47	循環器内科、心臓血管外科	
5 G		49	神経内科、脳神経外科	
計		712	(稼働 712 床)	
こころ	北 1	42	医療観察法 12 床、慢性重症 30 床	
	北 2	45	救急	
	北 3	54	(休棟)	
	南 1	42	回復期	
	南 2	43	救急	
	南 3	54	(休棟)	
	計	280	(稼働 172 床)	
こども	北 2	36	NICU、GCU	
	北 3	30	内科系乳幼児	
	北 4	28	感染観察	
	北 5	28	内科系幼児学童	
	西 2	24	産科、MFICU	
	西 3	25	循環器科	
	CCU	12	CCU	
	PICU	12	PICU	
	西 6	48	外科系	
	東 2	36	こころの診療科	
計	279	(稼働 271 床)		

II 当該事業年度における業務実績報告

1 対象期間

平成29年4月1日から平成30年3月31日までの1年間
(中期計画の期間 平成26年4月1日から平成31年3月31日までの5年間)

2 業務実績全般

(1) 機構全体

ア 総括

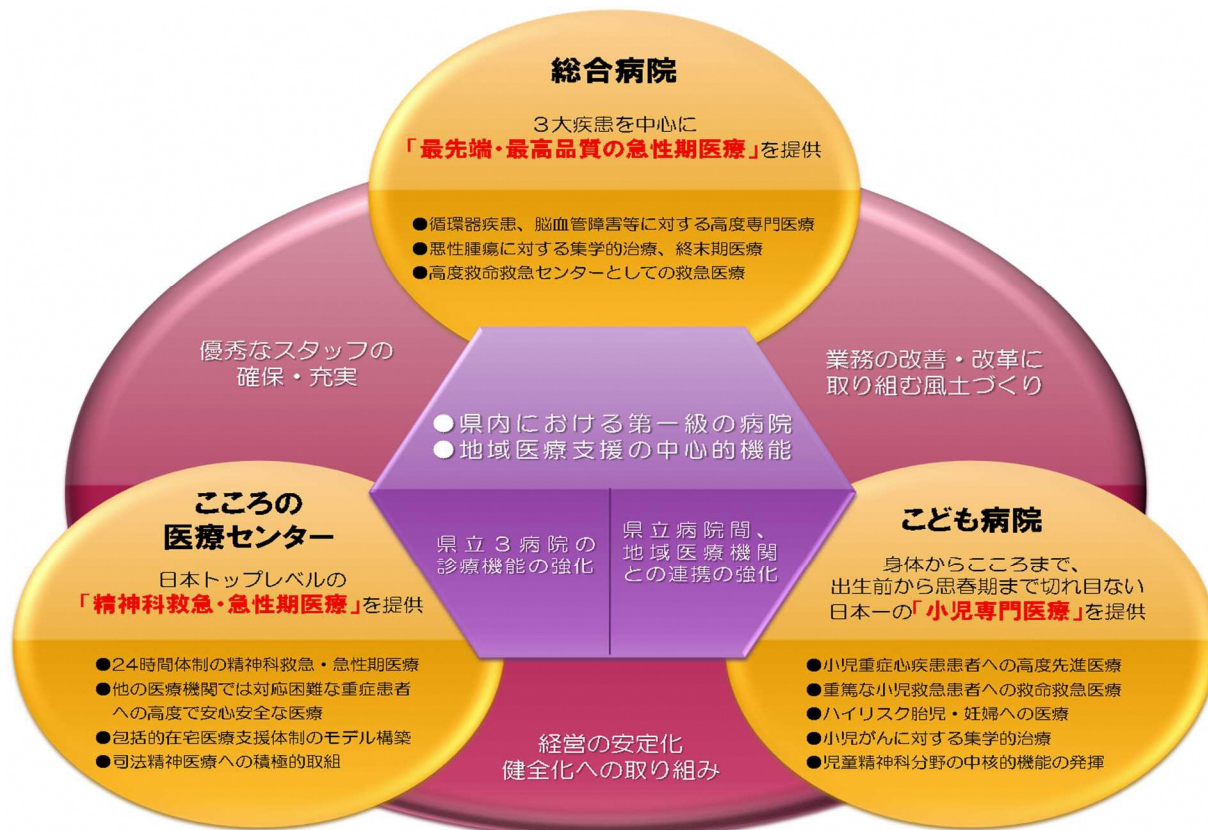
静岡県立病院機構は、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等の分野において第一級の病院であること及び地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、地方独立行政法人の特徴である機動性や効率性等を發揮した病院経営に取り組んでいる。

法人化9年目となる29年度の経営状況(3病院計)は、入院では、延患者数は3病院ともに年度計画(以下「計画」)を下回る見込みであるが、単価はこころの医療センターとこども病院が計画を上回る見込みである。また、外来では、延患者数はこころの医療センターが計画を上回る見込みであり、単価は総合病院とこころの医療センターで計画を上回る見込みである。

収支は、経常利益が727百万円(経常収支比率101.6%)、当期純利益が471百万円で、法人化後9年連続で経常収支比率100%を達成する見込みである。

引き続き、本機構は、医療の質を高め、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等に積極的に取り組み、医療面では充実した質の高い医療を提供し、経営面では機動的で効率的な病院経営を推進し、本県の医療の確保と向上に貢献していく。

県立病院機構が目指す病院像



イ 業務実績

(ア) 入院診療

- ・ 総合病院は、年度計画（以下「計画」）を下回る延患者数(▲4,732人)となる見込みで、患者1人1日当たり入院単価(以下、入院単価:入院収益÷年延入院患者数)も計画を下回る見込みである(▲1,041円)。
- ・ こころの医療センターは、計画を下回る延患者数となる見込みだが、(▲766人)、入院単価については計画を上回る見込みである(+294円)。
- ・ こども病院は、延患者数は計画を下回る(▲2,455人)見込みだが、入院単価は計画を上回る(+1,051円)見込みである。

(イ) 外来診療

- ・ 総合病院は、計画を下回る延患者数(▲6,562人)となる見込みだが、患者1人1日当たり外来単価(以下、外来単価:外来収益÷年延外来患者数)は計画を上回る見込みである(+141円)。
- ・ こころの医療センターは、計画を上回る延患者数となる見込みであり(+1,450人)、外来単価についても計画を上回る見込みである(+232円)。
- ・ こども病院は、延患者数は計画を下回る患者数(▲800人)となる見込みで、外来単価についても計画を下回る(▲895円)となる見込みである。

○ 平成29年度 業務量及び単価等年間見込み(税込)

区 分		総 合	こころ	こども
入 院	入院延患者数(人)	231,569 (236,301)	55,190 (55,956)	79,545 (82,000)
	新入院患者数(人)	17,528	481	5,238
	病床稼働率(%)	一般93.2 (一般95.0)	87.9 (89.1)	80.4 (82.9)
	入院患者1人 1日当たり単価(円)	77,458 (78,499)	25,349 (25,055)	93,471 (92,420)
外 来	外来延患者数(人)	434,048 (440,610)	40,392 (38,942)	106,200 (107,000)
	外来初診患者数(人)	27,802	903	8,218
	外来患者1人 1日当たり単価(円)	19,941 (19,800)	6,104 (5,872)	12,575 (13,470)

※()書きは、計画数値を示す。

※患者1人1日当たり単価は税込金額(調定額ベースで算定)。

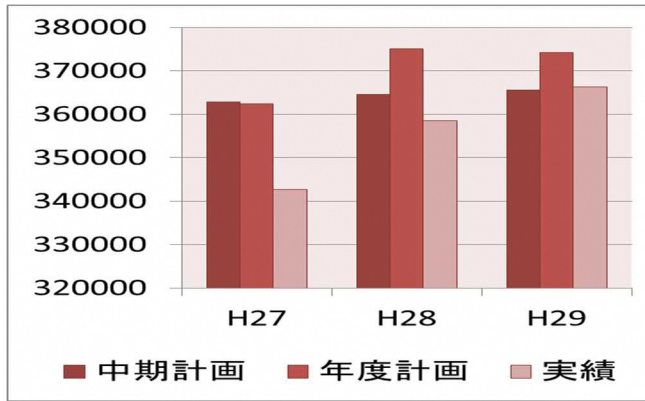
※病床稼働率は、総合662床、こころ172床、こども271床で算定。

<参考資料>

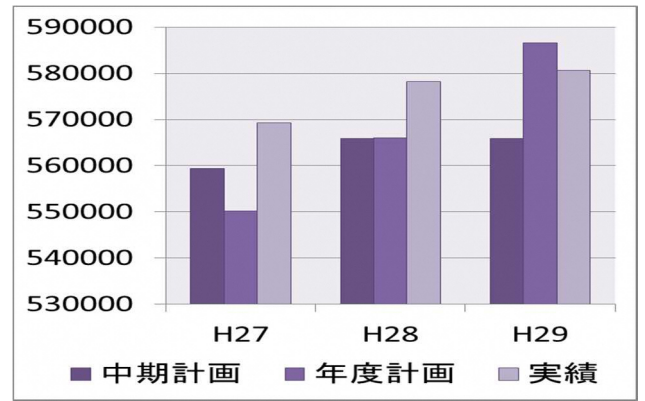
○患者数の推移 (27年度実績～29年度見込み)

(単位:人)

入院延患者数 (3病院計)



外来延患者数 (3病院計)



・29年度は入院延患者数及び外来患者数が中期計画を上回る見込みであるが、年度計画を下回る見込みである。

○市内公的病院患者動向 (月平均延患者数 :H29.4～H29.9－H28.4～H28.9 比較)

(単位:人、%)

区分	総合①	こころ②	こども③	てんかん④	市立静岡⑤	赤十字⑥	済生会⑦	静岡厚生⑧	市立清水⑨	桜ヶ丘⑩	清水厚生⑪	⑤～⑪小計	①～⑪合計	
入院	H29	19,019	4,609	6,402	10,100	13,282	12,792	13,831	5,727	10,506	2,738	3,679	62,555	102,685
	H28	18,376	4,785	6,495	10,122	13,639	11,885	12,861	5,114	10,248	2,533	3,580	59,860	99,638
	差	643	▲176	▲93	▲22	▲357	907	970	613	258	205	99	2,695	3,047
外来	H29	35,780	3,495	8,792	3,000	23,177	16,027	20,357	7,538	14,780	6,385	6,890	95,154	146,221
	H28	35,910	3,392	8,649	2,965	24,043	16,348	19,142	7,347	15,352	6,450	6,845	95,527	146,443
	差	▲130	103	143	35	▲866	▲321	1,215	191	▲572	▲65	45	▲373	▲222

・入院延患者は総合病院が増加しており、外来延患者はこころの医療センターとこども病院で増加した。

市内公的病院月平均患者増減数(H29.4～9－H28.4～9) 単位:人



(ウ) 平成29年度収支年間見込み(税込)

① 収益的収支年間見込み(税込)

(単位:千円)

区分	款	項	最終予算額 (計画)	年間 見込額	増減額 (達成度)	決算額 (前年度)	増減額 (前年比)
収益	営業 収益	医業収益	38,711,483	37,656,616	▲1,054,867	35,727,133	1,929,483
		運営費負担金収益	6,789,772	6,817,496	27,724	6,807,586	9,910
		その他営業収益	379,009	375,032	▲3,977	390,453	▲15,421
		小計	45,880,264	44,849,144	▲1,031,120	42,925,172	1,923,972
	営業外 収益	運営費負担金収益	210,228	182,504	▲27,724	192,414	▲9,910
		その他営業外収益	294,583	270,024	▲24,559	292,416	▲22,392
		小計	504,811	452,528	▲52,283	484,830	▲32,302
	臨時利益	臨時利益	0	0	0	7,505	▲7,505
	計			46,385,075	45,301,672	▲1,083,403	43,417,507
費用	営業 費用	医業費用	44,769,550	43,499,488	▲1,270,062	41,368,872	2,130,616
		一般管理費	405,493	364,055	▲41,438	348,040	16,015
		小計	45,175,043	43,863,543	▲1,311,500	41,716,912	2,146,631
	営業外 費用	財務費用	346,606	343,777	▲2,829	331,723	12,054
		その他営業外費用	339,364	367,684	+28,320	259,116	108,568
		小計	685,970	711,461	+25,491	590,839	120,622
	臨時損失	臨時損失	310,757	255,559	▲55,198	30,174	225,385
	計			46,171,770	44,830,563	▲1,341,207	42,337,925
経常利益			524,062	726,668	202,606	1,102,251	▲375,583
当期純利益			213,305	471,109	257,804	1,079,582	▲608,473

※単位未満四捨五入のため各項目の和と総計が一致しない場合がある(以下同様)。

- ・ 経常利益は726,668千円で、計画を202,606千円上回り、経常収支比率100%以上(101.6%)を達成する見込みである。
- ・ 当期純利益は471,109千円で、計画を257,804千円上回る見込みである。
- ・ 医業収益は、入院外来ともに延患者数及び単価が、計画を下回る見込みのため、計画を1,054,867千円下回る見込みである。
- ・ 医業費用は、経費(計画比▲545,622千円)及び減価償却費(計画比▲48,313千円)が計画を下回る見込みのため、計画よりも1,270,062千円抑えられる見込みである。

② 資本的収支年間見込み(税込)

(単位:千円)

区分	款	項	最終予算額 (計画)	年間 見込額	増減額 (達成度)	決算額 (前年度)	増減額 (前年比)
収入	資本 収入	長期借入金	9,233,000	9,903,000	670,000	6,563,000	3,340,000
		長期貸付金回収額	0	0	0	19,000	▲19,000
		その他収入	100,000	148,878	48,878	53,170	95,708
		計	9,333,000	10,051,878	718,878	6,635,170	3,416,708
支出	資本 支出	建設改良費	11,416,904	10,903,044	▲513,860	6,673,492	4,229,552
		償還金	3,089,169	3,094,337	5,168	2,683,874	410,463
		長期貸付金	289,950	231,650	▲58,300	189,550	42,100
		計	14,796,023	14,229,031	▲566,992	9,546,916	4,682,115
総収支			▲5,463,023	▲4,177,153	1,285,870	▲2,911,746	▲1,265,407

(工) 病院別収支実績

① 収益的収支年間見込み (税込)

(単位：千円)

款	項	総合	こころ	こども	法人計
営業 収益	医業収益	27,127,880	1,657,619	8,871,117	37,656,616
	運営費負担金収益	2,400,145	1,104,357	3,312,994	6,817,496
	その他営業収益	223,307	50,586	101,139	375,032
	小計	29,751,332	2,812,562	12,285,250	44,849,144
営業 外益	運営費負担金収益	87,384	28,047	67,073	182,504
	その他営業外収益	220,156	7,637	42,231	270,024
	小計	307,540	35,684	109,304	452,528
臨時利益	臨時利益	0	0	0	0
収益計 (予算額※<計画>)		30,058,872 (30,922,641)	2,848,246 (2,825,361)	12,394,554 (12,637,073)	45,301,672 (46,385,075)
(増減額)		(▲863,769)	(22,885)	(▲242,519)	(▲1,083,403)
営業 費用	医業費用	29,340,029	2,493,766	11,665,693	43,499,488
	一般管理費	243,918	21,840	98,297	364,055
	小計	29,583,947	2,515,606	11,763,990	43,863,543
営業 外用	財務費用	171,217	43,849	128,711	343,777
	その他営業外費用	292,027	10,505	65,152	367,684
	小計	463,244	54,354	193,863	711,461
臨時損失	臨時損失	202,967	2,840	49,752	255,559
費用計 (予算額※<計画>)		30,250,158 (31,095,472)	2,572,800 (2,697,896)	12,007,605 (12,378,402)	44,830,563 (46,171,770)
(増減額)		(▲845,314)	(▲125,096)	(▲370,797)	(▲1,341,207)
経常利益 (予算額※<計画>)		11,681 (31,796)	278,286 (131,365)	436,701 (360,901)	726,668 (524,062)
(増減額)		(▲20,115)	(146,921)	(75,800)	(202,606)
当期純損益 (予算額※<計画>)		▲191,286 (▲172,831)	275,446 (127,465)	386,949 (258,671)	471,109 (213,305)
(増減額)		(▲18,455)	(147,981)	(128,278)	(257,804)

- 総合病院の経常利益は11,681千円で、計画を20,115千円下回る見込みである。これは、手術件数が増加したことに加え、一般病棟、重症系病棟（ERHCU、ICU、HCU）の稼働率が向上したことにより医業収益が増加したが、これに伴い人件費や診療材料費等が増加したことが主な要因である。
- こころの医療センターの経常利益は278,286千円で、計画を146,921千円上回る見込みである。これは、外来延患者数の増加により医業収益が計画を16,391千円上回る見込みであることに加え、経費の減等により費用が計画を125,096千円下回る見込みであることが主な要因である。
- こども病院の経常利益は436,701千円で、計画を75,800千円上回る見込みである。これは、経費の節減努力等により費用が計画を370,797千円下回る見込みであることが主な要因である。

② 資本的収支年間見込み (税込)

(単位：千円)

款	項	総合	こころ	こども	法人計
資本 収入	長期借入金	9,114,000	25,000	764,000	9,903,000
	長期貸付金回収額	0	0	0	0
	その他収入	147,531	0	1,347	148,878
	計	9,261,531	25,000	765,347	10,051,878
資本 支出	建設改良費	10,071,576	44,040	787,428	10,903,044
	償還金	1,675,938	468,212	950,187	3,094,337
	長期貸付金	190,280	10,342	31,028	231,650
	計	11,937,794	522,594	1,768,643	14,229,031
総	収 支	▲2,676,263	▲497,594	▲1,003,296	▲4,177,153

- 29年度の建設改良費は10,903,044千円で、その内訳は、3病院の器械備品等資産購入が4,837,134千円(A)、建設改良工事が6,065,910千円(B)となった。(A)の主なものとしては、総合病院で放射線治療装置C T同室型を整備し、(B)の主なものとしては、総合病院において先端医学棟建築工事を実施したほか、同病院で立体駐車場建築工事等、こども病院で本館リニューアル改修、院内保育所移転新築工事等を実施する見込みである。
また、長期貸付金231,650千円は、看護師確保対策として、当機構に就職を希望する看護学生に対して修学資金の貸付を行ったほか、職員の育成及び資質向上等を目的に、職員に対し資格等の取得に必要な資金の貸付を行ったものである。

(オ) 決算指標年間見込み<3病院計> (税込)

区分	項目	計画	実績	増減
収 支 構 造	経常収支比率 (%)	101.1	101.6	0.5
	医業収支比率 (%)	86.5	86.6	0.1
収 入 構 造	病床稼働率 (%)	88.8	86.9	▲1.9
	入院患者1人1日当たり単価 (円)	73,559	73,085	▲474
	外来患者1人1日当たり単価 (円)	17,721	17,631	▲90
費 用 構 造	職員給与比率 (%)	57.2	57.3	0.1
	材料費比率 (%)	30.5	31.1	0.6

※患者1人1日当たり単価は、調定額ベースで算定。病床稼働率は、3病院の稼働病床数で算定。

- 収支構造の各指標は、経常収支比率が第2期中期計画の数値目標である100%を上回る101.6%で、計画を0.5ポイント上回る見込みである。また、医業収支比率についても計画を0.1ポイント上回る見込みである。
- 収入構造では、入院患者1人1日当たり単価は計画を474円下回る見込みであり、外来患者1人1日当たり単価についても、計画を90円下回る見込みである。収益確保の取り組みとしては、総合病院では、先端医学棟の稼働に伴う手術件数の増加や入退院センターによる効率的なベッドコントロールを実施し、こども病院では新生児病棟間(NICU・GCU)における積極的な退院支援と効率的なベッドコントロールを実施している。
- 費用構造では、職員給与比率、材料費比率はそれぞれ0.1ポイント、0.6ポイント計画を上回る見込みである。

【収支構造】

- ・ 経常収支比率 $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$
病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するための指標で、適正な区分負担を前提として100%以上が望ましい。
- ・ 医業収支比率 $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$
医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標で、100%以上が望ましい。

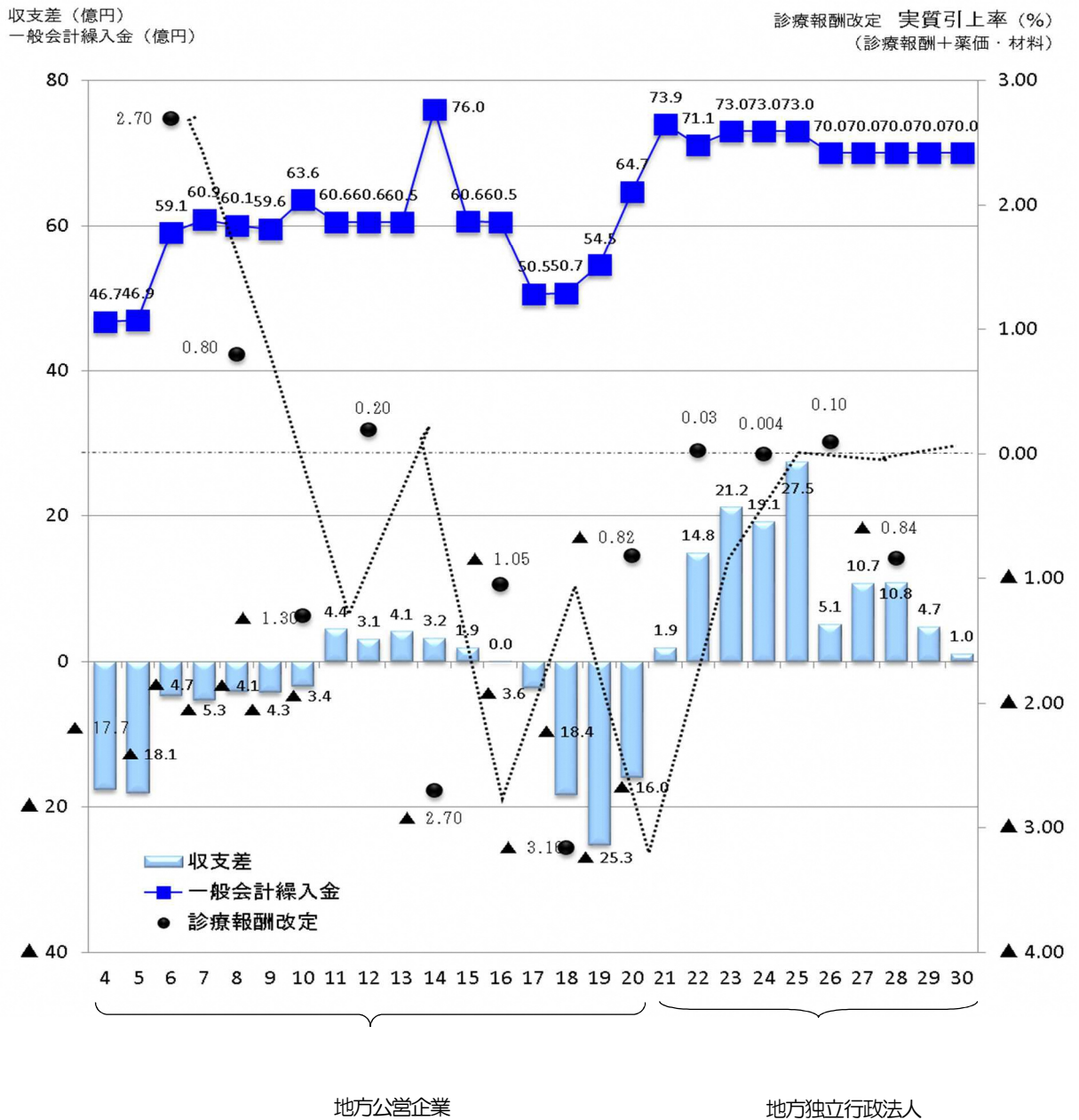
【収入構造】

- ・ 病床稼働率 $\text{年間延入院患者数} \div \text{年延病床数 (稼働病床} \times \text{歴日数)} \times 100$
病院の施設が有効に活用されているか判断する指標である。
- ・ 入院患者1人1日当たり単価 $\text{入院収益} \div \text{年延入院患者数}$
- ・ 外来患者1人1日当たり単価 $\text{外来収益} \div \text{年延外来患者数}$
病院の収入分析をするうえで基本的な指標。収入を増加させるため、患者数(量的要素)と1人当たりの収入(質的要素)が重要となる。

【費用構造】

- ・ 職員給与比率(職員給与費対医業収益比率) $\text{職員給与費} \div \text{医業収益} \times 100$
病院の職員数等が適正であるか判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントである。
- ・ 材料費比率(材料費対医業収益比率) $\text{材料費} \div \text{医業収益} \times 100$
この比率が高い場合、材料費の購入価格(方法)を見直し、材料費の削減を図る必要がある。(薬品・診療材料・その他)

(カ) 決算状況の推移 (収支と繰入金(県負担金)・診療報酬の改定) (3病院計)



- ※平成 29、30 年度は見込み
- ※平成 14 年度の一般会計繰入金 75.98 億円には、がんセンター開院準備経費分 15.44 億円を含む。
- ※平成 17 年度から平成 19 年度までは繰入金 10 億円を抑制 (県財政事情を勘案)。
- ※平成 21 年度から地方独立行政法人へ移行したため、一般会計繰入金は運営費負担金に名称変更。
- ※平成 22 年度の診療報酬改定率は政府発表の+0.19%の後、薬価部分に追加された後発品のある先発品の価格引下げ分▲0.16%を加味して実質的な改定率を+0.03%とした。
- ※平成 24 年度の診療報酬改定率は薬価部分を市場価格の下落を反映して 1.375%引き下げの一方、医師の診療行為や入院料などの本体部分は 1.379%引き上げた結果、実質的な改定率は+0.004%となった。
- ※平成 26 年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定を 0.63%引き下げの一方、本体部分を 0.73%引き上げた結果、全体改定率は+0.10%となった。(消費税率引上げ対応分を除いた実質改定率は▲1.26%)
- ※平成 28 年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ 1.22%、0.11%引き下げの一方、本体部分を 0.49%引き上げた結果、全体改定率は▲0.84%となった。

(キ) 職員の状況 (各年度4月1日現在)

① 正規職員

(単位：人)

区分	総合		こころ		こども		本部		計	
	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29
医師	144	157	12	12	89	91	-	-	245	260
歯科医師	4	3	-	-	1	1	-	-	5	4
看護師	748	804	114	115	453	449	2	2	1,317	1,370
看護師	744	800	113	114	452	449	2	2	1,311	1,365
准看護師	4	4	1	1	1	-	-	-	6	5
医療技術	211	208	26	26	83	81	-	-	320	315
事務	51	52	13	13	28	28	27	25	119	118
計	1,158	1,224	164	166	654	650	29	27	2,006	2,067

※アソシエイトを含む。

② 有期職員

(単位：人)

区分	総合		こころ		こども		本部		計	
	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29
医師	94	91	5	5	49	49	1	1	149	146
歯科医師	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
看護師	71	69	14	13	13	12	-	-	98	94
看護師	70	68	11	12	12	11	-	-	93	91
准看護師	1	1	3	1	1	1	-	-	5	3
医療技術	28	31	4	5	15	16	-	-	47	52
事務	123	151	15	14	50	52	7	8	195	225
補助職員	99	93	10	11	24	23	1	1	134	128
計	415	435	48	48	151	152	9	10	623	645

※補助職員：看護助手、薬剤助手、放射線助手、検査助手等

※短期間特別研修医は含まない。

(ク) 平成30年度職員の採用状況 (H29採用試験実施状況) (H29.11.1現在)

- ・看護師の採用については、定期募集を年間4回、経験者募集を年8回計画し、募集を行った。また、県立総合病院における看護師を確保するため、平成25年10月より看護師の紹介業者を通じた採用をしている。
- ・平成29年度においては、平成27年度、平成28年度に引き続き、看護師確保対策の推進を図るため、人材確保対策本部会議を実施した。本会議において、機構幹部職員が直接協議したことで、きめ細やかな対策を迅速に実施することができ、看護師採用数の大幅な増加につながった。(H26 108人⇒ H27 149人、H28 136人(アソシエイト5人を含む)、H29 112人(H29.11.1現在))
- ・人材確保対策会議による対策例としては、修学資金の拡充の継続(貸与時期2期制等)、支度金制度の実施、病院見学会の旅費の拡充(市外 最大5万円)、静鉄電車・バス等へのポスター掲載、JR静岡駅への電照公告掲載等があげられる。
- ・また、看護学生向けに就職情報を提供する民間事業者が主催する合同就職説明会への参加や就職情報サイトへの情報掲載等を積極的に行うと伴に、看護師就職説明会において、看護学生を集めるために看板等の作成やノベルティの配布を行った。
- ・看護師確保対策を積極的に実施した結果、平成29年度看護師採用試験における応募が盛況となり、年度途中で採用数が確保できたため、当初計画していた第4期試験の実施を見送った。

- ・医療技術については15人（薬剤師（一般）3人、診療放射線技師（一般）1人、診療放射線技師（医学物理士）1人、臨床検査技師（一般）1人、臨床検査技師（経験者）1人、臨床工学技士3人、栄養アソシエイト1人、言語聴覚アソシエイト2人、臨床検査アソシエイト2）を確保した。
- ・事務については、3人（医事経験1人、アソシエイト2人）を確保した。

(単位：人)

区 分	H29 【H30 採用】	H28 【H29 採用】	差引
看 護 師	112	136	▲24
事 務	3	1	2
医 療 技 術	15	2	13
計	130	139	▲9

※前倒し採用を含む。

※H29【H30採用】は、H29.11.1時点

平成28～29年度 職員数の推移

(単位：人)

区 分	H28.4.1 現員数	28年度中 採用者数	28年度中退職者数		H29.3.31 現員数	H29.4.1 採用者数	H29.4.1 現員数	
	a	b	c	うちH29.3.31 退職者数 d	e=a+b-c+d	f	g=e-d+f	
医 師	正 規	250	12	28	20	254	30	264
	有 期	149	4	57	52	148	48	144
	計	399	16	85	72	402	78	408
看 護 師	1,317	21	81	34	1,291	113	1,370	
医 療 技 術	320	0	7	5	318	2	315	
事 務		119	0	4	2	117	3	118
	うちプロパー	65	0	4	2	63	1	62
計	2,155	37	177	113	2,128	196	2,211	

※アソシエイトを含む（H28 事務2人 H29 看護5人、医療技術1人、事務2人）

※正規医師には、歯科医師、自治医初期研修医、へき地代診医師を含む

※有期医師の契約は1年更新、短期間特別研修医は除く

(2) 総合病院

<理 念>

「信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います」

全人的医療：身体、精神、心理、生活様式などを含めた総合的な視点から、患者さん自身の全体的な健康回復を目指す医療

<基本方針>

- 1 医療を受ける人々の立場に立ち、説明に基づく心のこもった医療を行います。
- 2 県内の中核病院として高度医療や先進的医療に取り組み、地域医療を支援します。
- 3 救急医療、災害医療、へき地医療、結核医療などの政策医療を積極的に担います。
- 4 将来の医療を担う質の高い人材を育成します。
- 5 快適な職場環境の整備と透明性の高い健全な病院運営に努めます。

<総 括>

総合病院は、県内医療機関の中核的病院として、各疾患の総合的な医療をはじめ、高度・専門医療や救急・急性期医療を提供している。

平成 29 年度も引き続き、循環器病センター機能を活かした 24 時間 365 日体制での高度な専門的医療の提供、がん疾患患者に高度な集学的治療の提供、高度救命救急センターとして重症な患者への救急医療提供を主要事業の三本柱として取り組んでいる。

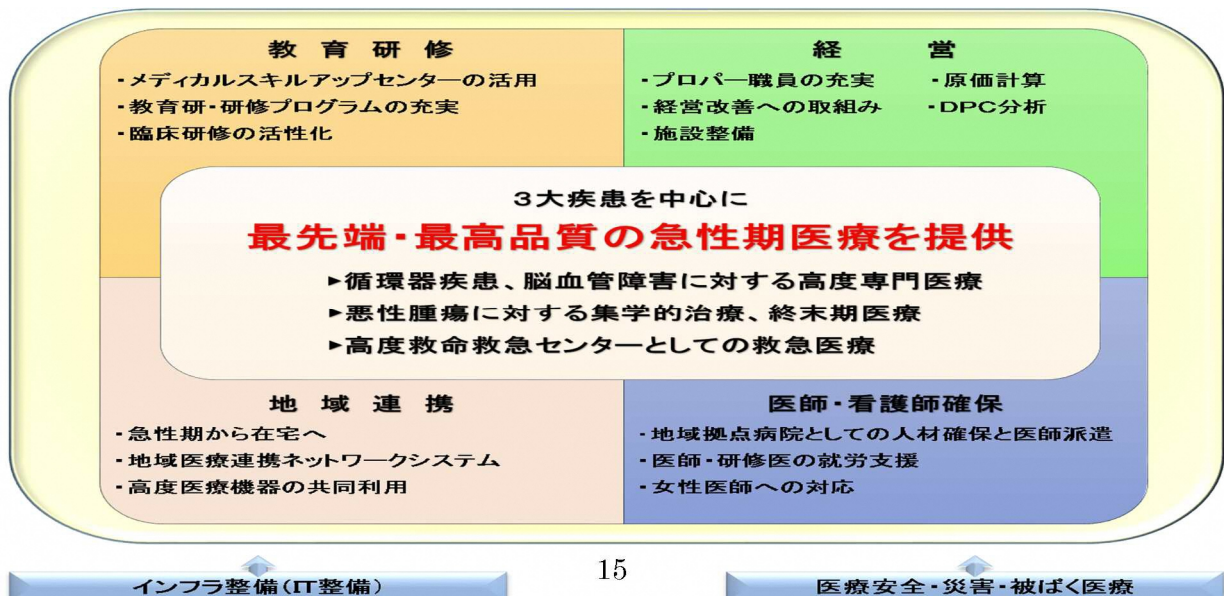
また、地域の中核的病院として、急性期を担当する機能に特化し、機能分担を進めるため、地域の医療機関との連携を強化し、紹介・逆紹介を推進している。さらに高度な医療機器を地域全体で利用できるように、共同利用の取り組みを進めた。

平成 29 年 9 月に最先端の治療機器、臨床研究の設備が整った先端医学棟が稼動し、「治療」、「教育」、「研究」の三つの役割・機能を強化している。

医療内容の高度化、手術件数の増加、高額薬剤の使用（がん治療薬：オプジーボ等）に加え、集中治療系病棟（ERHCU、ICU、HCU）の稼働率向上、入院料加算算定延べ件数の増加、施設基準の積極的な取得及び維持、各科の稼働状況にあわせた病床再編などに取り組むことにより、診療単価、入院延患者数、入院収益ともに昨年度を上回る見込み。また、外来延患者数、外来収益についても昨年度を上回る見込み。

今後、県立総合病院が目指す病院像（図 1）のとおり、病院が所有する各種機能を強化・連携し、県立病院としての機能向上を一層図ることとしている。

県立総合病院が目指す病院像（図 1）



(3) こころの医療センター

<理 念>

安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも

<基本方針>

- 1 患者さんの人権と尊厳を守ります。
- 2 24時間365日、精神科救急医療を提供します。
- 3 最新の知識と技術を取り入れた高度専門医療を提供します。
- 4 手厚いチーム医療によって早期退院を目指します。
- 5 在宅医療とリハビリテーション、社会参加を支援します。
- 6 社会資源を開拓し、連携を強化します。
- 7 司法精神医療、災害医療などの公益医療に主体的に参加します。
- 8 社会人・組織人・医療人としての人材育成に努めます。
- 9 広い視野に立って研鑽を重ね、積極的に社会へ情報発信します。
- 10 健全で透明性の高い病院経営を目指します。

<総 括>

こころの医療センターでは、日本トップレベルの「精神科救急・急性期医療」を提供するため、「救急・急性期医療の充実」、「在宅医療の拡充」、「高度な医療技術の導入」及び「司法精神医療の充実」を重点的に推進し、目標とする精神科医療の体制整備（将来構想（図2）参照）に取り組んでいる。

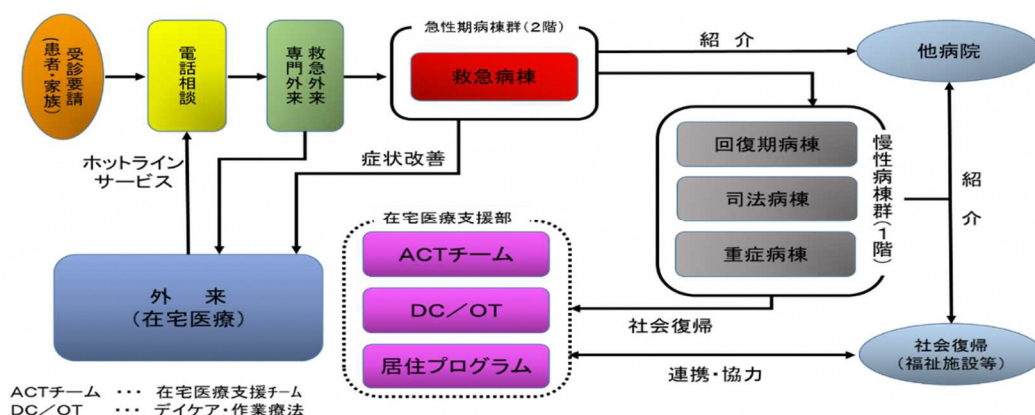
平成22年度より急性期病棟群（救急及び急性期病棟）を中心に救急・急性期患者の受け入れを行い、それを後方的に支援する慢性病棟群（回復期及び慢性重症病棟）との機能分化を進め、平成25年度には急性期病棟を救急病棟に移行する等、診療体制を強化した。平成28年度には、南1病棟の一部個室化運用の開始により、救急病棟、回復期病棟における病棟間の連携強化を図り、今年度も引き続き効率的な病棟運営に努めている。

一方、精神科における医療は、「入院医療中心から地域生活中心へ」という方針が世界的趨勢であることから、在宅医療支援部門を強化し、多職種チームによる地域生活での支援体制の整備と長期入院者の退院促進に取り組んでいる。

あわせて、退院後の安定的な生活を維持し、再入院を防止することを目的に、患者に対する心理・社会的治療に積極的に取り組んでいる。

また、クロザピンや修正型電気けいれん療法（m-ECT）など、高度な医療の導入に積極的に取り組むとともに、医療観察法指定入院医療機関として安定した運営を継続するなど、県内精神医療の中核病院としての役割を果たすべく取り組んでいる。

こころの医療センター診療体制整備の将来構想（図2）



(4) こども病院

<理 念>

「私たちは、すべての子どもと家族のために、安心と信頼の医療を行います。」

<基本方針>

「患者中心の医療サービスの継続」

「地域の医療機関と連携し、診断・治療が困難なこどもの患者へ
質の高い効果的な医療を提供」

こども病院が目指す方向 (図3)

- | | |
|------------|--------------------|
| 1 専 門 病 院 | 安全を重視した質の高い医療 |
| 2 教 育 | 教育内容の充実が最大目標の一つ |
| 3 地 域 連 携 | 相互支援に基づいた地域医療連携 |
| 4 効率的な病院経営 | 独善に陥らない標準的な経営と改善努力 |
| 5 働きやすい病院 | スタッフの満足度が高い労働環境 |
- *平成24年4月改定



<総 括>

こども病院は、昭和52年度の開院以来、静岡県の地域医療、小児医療に貢献するという設立趣旨に則り、高度かつ先進的な医療を実践している。

現在では、県内小児医療の中核病院として、循環器疾患医療、小児救急医療、周産期医療、小児がん医療、児童精神科医療を中心に、すべての小児の健康問題に対応可能な小児専門総合医療施設として、質の高い医療を県民に提供している。

平成29年度は、当院の多職種で構成される抗菌薬適正使用に特化したチーム (SAT) の抗菌薬処方に介入による抗菌薬処方の削減及び耐性菌を抑制する取組みが、「第1回薬剤耐性 (AMR) 対策普及啓発活動表彰」において表彰された。

また、国際交流において、10月には以前より交流のある中国の浙江大学医学院附属儿童医院から研修医を受け入れ、11月には院長など当院訪問団が儿童医院を訪問し、当院と友好協定を締結するなど、積極的な交流を行っている。

3 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 医療の提供

ア 総合病院

○ 業務実績を示す各種指標

- 入院延患者数、入院単価ともに、年度計画（以下「計画」）を下回る見込みである。外来延患者数は年度計画を下回る見込みであるが、外来単価は計画を上回る見込みである。年間収入は計画額を下回る見込みだが、経常利益は計画を上回る見込みである。入院収益の増加要因としては、心臓血管外科や循環器内科を中心に診療内容が高度化したことや、集中治療系病棟（ERHCU、ICU、HCU）の入院料加算算定延べ件数が増加、入退院センターを中心に病床再編を実施、各種施設基準の新規取得、ランクアップの効果等が挙げられる。また、外来単価増については、外来化学療法の数が増加、高額薬剤（がん治療薬：オプジーボ等）の使用、高度医療に取り組んだ効果によるものである。

平成 29 年度 業務量及び単価等年間見込み

区分			年度計画	年間見込	増減	達成率 (%)
入院	一般病床	入院延患者数 (人)	229,549	225,296	▲4,253	98.1
		病床稼働率 (%)	95.0	93.2	▲1.8	98.1
		平均在院日数 (日)		11.7		
	結核病床	入院延患者数 (人)	6,752	6,273	▲479	92.9
		病床稼働率 (%)	37.0	34.4	▲2.6	93.0
		平均在院日数 (日)		77.4		
患者 1 人 1 日 当たり 単 価 (円)		78,499	77,458	▲1,041	98.7	
外来	外来延患者数 (人)	440,610	434,048	▲6,562	98.5	
	患者 1 人 1 日 当たり 単 価 (円)	19,800	19,941	141	100.7	

※患者 1 人 1 日 当たり 単 価 は、税込金額(調定額ベースで算定)。病床稼働率は、一般病床 662 床で算定、結核病床は 50 床で算定

- 紹介率、逆紹介率ともに計画を大きく上回った。ともに高い水準を実現し、病診・病病連携がいつそう進んでいる。

平成 29 年度 紹介率・逆紹介率年間見込み

(単位: %)

区 分	年度計画	年間見込	増 減
紹 介 率	80.0	89.4	+9.4
逆 紹 介 率	90.0	161.8	+71.8

※紹介率・逆紹介率の算定方法は、用語解説を参照。

- ・ 医療の提供については、急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患医療、がん医療、救急医療の3本を重点に据えるとともに、地域医療の支援及び医療技術者の研修に重点的に取り組んでいる。平成29年3月の厚生労働省告示により、全国1,668のDPC病院（急性期病院）の中で引き続き全国140病院のⅡ群の一つを維持し、大学病院本院（Ⅰ群）と同等の高密度診療及び医師研修を行っている病院として選ばれた（県内では当院を含めて5病院）。
- ・ 急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患医療については、ハイブリッド手術を整備し、平成26年10月より運用を開始した。最新の治療器材と鮮明な画像診断を併用し、ステントグラフト治療やTAVI（経カテーテル大動脈弁治療）など、循環器分野における先進的な治療を行った。
- ・ 重症度の高い患者に対して、集中治療病棟で濃厚治療を行い施設基準のランクアップを図った。ランクアップに伴い、入院診療収益が増加した。

循環器病センター



救命救急センター（1F）



ハイブリッド手術室（2F）



CCU（3F）

- ・ がん医療については、総合相談センターに専従で認定看護師を配置し、相談体制を強化している。放射線治療の充実を目指してリニアックを3台設置し、稼働している。このほか、地域の医療者にも開かれたキャンサーボード及びがん研修会を定期的で開催し、PETセンターの共同利用を進めるなど、地域がん診療連携拠点病院としての機能強化に努めている。
平成29年9月に国立がん研究センターから公表された「がん診療連携拠点病院院内がん登録2015年全国集計報告書」において、当院の登録件数2,906件は全国427施設で46番目に多い登録件数であった。手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を導入し、平成26年2月から運用を開始した。泌尿器領域の前立腺がん手術、膀胱全摘除手術（全額自費診療）、腎部分切除手術、婦人科領域の子宮頸がん手術、大腸がん（主に直腸がん）の手術を行った。また、平成28年12月には、全国5番目（大学病院以外では全国初）となる、産婦人科領域のダ・ヴィンチを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術の施行が先進医療で承認された。
- ・ 平成27年度より先端医学棟の建設に着手し、平成29年度の7月に竣工を迎え、9月より運用を開始している。先端医学棟では、手術や放射線治療を更に発展させ、高度・先端医療を提供する県内の中核病院として機能の強化、患者サービスの向上を図るため、手術室を県内最多となる22室に拡充し、最新鋭の医療機器を配置してロボット手術やハイブリッド手術などを含む手術件数を伸ばしている。
また、最新鋭の放射線治療機器に対応できる大型の放射線治療室4室を整備し、これまで以上に体への負担が少なく、かつ高精度な放射線治療を実施している。
研究では、医師が診療業務をしながら臨床研究にも取り組むことができる「リサーチサポートセンター」を設置。また、乳幼児期の難聴や、人工内耳の装用による脳の発達のメカニズムなどについて研究する「きこえとことばのセンター」（静岡県乳幼児聴覚支援センター）も設けている。



<先端医学棟イメージ図>



<病院全景>



<先端医学棟1階 放射線治療室>



<先端医学棟1階 放射線治療待合>



<先端医学棟2階教育・研修部門 講義室>



<先端医学棟3階 手術ホール>



<先端医学棟4階 HCU>



<先端医学棟5階 ラウンジ>



＜第1立体駐車場完成イメージ図＞



＜救急車 日産NV400＞

- ・ 近年増加する外来患者に対応するため、平成 29 年 3 月に大型立体駐車場の工事発注を行った。平成 29 年 5 月に周辺工事を開始し、平成 30 年の 8 月末のオープンを予定している。
- ・ 救急医療については、平成 27 年 3 月に高度救命救急センターの指定を受けた。広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒等の特殊疾病患者に対する救命医療を行うために必要な診療機能を備えた。また、平成 26 年 6 月にドクターカーを導入、運用開始し、静岡市と運用に関する協定を結び、救命救急センターのスタッフが搭乗し、災害や事故の現場に急行する、又は搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始することにより、救命率向上に努めた。平成 27 年度末には、富士市及び富士宮市とも運用に関する協定を結び近隣地域にも活動の範囲を広げた。
- ・ 患者の寄付金を活用して 2 台目となる救急車を導入した。主に病院間の患者搬送や災害時の医療支援に使用することとしている。なお、この救急車は英国日産の NV400 で、日本での導入は初となる車両である。

イ こころの医療センター

○ 業務実績を示す各種指標

- ・ 延患者数については、入院は計画を下回る見込みであるが、外来は計画を上回る見込みである。単価については、入院、外来ともに計画を上回る見込みである。

平成 29 年度 業務量及び単価等年間見込み 【H28.9 月末までの実績による年間見込み】

区 分		年度計画	年間見込	増減	達成率(%)
入 院	入 院 延 患 者 数 (人)	55,956	55,190	▲766	98.6
	入院患者 1 人 1 日 当 たり 単 価 (円)	25,055	25,349	+294	101.2
	平 均 在 院 日 数 (日)		105.7		
	病 床 稼 働 率 (%)	89.1	87.9	▲1.2	98.7
外 来	外 来 延 患 者 数 (人)	38,942	40,392	+1,450	103.7
	外来患者 1 人 1 日 当 たり 単 価 (円)	5,872	6,104	+232	104.0

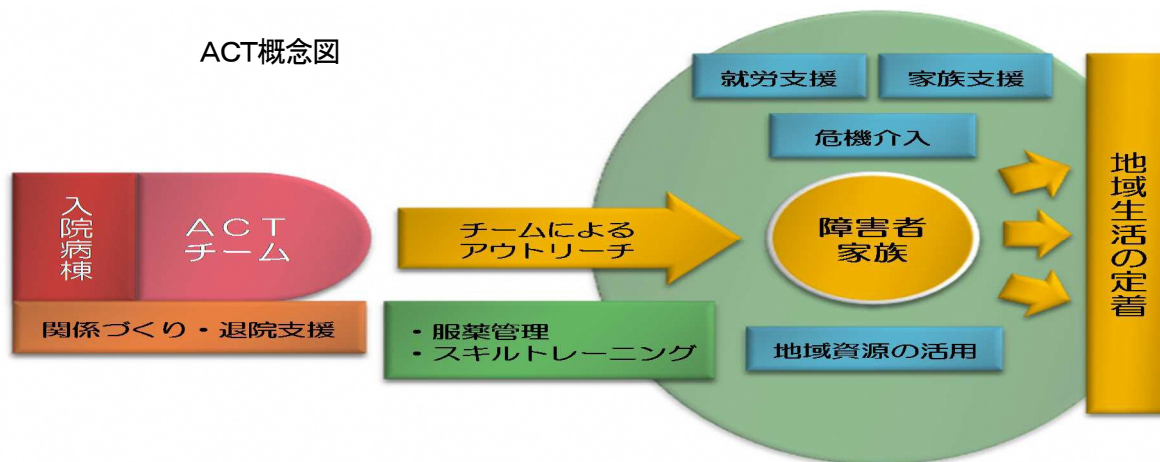
※患者 1 人 1 日 当 たり 単 価 は、税 込 金 額 (調 定 額 ベー ス で 算 定)。平 均 在 院 日 数 は、医 療 観 察 法 病 床 を 除 い て 算 定。病 床 稼 働 率 は、172 床 で 算 定。

- ・ 紹介率、逆紹介率とも計画値を下回った。今後も受入れ体制の充実や転院の促進に努めていく。

平成 29 年度 紹介率・逆紹介率年間見込み 【H28.9 月末までの実績による年間見込み】 (単位：%)

区 分	年度計画	年間見込	増 減
紹 介 率	56.0	55.6	▲0.4
逆 紹 介 率	36.0	30.9	▲5.1

- ・ 救急・急性期を中心とした診療体制の整備を図るとともに、包括的在宅医療支援体制モデルの構築や精神科救急相談体制の整備など、退院後の在宅支援を行うシステムを構築することで、「早期に集中的治療を行い、早期に社会復帰する」という体制づくりを継続して進めている。
- ・ 先端薬物療法（クロザピン）や高度な治療法である修正型電気けいれん療法（m-ECT）の実施など、医療水準の向上と重症患者の病状改善に積極的に取り組んでいる。
- ・ 退院後の安定した地域生活の維持、再入院の防止に向け、心理・社会的治療の一環として、患者に対する心理教育・家族教室に積極的に取り組んでいる。
- ・ 包括的在宅ケア（ACT）チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活支援モデルの構築を進めている。



- ・ 県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として本県関係の入院処遇対象者を受け入れており、機能の充実を図り、地域完結型の医療環境の形成を進めている。

ウ こども病院

○ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院については、延患者数は計画を下回る見込みだが、単価は計画を上回る見込みである。
- ・ 外来については、延患者数は計画を下回る見込みで、単価についても計画を下回る見込みである。

平成29年度 業務量及び単価等年間見込み

区 分		年度計画	年間見込	増減	達成率 (%)
入 院	入 院 延 患 者 数 (人)	82,000	79,545	▲2,455	97.0
	入院患者1人1日当たり単価 (円)	92,420	93,471	1,051	101.1
	平均在院日数 (日)		10.6		
	病 床 稼 働 率 (%)	82.9	80.4	▲2.5	97.0
外 来	外 来 延 患 者 数 (人)	107,000	106,200	▲800	99.3
	外来患者1人1日当たり単価 (円)	13,470	12,575	▲895	93.4

※患者1人1日当たり単価は、税込金額（調定額ベースで算定）。平均在院日数は、NICU、GCU、MFI CU、PICU、精神科、短期3を除いて算定。病床稼働率は271床で算定。

- ・ 病診連携や病病連携の強化により、紹介率・逆紹介率ともに計画を上回る見込みである。

平成 29 年度 紹介率・逆紹介率年間見込み

(単位：%)

区 分	年度計画	年間見込	増 減
紹 介 率	92.0	95.8	3.8
逆 紹 介 率	32.0	42.0	10.0

- ・ 全国初の小児循環器集中治療専門医を配置したCCU、カテーテル治療（アンプラッツァー）や遠隔エコー診断等の先進的治療など、循環器疾患に対する高度先進的医療の提供に努めている。
- ・ 循環器病棟に準重症患者を受け入れる病室を活用し、小児重症心疾患患者を受け入れる体制の拡充を図っている。
- ・ 自治体立病院では全国初、小児専門病院では全国2番目となる小児用補助人工心臓を導入しており、心臓移植が必要な小児患者の治療を移植直前まで可能とする体制を整備している。
- ・ 総合周産期母子医療センターの指定を受け周産期医療の中核を担い、ハイリスク胎児・妊婦、新生児に高度な先進的治療を提供している。
- ・ 静岡県小児がん拠点病院として、県内小児がん患者の半数以上に対応し、血液腫瘍の治療法である造血幹細胞移植を継続的に実施したほか、固形腫瘍については関係診療科の協働連携による「腫瘍カンファレンス」を開催して高度な集学的治療に取り組んでいる。
- ・ 小児救命救急センターの指定を受けている小児集中治療センター（PICU）と小児救急センター（ER）を中心に、24時間365日を通して、初期救急を含めた小児救急患者を受け入れている。
- ・ 厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に参画し、ネットワーク構築のため学校・地域との連携強化に努めるなど、県内の児童精神科医療における中核的な機能を発揮している。

救急の体制



ドクターヘリ



ドクターカー



小児救急センター

(2) 医療に関する技術者（医師、看護師等医療従事者）の研修を通じた育成と質の向上

ア 総合病院

- ・ 医療技術者の研修については、研修医の海外研修への派遣、看護師の認定看護師研修への派遣、県立大学との共同研究、メディカルスキルアップセンターを利用した研修の実施など、県立病院に相応しい医療技術の育成に努めている。特に医師の臨床研修については、平成27年度に卒後臨床研修評価機構（JCPEP）による臨床研修評価を受審し、当院の臨床研修体制が評価され、引き続き認定証の発行を受けた。また、平成29年度は、医師臨床研修マッチングを経て、募集定員24名中22名を確保した。

イ こころの医療センター

医療技術者の研修については、認定看護師研修の派遣等、精神医療の向上に資する人材の育成に努めている。特に認定看護師については、7名の精神科認定看護師と1名の感染管理認定看護師が在籍し、医療の質の向上に貢献している。

ウ こども病院

- ・ 専門家を招聘してセミナーや研修会を定期的開催するとともに、海外研修や認定看護師研修等に職員を積極的に派遣するなど、院内外の研修会等を通じて病院全体の医療技術の向上に努めている。
- ・ シドニー・ウエストメッド小児病院から定期的に医師や看護師を招聘するとともに、当院の研修医をウエストメッド小児病院に派遣するなど、国際交流を通じて最先端の医療技術の習得を図っている。
- ・ かねてから交流のある中国の浙江大学医学院附属児童病院から、10月には研修医の受け入れを行い、11月には院長を始めとした訪問団が児童病院を訪問し、当院との友好協定を締結するなど、積極的な交流を行っている。
- ・ 地域の医療機関等の看護師や看護学生等への継続的な実習研修や、医療関係者を対象とした講演会等を定期的開催し、職員だけでなく院外の医療従事者にも教育研修機能を開放している。

(3) 医療に関する調査及び研究

- ・ 総合病院では、臨床医学研究センターを平成25年12月24日に立ち上げた。また、平成26年8月9日に設立記念研究発表会を開催し、地域の医療関係者に臨床医学研究センター設立をPRした。また、H27.6月に客員研究員制度を創設し、平成27年度は4名、平成28年度は3名、平成29年度は3名の客員研究員を選任した。
- ・ 先端医学棟5階に、医師が診療業務をしながら臨床研究にも取り組むことができる「リサーチサポートセンター」を設置。この中には乳幼児期の難聴や、人工内耳の装用による脳の発達のメカニズムなどについて研究する「きこえとことばのセンター」（静岡県乳幼児聴覚支援センター）も設けている。
- ・ 医療機能の向上のため、医師の通常の診断治療業務との関連の中で確立された治療方法の導入や、実施に当たっての研究、各種疾患の追跡調査を行い、個々の技術の向上を図っている。
また、全職員に対して、新技術、知識習得のため各種研修会・講習会への参加、情報収集のための各種雑誌、図書の購入等を推進している。

【医学奨励研究の内訳】平成29年度

病 院	研 究 課 題	部 署	構 成 人 数
総 合	基礎疾患のない食欲不振高齢者の診断と予後に関する研究	救急科	3
	心臓血管血流解析シミュレーションを用いた慢性B型大動脈解離症例における偽腔血流の検討	心臓血管外科	2
	オフポンプ冠動脈バイパス術における術中コンバージョンのリスク解析	心臓血管外科	1
	院内での遺伝学的検査の導入による診療の質の向上	遺伝診療科	1
	周術期口腔機能管理の効果に関する臨床統計学的検討	歯科口腔外科	4
	原発性アルドステロン症における遺伝子変異の検討	高血圧研究部	4
	慢性閉塞性肺疾患に対する高吸収クルクミンの抗炎症効果に関する研究	臨床研究センター	2
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌におけるTSST-1産生制御機構の解明	消化器外科	2
	維持透析患者を対象とした妊娠および出産の全国調査	腎臓内科	11

病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
総 合	腎部分切除術における腎障害の定量的評価および腎予後予測	泌尿器科	5
	糖尿病神経障害における理学所見およびDPNチェックの有用性について	糖尿病・内分泌内科	11
	「抗菌薬TDMガイドラインにおけるVCM腎機能別投与設計ノモグラムの評価および初回トラフ値に影響を及ぼす因子の検討」	薬剤部	7
	アルツハイマー病患者の認知機能低下度とリンパ球ビタミンC濃度の関連に関する検討	神経内科	8
	周術期ランジオロール投与による食道癌手術における心房細動予防効果の検討	麻酔科・集中治療科	11
	散乱線補正処理および周波数処理を用いた腰椎手術における穿刺針の視認性向上に関する評価	放射線技術室	6
	遺伝子異常検出方法Fluorescent in situ hybridization (FISH) の恒常化に向けた研究、乳癌と胃癌を対象として、	病理学部	9
	非アルコール性脂肪肝炎 (Non-alcoholic steatohepatitis, NASH) における類洞壁細胞の免疫組織化学的研究	病理学部	8
	新規尿中バイオマーカーを用いた緊急血液浄化療法を要する症例の腎予後および生命予後の予測	腎臓研究科	8
	Calcineurin 阻害薬減量による腎機能改善は減量前の腎機能の影響を受けるか	腎臓内科	7
計	19	110	
こころ	クライシスプランの活用に関する研究	医 療 部	3
	心理教育プログラム受講者のデイケア移行ならびに社会復帰について	医 療 部	6
	当院におけるシクレスト舌下錠の使用状況について	薬 剤 室	4
	入院患者の精神科薬へ対する認識について	医 療 部	8
計	4	21	
こども	流体力学シミュレーションを用いた水痘症の病態解明	脳 神 経 外 科	1
	院内嘔吐下痢症における感染性腸炎ウイルス感染症の疫学調査	ICT/小児感染症科	5
	高頻度振動換気 (HFV) 中における呼気CO2濃度測定	新 生 児 科	2

	血液浄化を行う症例のサイトカインプロファイルに関わる研究	腎 臓 内 科	7
	全自動核酸抽出増幅検査システムを用いたマクロライド耐性 M. pneumoniae の検出系の構築とその有用性	検 査 技 術 室	6
	当院における嚥下食分類の作成	栄 養 管 理 室	9
	新生児における抗MRSA薬バンコマイシンの薬物治療モニタリング (TDM)	薬 剤 室	4
	重症心身障がい児の耐糖能障害の追跡調査	神 経 内 科	7
	Eosin-5-maleimide (EMA) による遺伝性球状赤血球の測定法の確立	血 液 腫 瘍 科	8
	PCRによる小児化膿性関節炎の起因菌同定	整 形 外 科	2
	MicroRNA in situ hybridization による胚細胞腫瘍の組織学的検討	病 理 診 断 科	4
病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
こども	医療機関における高校生に対する就学支援の現状に関する研究	地 域 連 携 室	6
	医師・看護師の合意形成に基づく新生児の予後改善のためのケアマニュアル改訂<第3版>	北 2 病 棟	8
	網羅的遺伝子検査法を用いた重症下気道炎における呼吸器ウイルスの同定	総 合 診 療 科	5
	二分脊椎においての日帰りMRIから超音波検査への移行の研究	脳 神 経 外 科	4
	子宮頸管内検体を用いた絨毛膜下血腫の予後判定に関する研究	産 科	4
	先天性サイトメガロウイルス感染症と自閉スペクトラム症の関連性に関する研究	発 達 小 児 科	1
	計	17	83

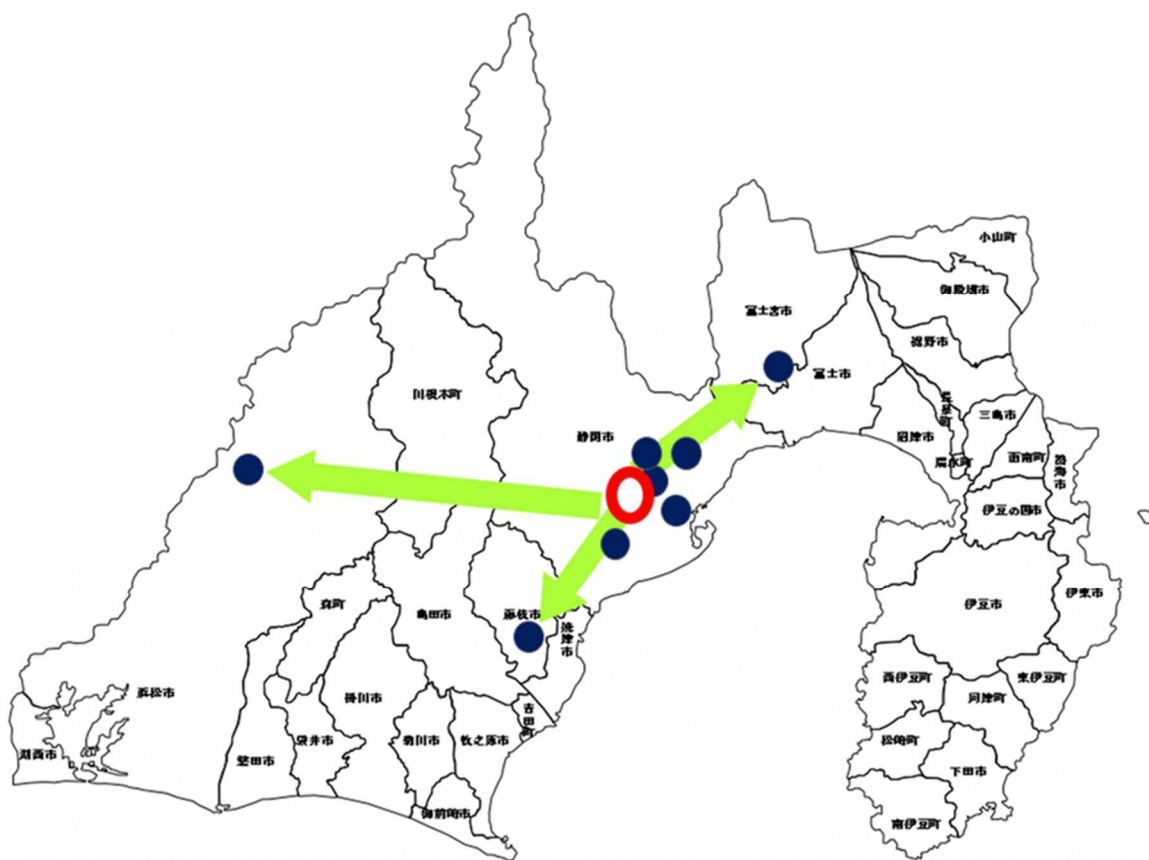
(4) 医療に関する地域への支援

ア 総合病院

地域医療の支援については、平成 29 年度 9 月末時点は、県立病院医師交流制度に基づき 8 医療機関（前年同期 9）に対して延べ 327 人（前年同期 285 人）の医師の派遣を行うとともに、PET や CT・MRI の高度医療機器の共同利用を推進した。

また、平成 22 年度総務省委託事業である「地域 ICT 利活用広域連携事業」により始めた「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」は順調に拡大し、平成 29 年 9 月末現在、開示施設は 18 病院、参照施設は 141 施設となっている。各地域の医師会とともに、診療情報共有のためのネットワークを推進している。

平成 29 年度 県立総合病院の医師派遣



イ こころの医療センター

地域医療の支援については、医師、看護師の講演会等への講師派遣等に取り組んだほか、医療観察法における鑑定の要請に協力する等、県内精神医療の中核病院としての役割を果たしている。

ウ こども病院

- ・ 小児科の基幹施設として、新専門医制度に対応した研修を行い適切に対応した。
- ・ 地域医療支援病院としての役割を果たすため、医師不足が顕著な公的病院や急病センター等計 8（前年同期）の医療機関に対して、平成 29 年 9 月末日時点で延べ 560 人（前年同期 570 人）の医師を派遣している。
- ・ 映像通信システムを通じて、浜松医科大学やマレーシア国立循環器病センターと定期的に症例検討会を実施している。また、県内 4 病院と連携して心エコー画像の遠隔診断を行うなど、映像情報を活用した地域医療機関等との連携及び支援を行っている。

- ・ 児童精神科医療におけるネットワーク構築のため、小中学校教諭を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を実施するなど、学校・地域との連携強化に努めている。
- ・ 県内の医師や看護師を対象とした症例検討会を開催するなど、地域の周産期医療の質向上と他医療機関との連携体制を強化している。
- ・ 地域の救急医療機関や消防機関を対象とした研究会を開催するなど、小児救急医療の体制強化を図っている。

(5) 災害等における医療救護

- ・ 災害拠点病院は、災害時に多発する重篤救急患者を受け入れ、自己完結型の医療救護チームを被災地に派遣し、地域医療機関への応急用資器材の貸し出し機能を有する病院であり、県下 21 病院が指定されている。
- ・ 総合病院は、基幹災害拠点病院に指定されており、災害拠点病院の機能をさらに強化した、要員の訓練や研修機能を有し、災害医療に関して県の中心的役割を果たす病院であることが求められている。
- ・ 総合病院とこども病院は、静岡市長から「静岡県医療救護計画」に基づき、救護病院（重症患者及び中等症患者の処置及び収容を行う病院）に指定されているほか、総合病院は、被ばく医療について、二次被ばく医療機関に指定されている。
- ・ 防災計画等の取組については、災害対応マニュアルの見直しを進め、東日本大震災以降の国の施策の見直しなどを反映した改訂を行うとともに、総合病院では、災害発生時の断水に備えるため、地下水を上水として活用できるような対策を実施した。改訂したマニュアルに基づき訓練を実施した。
- ・ 総合病院における被ばく医療については、福島第一原発の事故を受けて、平成 27 年度に国が原子力災害体制の見直しを行い、県が原子力災害拠点病院の指定に向けて整備を進めている。総合病院は指定に向けて関係機関が主催する講習会等を受講するなど、施設要件を満たす取り組みを行っている。
- ・ こころの医療センターは、地震や台風等による災害が発生した際、被災した病院独自では患者の身体、生命の安全確保が困難な場合に被災病院に対する人的支援を行うため、平成 26 年 8 月 28 日、宮城県立精神医療センター、千葉県精神医療センター、大阪府立精神医療センター、岡山県精神医療センター、島根県立こころの医療センター、山口県立こころの医療センター、計 7 病院と災害時における自治体精神科病院の相互支援に関する協定を締結している。また、平成 28 年 4 月に発生した熊本での地震の際には、県立こども病院との混成チームを含む計 2 チームの「心のケアチーム」を現地に派遣し、精神科医療における支援を行った。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 簡素で効率的な組織づくり

理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を、8 月を除く毎月開催し、意思決定の迅速化に努めている。

(2) 効率的な業務運営の実現

ア 機構全体

- ・ 法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮して、人物重視の採用試験を実施し、平成 28 年度事務職員として 1 名を採用した。
- ・ 未収金の圧縮を図るため、医療費に係る相談体制の充実、未収金回収業務を弁護士法人に委託するなどし、効率的な未収金対策を講じている。
- ・ 薬品費や診療材料費については、同種同効品の絞込みや、安価な材料への切替え、価格交渉の更なる拡充等の見直しを進め、経費節減・業務効率化に取り組んだ。

- ・ 地方独立行政法人制度のメリットを活かして契約の複数病院一括化及び複数年契約化を進める一方で、契約によっては分割して発注することによって競争性を高めるなど、柔軟に契約方法を変更することで経営改善を推進した。
- ・ 経費の節減のみならず、モニタリング制度（インセンティブ（契約期間の延長）の付与や業務内容が適切ではない場合の減額等が課せられている。）の適用などにより、業務の質の向上も図った。

イ 総合病院

- ・ 先端医学棟の開棟により、増設された手術室の効率的な運用に努めている
- ・ 平成 28 年 4 月に入退院センターを開設した。入退院センターでは、患者個々の社会的背景を捉え、入院前から退院後を見据え、一貫したサポート（入院前問診・オリエンテーション等）を行うことで、患者満足度向上と病棟看護師の業務量軽減を図った。また、空床情報の一元管理と、適切なベッドコントロールを行い、病床の再編や病床利用率の向上を図った。
- ・ 重症系病棟の算定率向上に向けて、医師を中心に効率的な病棟運用に努めている。
- ・ SPDで血管造影室「準備キット」の運用を開始し、看護師が物品を取り揃える手間を削減した。
- ・ 自治体共済会MRPベンチマークシステムを用いて、卸・メーカーに対して診療材料の価格交渉や品目の切替えを行った。
- ・ 平成 29 年 9 月より、共同購入組織である「一般社団法人日本ホスピタルアライアンス（略称：NHA）」に加盟し、より一層の診療材料費の低減を行った。

ウ こころの医療センター

- ・ 平成 28 年 2 月に導入した電子カルテの活用により、情報の共有によるチーム医療及び療育の推進、並びに業務の効率化・省力化を進めている。

エ こども病院

- ・ 医事委託業者と共同で定期的に勉強会等を実施し、各診療科との連携を密にして確実に診療報酬請求を行うなど、診療収益の増加に努めている。
- ・ 診療材料の単価、品目、業者等の見直し、消耗品の節約、委託契約の業務内容の見直し、職員の時間外勤務の適正化等により、経費削減を行っている。
- ・ 毎月の管理会議において病院の経営状況を報告するなど、院内で経営に関する情報を共有することにより、職員全体の経営意識の向上を図っている。

(3) 事務部門の専門性の向上

- ・ 事務職員基礎研修、会計研修等を実施し、業務関連知識の向上を図った。
- ・ 診療情報管理士資格の取得支援制度を設け、資格者の増員を図った。
- ・ 業務の標準化を図るため、事務部門の業務マニュアル整備・活用に向けた取り組みを実施し、あわせて、院内コミュニケーションシステム上に集約したマニュアルを公開し、情報の共有化を図った。

(4) 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成

業務改善の推進として、機構の業務改善運動推進制度を設置しており、業務改善に積極的に取り組む組織風土の醸成に努めた。

(参考) 用語解説

用語 (50音順)	解 説
ACT	ACTとは、Assertive Community Treatment(包括型地域生活支援プログラム)の略で、重い精神障害を持つ人たちに対して、住み慣れた地域で支援する、集中型・包括型ケースマネジメントプログラム。
CCU	CCUとは、Coronary Care Unitの略で、冠疾患集中治療室と呼ばれ、主に心筋梗塞などの冠動脈疾患の急性危機状態の患者を収容し、専門の医師・看護師により、厳重な監視モニター下で持続的・集中的に管理・治療する部門。 ※こども病院では、CCUをCardiac(心臓病の)ICUと位置付けている。
DMAT	DMATとは、Disaster Medical Assistance Teamの略で、医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)に活動できる機動性を持ち、専門的な訓練を受けた医療チーム(DMAT:ディーマツト)
DPC	DPCとは、Diagnosis Procedure Combinationの略で、診断群分類のこと。これに基づく診断群分類包括評価(しんだんぐんぶんるいほうかつひょうか)により、日本の急性期入院医療費の定額支払制度が平成18年から(試行は平成15年から)運用されている。(総合:H20.7導入、こども:H21.7導入)
ESCO	ESCOとは、Energy Service Companyの略で、1970年代アメリカで始まり、1990年代後半に日本に導入された省エネ化を目指す事業で、省エネルギーに関わる一連の業務を一括して請け負うことや、計画した省エネ効果が出なかった場合、省エネ相当分を顧客に補償する義務を負うことなどが特徴。
HCU	HCUとは、High Care Unitの略で、集中治療室に準ずる機能を持つ高度な治療室。看護配置数は集中治療室の1/2であるが、一般の病棟よりはるかに多いため両者の中間に位置する病室。集中治療室から一般病棟への転室は落差が大き過ぎ、移行が難しいため、一般病棟への移行を円滑に行うために設置される。手術後の患者や集中治療を脱した重症患者の経過観察を受け持つことが多い。
ICU	ICUとは、Intensive Care Unitの略で、集中治療室と呼ばれ、内科系・外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し、強力かつ集中的に治療看護を行う部門。
m-ECT	m-ECTとは、修正型電気けいれん療法で麻酔科医による全身麻酔の下、筋弛緩剤の投与により体幹のけいれんを起こさせないもので、うつ病、躁うつ病、統合失調症などの治療に用いられており、従来の有けいれん療法に比べ、安全で有効な治療法とされている。
MFICU	MFICUとは、Maternal Fetal Intensive Care Unitの略で、重い妊娠中毒症、前置胎盤、合併症妊娠、切迫早産や胎児異常など、ハイリスク出産の危険度が高い母体・胎児に対応するための設備と医療スタッフを備えた集中治療室
MSW	MSWとは、Medical Social Workerの略で、疾病を有する患者が、病気になることで生じる生活上の様々な困難に対して、自立した生活を送ることができるように、社会福祉の立場から、患者の生活全体を支援していく専門家のこと。
NICU	NICUとは、Neonatal Intensive Care Unitの略で、未熟児をはじめとするハイリスク新生児は専門的な医療機関で集中治療・管理する必要があり、このような医療を展開する場所全体を一般的に広義の新生児集中治療室と呼んでいる。
PCI	血管に刺入する管(カテーテルという)を用いて冠動脈疾患に様々な治療を行うことを総称して(経皮的)冠動脈インターベンション(PCI)と呼ぶ。 風船療法(カテーテルの先端の風船(バルーン)で狭窄した冠動脈を拡げる)や経皮的冠動脈ステント留置術(拡げた冠動脈にステントという金属のコイルを内側に張り付けて血管を支え再狭窄を防ぐ)やDCA(カッターで狭窄病変部位を削り取り拡げる治療法)やローターブレードというドリルのような先端を回転させて病変を削り取るなどの治療法がある。
PET	PETとは、Positron Emission Tomography(ポジトロン・エミッション・トモグラフィ)の略で、PET検査とは、陽電子(ポジトロン)を放出する放射性核種(ポジトロン核種)で標識した薬剤を静脈から注射して、細胞の活動状態を画像化する診断技術である。 がん等の診断、治療効果・治療後の経過観察に有用な最先端の検査法で、同様にがんの早期発見にも有用である。

用語（50音順）	解 説
P I C U	P I C Uとは、Pediatric Intensive Care Unitの略で、小児集中治療室と呼ばれ、専属の専門医が配置され独立病棟として24時間小児重症患者を受け入れている。
P S W	P S Wとは、Psychiatric Social Workerの略で、精神保健福祉士と言い、社会福祉学を学問的基盤として、精神障害者の抱える生活問題や社会的問題の解決のための援助や、社会参加に向けての支援活動を通じて、患者を支援していく専門家のこと。
S P D	S P Dとは、Supply Processing Distributionの略で、物品・物流の包括的管理業務のことを指す。物品の発注、検収、入庫、払出、搬送、格納、出庫、在庫確認、棚卸を一元管理すること。
T A V I	T A V Iとは、Transcatheter Aortic Valve Implantationの略で、「経カテーテル大動脈弁留置術」と訳されます。T A V Iは、胸を開かずに、心臓が動いている状態で、カテーテルを用いて人工弁を患者の心臓に装着する治療法である。
葵カード	連携安心カードともいい、病院から診療所に紹介する際に、病状悪化等で入院が必要になった場合に、葵カードを提示すれば県立総合病院が必ず対応するので安心してください、という意味で患者に渡すカードのこと。静岡市では、医師会と各病院が、病院の医師と診療所の医師の両方が役割分担して連携して患者を診る仕組みを運用している。
医療観察制度	心神喪失又は心神耗弱の状態で大変な他害行為を行った人を対象として、国の責任による手厚い専門的な医療と、退院後の継続的な医療を確保するための仕組み等によって、その円滑な社会復帰を促進することを目的とした制度であり、こころの医療センターにおいては、平成21年3月24日付で指定入院医療機関指定書（東海北陸厚生局長指定、第0004号）により指定入院医療機関として指定された。
医療秘書（医師事務作業補助者）	クラークとも言われ、病院勤務医の負担軽減を図るため、医師の事務作業を補助する職員のこと。 医師の指示の下、診断書の記事作成補助、診療記録への代行入力、医療の質の向上に資する事務作業（診療に関するデータ整理、院内がん登録等の統計・調査、医師の教育や臨床研修のカンファレンスのための準備作業等）並びに行政上の業務（救急医療情報システムへの入力等）への対応を行う。
看護師修学資金制度	当機構への就職を希望する看護学生に対して、資質の向上に資することを目的に修学資金（月5万円）を貸与する制度のこと。なお、当機構に看護師として就職した期間に相当する額の返還が免除される。 また、既に静岡県外の病院等から貸与を受けている同種の修学資金に対して、借り換えをするための資金（返還資金）を貸与するメニューも用意している。
緩和ケア	主に治癒を目的とする治療ではなく、全人的なケアで、痛み、その他の症状コントロール、心理面、社会面、精神面のケアを行うもの。
がんセンターボード	がんの症例について、手術・化学療法・放射線治療・緩和医療、画像診断、病理診断等、院内のがん診療・診断に携わる医師をはじめ、看護師、薬剤師等関連する専門職が、診療科や職種の垣根を越えて一堂に集まって、さらに連携する地域の医療者（医師会の医師、看護師、薬剤師、訪問看護師、介護関係職等）にも参加してもらい、それぞれの専門的な知識・技能を集約して、がん患者の症状・状態や治療法・治療方針等の情報を共有して意見交換し、最適な治療方針を協議・決定する場のことを言う。
クリニカルパス	クリニカルパスとは、ある病気の治療や検査に対して、標準化された患者様のスケジュールを表にまとめたもので、1つの治療や検査ごとに1つずつ作られている。 クリニカルパスには、病院用、患者様用と2つ準備されており、患者用クリニカルパスには、「入院診療計画書」として、患者が入院してからの食事や処置、検査・治療、そのための準備、退院後の説明等が日ごとに詳しく説明されている。

用語（50音順）	解 説
クロザピン	<p>クロザピンは抗精神病薬で、H21.4月に製造承認され、7月より発売開始となった。クロザピンの使用にあたっては、高い治療効果の反面、重篤な副作用（白血球の減少）が報告されていることから、安全管理体制の整備が義務付けられている。</p>
固定チームナーシング	<p>入院患者への看護は、24時間体制で求められている。しかし、看護師ひとりでは、対応しきれないため、「看護提供方式」を活用して24時間の看護を提供している。「固定チームナーシング」は、いくつかある看護提供方式の内のひとつの方式のこと。</p> <p>1年間固定したチームメンバーで活動することを原則に、チームで患者の看護を行う方式である。固定チームの受け持ち患者を分担して受け持ち、入院から退院まで24時間チームメンバーにより看護が展開される。看護師メンバーが固定されることで、継続的な看護が提供される。</p>
コーディング	<p>疾病や手術、検査などをコード化する仕事。</p> <p>最近、病院では診療情報を活用するために、あるいはDPCやがん登録などの国の制度の義務付けにより、標準化されたコードへのコーディングとそのシステムへの登録が必要となり、そのためコーディングする人の需要が、増えている。正しいコーディングのためには、コード体系の知識とともに医学知識やカルテを読み解く能力が要求される。</p> <p>疾病のコーディング：膝の関節炎⇒M13.96（Mは骨・筋肉などを示す。13は関節炎を示す。9は詳細不明を示す。6は膝を示す）</p>
コメディカル	<p>薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・歯科衛生士・理学療法士・作業療法士などの、医師・看護師以外の医療従事者の総称のこと。</p>
ジェネリック医薬品（後発医薬品）	<p>特許権が消滅した医薬品について、特許権者ではなかった医薬品製造メーカーがその特許権の内容を利用して製造した医薬品のこと。</p>
紹介率・逆紹介率	<p>・紹介率とは、初診患者のうち、他の医療機関から紹介状により紹介された患者の数が占める割合のことである。</p> <p style="text-align: center;">紹介率 = (初診患者のうち紹介患者数) ÷ 初診患者数 × 100</p> <p>・逆紹介率とは、地域医療支援病院の全患者のうちから他の医療機関に紹介した者で、診療情報提供料を算定したもの数（同一人に複数回又は複数紹介先算定の場合あり）と、初診患者の総数との比較のことである。</p> <p style="text-align: center;">逆紹介率 = 逆紹介患者数 ÷ 初診患者数 × 100</p>
初期臨床研修医 後期臨床研修医	<p>免許取得の後に、臨床研修の名で上級医の指導の下に臨床経験を積む卒業後教育が制度化された。病院独自に「前期・後期研修医」の名称を使用することがあるが、研修医（広義、1-5年目程度）= 研修医（狭義、=前期研修医、1-2年目） + 後期研修医（3-5年目程度）としていることが一般的である。</p> <p>一般に「研修医」の語を使う場合、「前期研修医」を指す。後期研修医とほぼ同義の語として、専修医、修練医、などがあるが、各々の病院独自のものである。</p>
新専門医制度	<p>新専門医制度とは、平成29年度以降に専門研修を開始する医師を主な対象として開始を予定していた制度で、今まで各学会が独自に定めた基準により認定をしていた専門医資格を、中立的第三者機関である日本専門医機構が統一的に専門研修プログラムの審査・承認を行い、承認を受けたプログラムに基づいて専門研修施設群がカリキュラムの修了を判定。その判定をもとに日本専門医機構が専門医の認定を行うものとされていたものである。</p> <p>ただし、医師の地域偏在への懸念が解消されなかったことから1年の延期が決定された。（小児科学会（小児科専門医）はH29より先行実施）</p>
心理教育・家族教室	<p>心理教育とは、精神障害やエイズなど受容しにくい問題を持つ人たちに、病気に関する必要な基礎知識を提供するとともに、療養生活を営む自信と地域で暮らしていく力量を身につけ、医療機関で提供される各種リハビリテーションプログラムや、地域の援助プログラムを主体的に利用することを促すことによって、医療機関における治療や援助から、精神障害者を日常的に支える地域リハビリテーションへの連続的な移行を目指して行う支援法のこと。</p> <p>患者の家族だけを対象に行う支援を家族教室と言う。</p>

用語（50音順）	解 説
心理・社会的治療	<p>精神科における薬物療法と電気けいれん療法以外の心理療法的プログラムの総称で、多職種チーム医療が原則である。</p> <p>デイケア、作業療法、認知行動療法、心理教育・家族教室、ACTなどの各種治療法を含む。</p>
診療情報管理士	<p>診療情報管理士とは、四病院団体協議会（日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会）および医療研修推進財団が資格付与する民間資格のこと。</p> <p>主な業務内容として、診療録の物理的な管理や内容の精査を行う「物の管理」、診療情報をコーディングするなどしてデータベースを構築する「情報の管理」、構築されたデータベースから必要な情報を抽出・加工・分析する「情報の活用」がある。</p>
ダ・ヴィンチ	<p>3D画像を確認しながら、離れた場所からロボットアームを操作して内視鏡下手術を行うもので、皮膚切開を最小限にすることで、患者の負担をできるだけ抑えることが可能（術中の出血量が少ない、術後の疼痛が少ない）。</p>
地域医療支援病院	<p>1997年（平成9年）4月の医療法の第3次改正で制度化された医療機関の機能別区分のひとつ。</p> <p>目的としては、地域の病院、診療所などを後方支援するという形で医療機関の役割分担と連携を目的に創設された。都道府県知事によって承認される。</p> <p>（承認要件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院の規模は原則として病床数が200床以上の病院であること。 ・紹介率及び逆紹介率が基準を満たしていること。 ・他の医療機関に対して高額な医療機器や病床を提供し共同利用すること。 ・地域の医療従事者の向上のための生涯教育等の研修を実施していること。 ・救急医療を提供する能力を有すること。
地域連携クリニカルパス	<p>病院の医師と診療所の医師、疾患によってはリハビリ施設など地域の医療提供施設が役割分担して連携して患者を診る仕組みの中で、疾患別に、以降の診療予定をスケジュール表の形式で表わしたもの。患者は診療所にいつ受診し、病院にいつ受診し、あるいはリハビリ施設にいつ受診し、どういう治療を受けるのかが分かり、医療施設は患者の診療の進捗管理をし、施設間で情報を共有するために使われる。診療報酬点数表上では、疾患に限られているが、「地域連携計画書」といい、計画管理料や退院時指導料等が算定できる。</p>
ドクターカー	<p>平成20年4月25日に道路交通法施行令の一部が改正され緊急自動車の指定対象に追加された乗用車型のドクターカー（患者搬送のための特別な構造又は装置を有しない医師派遣用自動車）。静岡市消防局の要請により「ドクターカー」に当院の救命救急センターのスタッフが搭乗し、災害や事故の現場に急行したり、搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始する。</p>
認知行動療法	<p>認知行動療法とは、人間の気分や行動が認知のあり方（ものの考え方や受け取り方）の影響を受けることから認知の偏りを修正し、問題解決を手助けすることによって精神疾患を治療することを目的とした精神療法であり、2010年から、一部保険点数化がされた。</p>
認定看護師	<p>認定看護師とは、日本看護協会及び日本精神科看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた者をいい、水準の高い看護実践を通して看護師に対する指導・相談活動を行う者をいう。</p>
ハイブリッド手術室	<p>据置型血管撮影装置（アンギオ）を設置した手術室であり、カテーテル血管内治療と外科的手術の双方に対応が可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併症などの緊急時の対応が可能。（カテーテル治療から外科的手術への移行） ・手術のみでは到達困難な部位に対する治療が可能。 ・カテーテルのみでは治療できない緊急時の病変に対しても外科的手術を同時に行うことで対応が可能。 ・鮮明な透視画像により治療精度が向上

用語（50音順）	解 説
リニアック	<p>リニアックとは、日本語では「直線加速器」といわれるもので、荷電粒子を一直線上で加速させて発生した放射線を当てることで、がんなどの治療をする機器です。</p> <p>多方向からピンポイントで放射線を当てることにより、正常組織への放射線の照射量を低減し、腫瘍部分の放射線量が高くなり細胞を死滅させる治療方法。</p>
レジデント	<p>初期臨床研修医はジュニアレジデント、初期レジデント、スーパーローテーターなどと呼ばれ、それ以降に専門科での研修を行うものを単にレジデントと呼んだり、後期研修医、後期レジデント、シニアレジデント、専攻医などと呼ばれている。</p>

<評価凡例>
 A 計画に対し十分に取り組み、成果も得られている。 A- 計画に対し十分に取り組み、一定の成果が得られている。
 B 計画に対し十分に取り組んでいる。 C 計画に対する取り組みは十分ではない。

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																			
						説明	説明																																				
<p>第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>1 医療の提供</p> <p>医療機関として求められる基本的な診療理念や県立病院が担う医療を明確にし、他の医療機関との機能分担や連携のもと、医療の質の向上に努め、患者や家族、地域から信頼される医療を提供すること。</p>	<p>第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 医療の提供</p> <p>県立病院機構の全職員は、県立病院が担う役割と責任を認識するとともに、医療機関に求められる基本的な診療理念を理解し、医療の提供に当たってはそれを実践する。</p>																																										
<p>(1) 基本的な診療理念</p> <p>診療に当たっては、患者が最良の治療効果を得られるよう、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく最適な医療を患者への十分な説明と同意のもとに安全に提供すること。</p>	<p>(1) 基本的な診療理念</p> <p>診療に当たっては、患者自らが選択し納得できるよう、患者への十分な説明など、患者との信頼関係の構築に努めるとともに、科学的根拠に基づく医療を安全に提供するため、医療技術の向上、チーム医療の推進、医療安全対策の充実などに取り組む。</p>	<p>I</p> <p>1</p> <p>(1)</p>	<p>各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。</p> <p>① 患者への十分な説明と同意の徹底</p> <p>② 医療技術の向上</p> <p>③ チーム医療の推進</p> <p>④ 医療安全対策の充実</p> <p>⑤ 患者満足度の向上</p>	<p>1</p> <p>患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施する。</p>	<p>セカンドオピニオン数 (単位: 件)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度見込</th><th>30年度見込</th></tr> <tr><td>総合</td><td>98</td><td>107</td><td>112</td><td>114</td><td>118</td><td>122</td></tr> <tr><td>こども</td><td>44</td><td>45</td><td>63</td><td>39</td><td>46</td><td>47</td></tr> </table> <p>セカンドオピニオン情報提供料算定件数 (総合) (単位: 件)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度見込</th><th>30年度見込</th></tr> <tr><td>診療情報提供料(Ⅱ)</td><td>125</td><td>104</td><td>125</td><td>121</td><td>174</td><td>174</td></tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	総合	98	107	112	114	118	122	こども	44	45	63	39	46	47	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	診療情報提供料(Ⅱ)	125	104	125	121	174	174	A-	A-	<p>患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施した。セカンドオピニオンの件数は年々増加傾向にある。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																					
総合	98	107	112	114	118	122																																					
こども	44	45	63	39	46	47																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																					
診療情報提供料(Ⅱ)	125	104	125	121	174	174																																					
				<p>2</p> <p>運用実績などのエビデンスに基づくクリニカルパスの新規作成や見直しを行い、クリニカルパスの適用率を高める。</p>	<p>総合</p> <p>・H29 クリニカルパス管理委員会を毎月1回開催し、以下の新規作成、修正の審議・承認を行った。 ・第2期中期目標期間(H26~30) クリニカルパス管理委員会を毎月1回開催し、以下の新規作成、修正の審議・承認を行った。 ・H28年度 電子カルテシステムの変更に伴う、クリニカルパスの修正を実施した。</p> <p>クリニカルパスの新規作成、適用率等実績</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度見込</th><th>30年度見込</th></tr> <tr><td>新規作成(件)</td><td>23</td><td>34</td><td>18</td><td>16</td><td>9</td><td>10</td></tr> <tr><td>修正(件)</td><td>71</td><td>68</td><td>51</td><td>224</td><td>149</td><td>149</td></tr> <tr><td>適用率(%)</td><td>68.2</td><td>73.8</td><td>75.8</td><td>66.3</td><td>64.4</td><td>64.4</td></tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	新規作成(件)	23	34	18	16	9	10	修正(件)	71	68	51	224	149	149	適用率(%)	68.2	73.8	75.8	66.3	64.4	64.4	A-	A-	<p>クリニカルパスについては、常に内容を見直す体制を維持しており、患者に対してより良い医療を提供している。 HCU病棟の先端医学棟4階移転に伴うクリニカルパスの見直し、修正を重点的に実施した。 今後も引き続き新規クリニカルパス作成、既存クリニカルパスの見直しを行い、より良い医療を提供していく。</p>							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																					
新規作成(件)	23	34	18	16	9	10																																					
修正(件)	71	68	51	224	149	149																																					
適用率(%)	68.2	73.8	75.8	66.3	64.4	64.4																																					
				<p>3</p> <p>看護提供方式見直し(固定チームナーシングの導入)により、安心を高める看護の提供に努める。</p>	<p>総合</p> <p>「患者様の声」の推移 (単位: 件)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度見込</th><th>30年度見込</th></tr> <tr><td>ご意見</td><td>117</td><td>82</td><td>72</td><td>57</td><td>60</td><td>60</td></tr> <tr><td>感謝</td><td>60</td><td>49</td><td>32</td><td>37</td><td>80</td><td>80</td></tr> </table> <p>患者満足度調査 (単位: %)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度見込</th><th>30年度見込</th></tr> <tr><td>入院</td><td>96.4</td><td>95.8</td><td>95.6</td><td>97.8</td><td>実施集計中</td><td></td></tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	ご意見	117	82	72	57	60	60	感謝	60	49	32	37	80	80	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	入院	96.4	95.8	95.6	97.8	実施集計中		A	A	<p>患者様の声は、「感謝」に関するものが前年度と比較して増加しており、看護提供方式の見直し効果が表れている。 患者満足度のH29年度については、10月に調査を実施し、現在集計中である。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																					
ご意見	117	82	72	57	60	60																																					
感謝	60	49	32	37	80	80																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																					
入院	96.4	95.8	95.6	97.8	実施集計中																																						

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																													
						説明	説明																														
			4	先端医学棟建設の工事進捗管理を徹底する。先端医学棟の円滑な運用を行うための体制を整備する。	総合 ・H29 ・6月末に先端医学棟の建設工事が完了した。 ・7月以降、機器・什器等の購入手続きや既存棟からの移転作業を進めた。 ・8月中旬以降、一部の部門で運用を開始し、9月から本格運用を開始した。 ・第2期中期目標期間(H26~30)建設工事は概ね順調に進捗しており、先端医学棟は当初計画どおり、H29年6月末に建設工事が完了した。 (単位:件) <table border="1"> <tr> <td>手術件数</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度見込</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td></td> <td>7,409</td> <td>7,860</td> <td>8,375</td> <td>8,536</td> <td>8,844</td> <td>10,000</td> </tr> </table> (単位:人) <table border="1"> <tr> <td>HCU延患者数</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度見込</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2,847</td> <td>2,927</td> <td>3,308</td> <td>3,872</td> <td>4,690</td> <td>7,154</td> </tr> </table>	手術件数	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込		7,409	7,860	8,375	8,536	8,844	10,000	HCU延患者数	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込		2,847	2,927	3,308	3,872	4,690	7,154	A	・機器、什器等の購入や既存棟からの移転作業についても、遅滞なく作業を進め、当初計画どおり9月から運用を開始することができた。 ・移転、運用が円滑に行えるよう、各部門に対し、移転に係る説明会、機器等の操作説明会等を実施した結果、大きな問題なく、移転が完了し、運用を開始することができた。 ・手術件数も順調に増加し、先端医学棟を円滑に運用できた。 ・医師、看護師の増員等により、先端医学棟の運用体制の整備を図った。	A	・先端医学棟及び関連工事について、充分なコスト削減を図った上で、当初計画どおり完了することができた。 ・機器や什器等の購入手続き、先端医学棟への移転手続きについて充分なコスト削減を図った上で遅滞なく作業を進め、当初計画どおり先端医学棟の運用を開始することができた。
手術件数	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																															
	7,409	7,860	8,375	8,536	8,844	10,000																															
HCU延患者数	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																															
	2,847	2,927	3,308	3,872	4,690	7,154																															
			5	立体駐車場建設の工事進捗管理を徹底する。	総合 ・H29 ・着工前に近隣住民向け工事説明会を開催(4/6)した。 ・周辺整備工事(北側退場路及び車椅子利用者用駐車場の整備)を先行して実施した。 ・第2期中期目標期間(H26~30)H28年度 市、警察等の関係機関と協議し、建築許可に向けた各種手続きを進め、H28年12月28日付けで静岡市より建築許可を受けた。設計完了後に速やかに工事発注手続きを進め、3月上旬に施工業者を決定した。 H29年度 ・着工前に近隣住民向け工事説明会を開催(4/6)した。 ・周辺整備工事(北側退場路及び車椅子利用者用駐車場の整備)を4月から先行して実施した。	A	・工事説明会において、工事に伴う近隣への影響等を周知できた。 ・周辺整備工事はスケジュールどおり完了した。 本体工事は順調に進捗し、本年度の進捗目標(40%)を達成する見込みである。	A	・市、警察等の関係機関と協議し、建築許可に向けた各種手続きを進め、H28.12月に静岡市より建築許可を受けた。 ・設計完了後に速やかに工事発注手続きを進め、H29.3月に施工業者を決定した結果、当初計画より完成予定時期を約4か月間、前倒しできる見込みである。																												
			6	入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、精神科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	こころ ・H29 H29.9末現在稼働クリニカルパス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン) ・第2期中期目標期間(H26~30) 稼働クリニカルパス件数 (単位:件) <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度見込</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>稼働クリニカルパス</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4	A	クリニカルパスについては、導入が可能なものについて積極的に導入し、患者の負担軽減に努め、わかりやすい医療を提供した。	A	クリニカルパスの適用が比較的少ない精神科ではあるが、導入が可能なものについては、積極的に導入し、患者の負担軽減を図るとともに計画的でわかりやすく納得できる医療の提供に努めている。														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																															
稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4																															
			7	入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、小児科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	こども 稼働クリニカルパス件数 (単位:件) <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度見込</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>稼働クリニカルパス</td> <td>40</td> <td>44</td> <td>46</td> <td>48</td> <td>48</td> <td>48</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	稼働クリニカルパス	40	44	46	48	48	48	A	クリニカルパスについては、導入が可能なものについて、積極的に導入し、新規クリニカルパス作成、既存クリニカルパスの見直しを行い、患者の負担軽減に努め、より良い医療を提供している。	A	クリニカルパスの積極的な導入により、稼働件数は増えている。 今後も引き続き新規クリニカルパス作成、既存クリニカルパスの見直しを行い、患者の負担軽減に努めるとともに、計画的でわかりやすい医療を提供していく。またスタッフがより使いやすいシステムにしていく。														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																															
稼働クリニカルパス	40	44	46	48	48	48																															

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価																																																																																																																																																																
						説明	第2期(H26~30)自己評価																																																																																																																																																															
		I 1 (1) ① 患者への十分な説明と同意の徹底 ② 医療技術の向上 ③ チーム医療の推進 ④ 医療安全対策の充実 ⑤ 患者満足度の向上	8	チーム医療を推進し、多職種による病院横断的な活動を通して、質の高い医療を提供する。	<p>・H29 チーム医療に対する診療報酬 91,855千円</p> <p>・第2期中期目標期間(H26~30) チーム医療は、病院全体での取組が不可欠であり、診療科の枠を越え医療に従事する多種多様な医療スタッフが情報を共有し、業務連携することで患者の状況に的確に対応した質の高い医療の提供を行った。</p> <p>また、チーム医療に対する診療報酬上の評価が加算されている。</p> <p>チーム医療の推進(カンファレンスの開催)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>チーム名</th> <th>開催頻度</th> <th>主要メンバー</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">総合</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>2回/週</td> <td>医師・看護・栄養・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内52回 院外4回/年</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護・栄養</td> </tr> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護・臨床工学技師・理学療法士</td> </tr> <tr> <td>認知症ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護師・薬剤師・社会福祉士・療法士</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床心理士</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こころ</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>週1回</td> <td>医師・看護・栄養等</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内47回 院外4回/年</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">こども</td> <td>ACT(包括型地域生活支援プログラム)</td> <td>随時</td> <td>医師・看護・精神保健福祉士等</td> </tr> <tr> <td>栄養サポートチーム</td> <td>週1回</td> <td>医師・看護・栄養等</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内52回 院外4回/年</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策部会</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>リハビリテーション</td> <td>適宜(週1回程度)</td> <td>医師・看護・理学療法等</td> </tr> </tbody> </table> <p>チーム医療に対する診療報酬上の評価加算の状況(単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院</th> <th>項目</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">総合</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>120</td> <td>114</td> <td>112</td> <td>129</td> <td>136</td> <td>136</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>53,510</td> <td>69,200</td> <td>72,767</td> <td>74,929</td> <td>80,325</td> <td>80,325</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1,410</td> <td>2,730</td> <td>2,520</td> <td>6,320</td> <td>6,320</td> <td>6,320</td> </tr> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>144</td> <td>144</td> <td>144</td> </tr> <tr> <td>認知症ケアチーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>568</td> <td>4,930</td> <td>4,930</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>55,040</td> <td>72,044</td> <td>75,399</td> <td>82,090</td> <td>91,855</td> <td>91,855</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こころ</td> <td>感染防止対策チーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>303</td> <td>434</td> <td>434</td> <td>434</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>303</td> <td>434</td> <td>434</td> <td>434</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">こども</td> <td>感染防止対策チーム</td> <td>17,792</td> <td>17,240</td> <td>17,484</td> <td>19,870</td> <td>18,487</td> <td>18,096</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2,640</td> <td>2,640</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション</td> <td>66,000</td> <td>60,646</td> <td>55,640</td> <td>58,883</td> <td>60,292</td> <td>60,292</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>83,792</td> <td>77,886</td> <td>73,124</td> <td>78,753</td> <td>81,419</td> <td>81,028</td> </tr> </tbody> </table>	区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー	総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師・看護・栄養・薬剤・臨床検査	感染防止対策チーム	院内52回 院外4回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護・栄養	呼吸ケアチーム	1回/週	医師・看護・臨床工学技師・理学療法士	認知症ケアチーム	1回/週	医師・看護師・薬剤師・社会福祉士・療法士	緩和ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤・臨床心理士	こころ	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等	感染防止対策チーム	院内47回 院外4回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護	こども	ACT(包括型地域生活支援プログラム)	随時	医師・看護・精神保健福祉士等	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等	感染防止対策チーム	院内52回 院外4回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査	褥瘡対策部会	1回/月	医師・看護						リハビリテーション	適宜(週1回程度)	医師・看護・理学療法等	病院	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	総合	栄養サポートチーム	120	114	112	129	136	136	感染防止対策チーム	53,510	69,200	72,767	74,929	80,325	80,325	褥瘡対策チーム	1,410	2,730	2,520	6,320	6,320	6,320	呼吸ケアチーム	-	-	-	144	144	144	認知症ケアチーム	-	-	-	568	4,930	4,930	緩和ケアチーム	-	-	-	-	-	-		計	55,040	72,044	75,399	82,090	91,855	91,855	こころ	感染防止対策チーム	-	-	303	434	434	434	計	-	-	303	434	434	434	こども	感染防止対策チーム	17,792	17,240	17,484	19,870	18,487	18,096	褥瘡対策チーム	-	-	-	-	2,640	2,640	リハビリテーション	66,000	60,646	55,640	58,883	60,292	60,292	計	83,792	77,886	73,124	78,753	81,419	81,028	A	<p>総合においては、認知症ケアチームを設置し、質の高い医療を行う体制が整備されている。診療科の枠を越え多職種が参加するカンファレンスは、最良の医療提供のため確実に実施されている。</p> <p>チーム医療に対する診療報酬が加算され、収益面でも貢献している。H29年1月より認知症ケアチーム加算の施設基準を取得し、算定している。</p>	A	<p>H28年度より呼吸ケアチーム加算、認知症ケアチーム加算の算定を開始し、チーム医療の推進が収益面からも評価されている。</p> <p>・チーム医療加算合計金額 H25:75,399千円 H28:82,090千円 H29:91,855千円(見込み)</p>
区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー																																																																																																																																																																			
総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師・看護・栄養・薬剤・臨床検査																																																																																																																																																																			
	感染防止対策チーム	院内52回 院外4回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																																																																																																																																			
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護・栄養																																																																																																																																																																			
	呼吸ケアチーム	1回/週	医師・看護・臨床工学技師・理学療法士																																																																																																																																																																			
	認知症ケアチーム	1回/週	医師・看護師・薬剤師・社会福祉士・療法士																																																																																																																																																																			
	緩和ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤・臨床心理士																																																																																																																																																																			
こころ	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等																																																																																																																																																																			
	感染防止対策チーム	院内47回 院外4回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																																																																																																																																			
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護																																																																																																																																																																			
こども	ACT(包括型地域生活支援プログラム)	随時	医師・看護・精神保健福祉士等																																																																																																																																																																			
	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等																																																																																																																																																																			
	感染防止対策チーム	院内52回 院外4回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																																																																																																																																			
	褥瘡対策部会	1回/月	医師・看護																																																																																																																																																																			
					リハビリテーション	適宜(週1回程度)	医師・看護・理学療法等																																																																																																																																																															
病院	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																																																															
総合	栄養サポートチーム	120	114	112	129	136	136																																																																																																																																																															
	感染防止対策チーム	53,510	69,200	72,767	74,929	80,325	80,325																																																																																																																																																															
	褥瘡対策チーム	1,410	2,730	2,520	6,320	6,320	6,320																																																																																																																																																															
	呼吸ケアチーム	-	-	-	144	144	144																																																																																																																																																															
	認知症ケアチーム	-	-	-	568	4,930	4,930																																																																																																																																																															
	緩和ケアチーム	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																															
	計	55,040	72,044	75,399	82,090	91,855	91,855																																																																																																																																																															
こころ	感染防止対策チーム	-	-	303	434	434	434																																																																																																																																																															
	計	-	-	303	434	434	434																																																																																																																																																															
こども	感染防止対策チーム	17,792	17,240	17,484	19,870	18,487	18,096																																																																																																																																																															
	褥瘡対策チーム	-	-	-	-	2,640	2,640																																																																																																																																																															
	リハビリテーション	66,000	60,646	55,640	58,883	60,292	60,292																																																																																																																																																															
	計	83,792	77,886	73,124	78,753	81,419	81,028																																																																																																																																																															
		医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。	9	医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。	<p>・H29 3病院で、29回の院内感染対策研修、42回の医療安全対策研修を行い、安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。</p> <p>・医療安全全国共同行動の参加登録病院としてレベルの向上を目指す。</p> <p>医療安全対策、院内感染対策研修等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">集団感染数(件)</th> <th colspan="2">院内感染対策研修</th> <th colspan="2">医療安全対策研修</th> </tr> <tr> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加者数(人)</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加者数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>7</td> <td>1,884</td> <td>13</td> <td>2,357</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>6</td> <td>422</td> <td>7</td> <td>369</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>16</td> <td>981</td> <td>22</td> <td>2,481</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>29</td> <td>3,287</td> <td>42</td> <td>5,207</td> </tr> </tbody> </table> <p>※院内感染対策研修・医療安全対策研修ともに法定回数2回</p>	区分	集団感染数(件)					院内感染対策研修		医療安全対策研修		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	研修数(回)	参加者数(人)	研修数(回)	参加者数(人)	総合	4	1	0	2	0	0	7	1,884	13	2,357	こころ	0	0	0	0	0	0	6	422	7	369	こども	0	0	3	0	3	0	16	981	22	2,481	計	4	1	3	2	3	0	29	3,287	42	5,207	A	<p>各病院において感染対策委員会や医療安全委員会を行う等、継続的な対策研修の実施体制が確立している。</p>	A	<p>職員への意識づけのための研修会について、実施体制が整い出来るだけ多くの職員が参加できるように、運用や開催時間等を考えて実施している。</p>																																																																																													
区分	集団感染数(件)						院内感染対策研修		医療安全対策研修																																																																																																																																																													
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	研修数(回)	参加者数(人)	研修数(回)	参加者数(人)																																																																																																																																																												
総合	4	1	0	2	0	0	7	1,884	13	2,357																																																																																																																																																												
こころ	0	0	0	0	0	0	6	422	7	369																																																																																																																																																												
こども	0	0	3	0	3	0	16	981	22	2,481																																																																																																																																																												
計	4	1	3	2	3	0	29	3,287	42	5,207																																																																																																																																																												
		患者の視点に立った質の高い医療の提供を目指し、患者満足度調査を行い、患者満足度の改善につなげる。	10	患者の視点に立った質の高い医療の提供を目指し、患者満足度調査を行い、患者満足度の改善につなげる。	<p>H25から調査実施時期を統一し、実施している。</p> <p>患者満足度調査(単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2"></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>入院</td> <td>96.4</td> <td>95.8</td> <td>95.6</td> <td>97.8</td> <td rowspan="6">集計中</td> </tr> <tr> <td></td> <td>外来</td> <td>91.9</td> <td>88.2</td> <td>89.6</td> <td>93.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こころ</td> <td>入院</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>88.8</td> <td>88.2</td> <td>89.8</td> <td>88.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こども</td> <td>入院</td> <td>92.5</td> <td>91.3</td> <td>91.9</td> <td>98.4</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>89.4</td> <td>91.2</td> <td>90.9</td> <td>98.1</td> </tr> </tbody> </table>	区分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	総合	入院	96.4	95.8	95.6	97.8	集計中		外来	91.9	88.2	89.6	93.2	こころ	入院	-	-	-	-	外来	88.8	88.2	89.8	88.5	こども	入院	92.5	91.3	91.9	98.4	外来	89.4	91.2	90.9	98.1	A	<p>10月に調査を実施した。(現在集計中)</p>	A	<p>全体の評価としては、入院、外来においても高い満足度を得ている。</p>																																																																																																																			
区分		25年度	26年度	27年度	28年度			29年度見込																																																																																																																																																														
		総合	入院	96.4	95.8	95.6	97.8	集計中																																																																																																																																																														
	外来	91.9	88.2	89.6	93.2																																																																																																																																																																	
こころ	入院	-	-	-	-																																																																																																																																																																	
	外来	88.8	88.2	89.8	88.5																																																																																																																																																																	
こども	入院	92.5	91.3	91.9	98.4																																																																																																																																																																	
	外来	89.4	91.2	90.9	98.1																																																																																																																																																																	

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																																																											
						説明	説明																																																																												
(2) 県立病院が担う役割 県内医療機関の中核病院として地域連携に努め、他の医療機関では対応困難な高度又は特殊な医療など、県の保健医療施策として求められている医療を誠実に提供すること。また、医療技術の進展等に対応し、高度・専門医療等の更なる充実・強化に努めること。	(2) 県立病院が担う役割 県立病院が担う高度・専門・特殊医療が確実に提供できるよう、地域の医療機関との相互連携や機能分担を進める。併せて、情報通信技術を活用した医療連携や疾患ごとの地域連携ネットワークづくりを進める。また、先進的技術・治療法の導入についても積極的に取り組む。	I 1 (2) ① 紹介・逆紹介の推進 ② 地域連携クリニカルパスの推進 ③ かかりつけ医との診療情報の共有化の推進 ④ ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル(ふじのくにねっと)の推進	11	かかりつけ医との連携により、機能分担体制を推進する。	総合 紹介率・逆紹介率実績 (単位:%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29目標</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>82.1</td> <td>85.0</td> <td>89.1</td> <td>89.0</td> <td>80.0</td> <td>89.4</td> <td>89.4</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>106.7</td> <td>127.5</td> <td>134.3</td> <td>161.5</td> <td>90.0</td> <td>161.8</td> <td>161.8</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29目標	29年度見込	30年度見込	紹介率	82.1	85.0	89.1	89.0	80.0	89.4	89.4	逆紹介率	106.7	127.5	134.3	161.5	90.0	161.8	161.8	A	紹介率、逆紹介率ともに目標を上回っている。かかりつけ医との連携、機能分化は着実に推進している。	A	紹介率、逆紹介率ともに目標を上回っている。H25年度と比較しても向上し、かかりつけ医との連携、機能分化は着実に推進している。																																																		
			区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29目標	29年度見込	30年度見込																																																																									
			紹介率	82.1	85.0	89.1	89.0	80.0	89.4	89.4																																																																									
			逆紹介率	106.7	127.5	134.3	161.5	90.0	161.8	161.8																																																																									
			12	地域の医療機関との連携を強化し、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分担体制を推進する。	こころ 紹介率・逆紹介率実績 (単位:%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H25年度</th> <th>H26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>H29目標</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>49.6</td> <td>57.9</td> <td>56.2</td> <td>55.0</td> <td>56.0</td> <td>55.6</td> <td>55.6</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>29.8</td> <td>27.4</td> <td>30.8</td> <td>29.6</td> <td>36.0</td> <td>30.9</td> <td>30.9</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H25年度	H26年度	27年度	28年度	H29目標	29年度見込	30年度見込	紹介率	49.6	57.9	56.2	55.0	56.0	55.6	55.6	逆紹介率	29.8	27.4	30.8	29.6	36.0	30.9	30.9	B	他の医療機関等と連携を図り、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分担体制を推進した結果、目標には届かないが、前年度実績を上回ることができた。	B	県立病院が担う専門医療が確実に提供するため、地域の医療機関との相互連携や機能分担を進めている。今後も「よろず相談・地域連携スタッフ」を中心に、引き続き地域連携を図る必要がある。																																																		
区分	H25年度	H26年度	27年度	28年度	H29目標	29年度見込	30年度見込																																																																												
紹介率	49.6	57.9	56.2	55.0	56.0	55.6	55.6																																																																												
逆紹介率	29.8	27.4	30.8	29.6	36.0	30.9	30.9																																																																												
13	地域の医療機関との機能分担を推進するため、紹介予約制を維持するとともに、積極的に逆紹介を行う。	いせ 紹介率・逆紹介率実績 (単位:%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>H29目標</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>94.8</td> <td>91.8</td> <td>93.0</td> <td>94.7</td> <td>92.0</td> <td>95.8</td> <td>94.0</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>49.9</td> <td>53.2</td> <td>52.0</td> <td>52.5</td> <td>32.0</td> <td>42.0</td> <td>49.9</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	H29目標	29年度見込	30年度見込	紹介率	94.8	91.8	93.0	94.7	92.0	95.8	94.0	逆紹介率	49.9	53.2	52.0	52.5	32.0	42.0	49.9	A	他の医療機関と連携を図ることにより、紹介・逆紹介共に目標を上回っており、紹介予約制を維持するとともに積極的な逆紹介を行っている。	A	他の医療機関と連携を図ることにより、期間を通じて目標値を上回っている。																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	H29目標	29年度見込	30年度見込																																																																												
紹介率	94.8	91.8	93.0	94.7	92.0	95.8	94.0																																																																												
逆紹介率	49.9	53.2	52.0	52.5	32.0	42.0	49.9																																																																												
14	心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頸部骨折等の地域連携クリニカルパスを活用し、かかりつけ医やリハビリテーション病院との機能分担を推進する。	総合 地域連携クリニカルパス (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>脳卒中</td> <td>38</td> <td>42</td> <td>68</td> <td>52</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>大腿骨頸部骨折</td> <td>110</td> <td>67</td> <td>65</td> <td>115</td> <td>66</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>胃がん</td> <td>94</td> <td>77</td> <td>80</td> <td>86</td> <td>96</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td>大腸がん</td> <td>135</td> <td>133</td> <td>151</td> <td>114</td> <td>110</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>乳がん</td> <td>102</td> <td>95</td> <td>118</td> <td>131</td> <td>176</td> <td>176</td> </tr> <tr> <td>前立腺がん</td> <td>7</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>虚血性心疾患</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>56</td> <td>185</td> <td>190</td> <td>190</td> </tr> <tr> <td>慢性腎臓病</td> <td>40</td> <td>28</td> <td>54</td> <td>37</td> <td>22</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>肺がん</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>526</td> <td>444</td> <td>592</td> <td>720</td> <td>710</td> <td>710</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	脳卒中	38	42	68	52	40	40	大腿骨頸部骨折	110	67	65	115	66	66	胃がん	94	77	80	86	96	96	大腸がん	135	133	151	114	110	110	乳がん	102	95	118	131	176	176	前立腺がん	7	2	0	0	10	10	虚血性心疾患	0	0	56	185	190	190	慢性腎臓病	40	28	54	37	22	22	肺がん	0	0	0	0	0	0	計	526	444	592	720	710	710	A	関係機関との連携により地域連携クリニカルパスの適用が進んでいる。前立腺がんについて地域連携クリニカルパスを見直し、地域連携を推進した。	A	関係機関との連携により地域連携クリニカルパスの適用が進んでいる。虚血性心疾患については、医師が積極的に取り組むことにより、適用件数が大幅に伸びている。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																													
脳卒中	38	42	68	52	40	40																																																																													
大腿骨頸部骨折	110	67	65	115	66	66																																																																													
胃がん	94	77	80	86	96	96																																																																													
大腸がん	135	133	151	114	110	110																																																																													
乳がん	102	95	118	131	176	176																																																																													
前立腺がん	7	2	0	0	10	10																																																																													
虚血性心疾患	0	0	56	185	190	190																																																																													
慢性腎臓病	40	28	54	37	22	22																																																																													
肺がん	0	0	0	0	0	0																																																																													
計	526	444	592	720	710	710																																																																													
15	地域医療ネットワークシステムを整備・活用する。	ネットワーク実績 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開示施設数</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>開示件数(累計)</td> <td>9,848</td> <td>12,424</td> <td>15,814</td> <td>19,795</td> <td>23,862</td> <td>25,279</td> </tr> <tr> <td>参照施設数</td> <td>175</td> <td>208</td> <td>194</td> <td>141</td> <td>168</td> <td>186</td> </tr> <tr> <td>病院</td> <td>14</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>13</td> <td>15</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>診療所</td> <td>99</td> <td>122</td> <td>104</td> <td>76</td> <td>91</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>保険薬局</td> <td>53</td> <td>57</td> <td>59</td> <td>40</td> <td>45</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>訪問看護ステーション</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>介護福祉施設</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	開示施設数	14	14	15	18	18	19	開示件数(累計)	9,848	12,424	15,814	19,795	23,862	25,279	参照施設数	175	208	194	141	168	186	病院	14	17	17	13	15	17	診療所	99	122	104	76	91	100	保険薬局	53	57	59	40	45	48	訪問看護ステーション	8	11	12	10	15	18	介護福祉施設	1	1	2	2	2	3	A	「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である各地域の中核病院、自治体病院、診療所・医師会とともに「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。 ・第2期中期期間(H26~30) ・情報の開示施設を、H27年度に1診療所、H28年度に3病院増やすことができた。 ・H27年度末の理事会において利用料規程を決定し、ネットワークシステムの運営経費の適正な負担を図った。 ・H28年度においては、地域医療連携推進事業費補助金を活用し、静岡県立こども病院、静岡県立こころの医療センター、医療法人社団アール・アンド・オーのシステム整備を行った。 ・H29年度には、地域医療連携推進事業費補助金を活用し、藤枝市立総合病院のシステム更新を実施した。	A	第2期中期計画期間中にも順調に開示施設を増やすことができた。今後も地域医療連携推進事業費補助金等を活用し参加施設数を拡大していく。また、今まで静岡県立病院機構が全額負担していたネットワークシステムのデータセンターの運営経費について、適正な経費負担を図った。(H28年度から利用料を徴収開始)														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																													
開示施設数	14	14	15	18	18	19																																																																													
開示件数(累計)	9,848	12,424	15,814	19,795	23,862	25,279																																																																													
参照施設数	175	208	194	141	168	186																																																																													
病院	14	17	17	13	15	17																																																																													
診療所	99	122	104	76	91	100																																																																													
保険薬局	53	57	59	40	45	48																																																																													
訪問看護ステーション	8	11	12	10	15	18																																																																													
介護福祉施設	1	1	2	2	2	3																																																																													

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																				
						説明	説明																																					
<p>(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県立総合病院においては、3大疾患(がん、脳血管疾患、心疾患)を中心に高度・専門医療や急性期医療等を提供するほか、救命救急センターにおいては、広域的な救急医療への対応を図るとともに、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対する高度な救命医療を提供する高度救命救急センターの指定を目指し、救急医療体制の充実・強化を図ること。県立こころの医療センターにおいては、精神科救急・急性期医療の提供や他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図ること。県立こども病院においては、小児重症心疾患患者やハイリスク胎児・妊婦、新生児に対する高度・先進的医療の提供や小児がん拠点病院としての機能強化、高度な小児救急医療の充実及び児童精神分野の医療の充実を図ることなど、小児全般の高度医療を推進すること。</p> <p>さらに、県立3病院は、結核、エイズ、新型インフルエンザ等の感染症医療や難病医療、移植医療等を提供するとともに、精神科患者の身体合併症、周産期医療における産科合併症以外の合併症の対応など、一病院では対応が困難な分野においては、県立3病院のそれぞれの特性を生かし、相互に連携をとり、適切な対応を図ること。</p> <p>また、患者の在宅への移行が順調に進むよう、地域の医療機関等との連携を図り、相談支援体制の充実や退院後のフォローアップの実施に努めること。</p> <p>その他、認知症や発達障害への対応など新たな課題に取り組むとともに、今後の疾病構造や県民の医療ニーズの変化等に対応し、県が求める政策医療に協力すること。また、医療施設や機器の整備については計画的に実施するとともに、県民の医療ニーズの変化や医療技術の進展に応</p>	<p>(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県が掲げる7疾病5事業を念頭に、各県立病院が専門性を活かしつつ、県立病院間や地域の医療機関との連携を強化して、病態に即した的確な医療を提供する。特に、全国的な課題とされている救急医療や急性期医療の充実に重点的に取り組む。</p> <p>ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。</p> <p>イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。</p> <p>ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療に着実に取り組む。</p> <p>エ 先進的医療である移植医療に取り組む。</p>	<p>I 1 (3)</p> <p>I 1 (3) ア</p> <p>I 1 (3) イ</p> <p>I 1 (3) ウ</p> <p>I 1 (3) エ</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>16</p> <p>17</p> <p>18</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A-</p> <p>A-</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>																																				
									<p>・児童の措置入院等、こども病院での受入れが困難な場合はこころの医療センターにて受入れている。</p> <p>周産期医療における搬送実績 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こども→総合</td> <td>4</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>総合→こども</td> <td>10.0</td> <td>8.0</td> <td>14</td> <td>11</td> <td>16</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	こども→総合	4	9	8	3	4	4	総合→こども	10.0	8.0	14	11	16	11	<p>症例の発生状況により搬送実績に増減はあるが、3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制の確保等、病院間の連携・協力体制を密にしている。</p>	<p>第2期中期計画の期間を通じて、症例の発生状況により期間中の搬送実績に増減はあるが、3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制の確保等、病院間の連携・協力体制を密にしている。</p>												
									区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																													
									こども→総合	4	9	8	3	4	4																													
総合→こども	10.0	8.0	14	11	16	11																																						
<p>・児童の措置入院等、こども病院での受入れが困難な場合はこころの医療センターにて受入れている。</p> <p>結核病棟50床について運用している。エイズ拠点病院としてエイズ患者の受入体制を整えている。難病医療の法律改正にあわせて、難病指定医療機関の申請を行い、H27年5月に指定を受けた。難病指定医についても、これまでに21診療科80名の医師が申請を行い、順次指定を受けた。</p> <p>入院患者数 (単位: 人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エイズ</td> <td colspan="6">非公開</td> </tr> <tr> <td>結核</td> <td>134</td> <td>14</td> <td>98</td> <td>119</td> <td>126</td> <td>126</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	エイズ	非公開						結核	134	14	98	119	126	126	<p>県内最大の結核病床の医療機関として、広範囲の地域から結核患者の受入れた。エイズ拠点病院として、エイズ患者の受入体制を整えている。難病指定医療機関として、難病患者の受入体制を整えている。</p>	<p>県内最大の結核病床の医療機関として、広範囲の地域から結核患者の受入れた。エイズ拠点病院として、エイズ患者の受入体制を整えている。難病指定医療機関として、難病患者の受入体制を整えている。</p>																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																						
エイズ	非公開																																											
結核	134	14	98	119	126	126																																						
<p>移植実績 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>腎移植</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>14</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>造血幹細胞移植</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>強角膜片作成</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>31</td> <td>27</td> <td>26</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>28</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	腎移植	12	13	11	14	18	18	造血幹細胞移植	10	8	8	11	6	6	強角膜片作成	9	6	7	3	4	4	計	31	27	26	28	28	28	<p>腎臓移植:H29は上半期で9例の腎移植を達成し、増加傾向にある。造血幹細胞移植:順調に推移している。強角膜片:過去に比べ、若干減少している。</p>	<p>期間を通じて、生体移植も含めた腎移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成を継続して実施できている。</p>							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																						
腎移植	12	13	11	14	18	18																																						
造血幹細胞移植	10	8	8	11	6	6																																						
強角膜片作成	9	6	7	3	4	4																																						
計	31	27	26	28	28	28																																						
<p>・腎臓移植は、H25年度に1件、H27年度に3件、H28年度に2件を行った。</p> <p>造血幹細胞移植実績 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>骨髄移植</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>臍帯血</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>自家末梢血</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>同種末梢血</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	骨髄移植	9	9	4	4	4	7	臍帯血	1	1	0	2	2	1	自家末梢血	2	2	8	5	3	4	同種末梢血	1	1	1	0	0	1	計	13	13	13	11	9	13	<p>適用患者の数に変動はあるため、実績値は減少したが先進的医療である造血幹細胞移植に継続して取り組んでいる。</p>	<p>期間を通じ、造血幹細胞移植を着実に継続して実施した。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																						
骨髄移植	9	9	4	4	4	7																																						
臍帯血	1	1	0	2	2	1																																						
自家末梢血	2	2	8	5	3	4																																						
同種末梢血	1	1	1	0	0	1																																						
計	13	13	13	11	9	13																																						

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																																		
						説明	説明																																																			
じ、機動的な対応を行うこと。	オ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。	I 1 (3) オ	19	リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に行う。	・H29 リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に支援した。 ・第2期中期期間(H26~30) 地域医療ネットワークセンター看護師、MSW、理学療法士等が積極的に支援している。 地域医療ネットワークセンター退院調整件数 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度見込</th><th>30年度見込</th></tr> <tr><td>件数</td><td>1,377</td><td>1,554</td><td>1,754</td><td>2,204</td><td>2,462</td><td>2,462</td></tr> </table> 退院支援関係診療報酬算定件数実績 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度見込</th><th>30年度見込</th></tr> <tr><td>退院調整加算(旧)</td><td>603</td><td>710</td><td>770</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>退院支援加算1(新)</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>1,054</td><td>1,618</td><td>1,618</td></tr> <tr><td>退院時リハビリテーション指導料</td><td>1,281</td><td>1,279</td><td>980</td><td>601</td><td>722</td><td>722</td></tr> <tr><td>計</td><td>1,884</td><td>1,989</td><td>1,750</td><td>1,655</td><td>2,340</td><td>2,340</td></tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	件数	1,377	1,554	1,754	2,204	2,462	2,462	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	退院調整加算(旧)	603	710	770	—	—	—	退院支援加算1(新)	—	—	—	1,054	1,618	1,618	退院時リハビリテーション指導料	1,281	1,279	980	601	722	722	計	1,884	1,989	1,750	1,655	2,340	2,340	A	リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を地域医療ネットワークセンター看護師、MSW、理学療法士等が積極的に支援することで、円滑な地域医療連携に貢献した。	A	リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に支援した。退院支援加算の算定件数が着実に増加しており、支援の効果が収益面にも現れている。
				区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																
				件数	1,377	1,554	1,754	2,204	2,462	2,462																																																
				区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																
退院調整加算(旧)	603	710	770	—	—	—																																																				
退院支援加算1(新)	—	—	—	1,054	1,618	1,618																																																				
退院時リハビリテーション指導料	1,281	1,279	980	601	722	722																																																				
計	1,884	1,989	1,750	1,655	2,340	2,340																																																				
・患者の社会復帰に向け、リハビリテーション活動を充実させる。 ・患者の地域での生活を支援するため、訪問看護を充実させる。	・H29 リハビリテーション活動及び訪問看護を通じて、患者の社会復帰を支援した。 ・第2期中期目標期間(H26~30) 早期退院の促進と退院後も安定的な生活を維持するためには、入院中から地域生活を見据えた支援が必要とされることから、22年度から取組を始めた「精神科急性期ケアマネジメント」を本年度も継続実施している。 また、在宅において、よりの確な支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問を積極的に実施した。 リハビリテーション活動実施件数 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度見込</th><th>30年度見込</th></tr> <tr><td>精神科作業療法</td><td>8,500</td><td>8,187</td><td>7,209</td><td>7,649</td><td>6,684</td><td>6,684</td></tr> <tr><td>デイケア</td><td>4,555</td><td>4,100</td><td>4,239</td><td>4,448</td><td>5,980</td><td>5,980</td></tr> <tr><td>計</td><td>13,055</td><td>12,287</td><td>11,448</td><td>12,097</td><td>12,664</td><td>12,664</td></tr> </table> 訪問看護実施件数 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度見込</th><th>30年度見込</th></tr> <tr><td>訪問看護実施件数</td><td>2,698</td><td>2,751</td><td>2,883</td><td>3,522</td><td>4,134</td><td>4,134</td></tr> <tr><td>(うち複数訪問)</td><td>369</td><td>344</td><td>170</td><td>147</td><td>78</td><td>78</td></tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	精神科作業療法	8,500	8,187	7,209	7,649	6,684	6,684	デイケア	4,555	4,100	4,239	4,448	5,980	5,980	計	13,055	12,287	11,448	12,097	12,664	12,664	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	訪問看護実施件数	2,698	2,751	2,883	3,522	4,134	4,134	(うち複数訪問)	369	344	170	147	78	78	A	患者の社会復帰及び地域生活支援に向け、リハビリテーション活動並びに訪問看護を充実させた。	A	リハビリテーションや訪問看護等の相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に積極的に取り組んだ。 リハビリテーションについては、25年度13,000件ほどの水準を維持している。 また訪問看護については、25年度2,698件から4,000件を超え、大幅に増加している。				
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																				
精神科作業療法	8,500	8,187	7,209	7,649	6,684	6,684																																																				
デイケア	4,555	4,100	4,239	4,448	5,980	5,980																																																				
計	13,055	12,287	11,448	12,097	12,664	12,664																																																				
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																				
訪問看護実施件数	2,698	2,751	2,883	3,522	4,134	4,134																																																				
(うち複数訪問)	369	344	170	147	78	78																																																				
言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。	リハ実施実績 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度見込</th><th>30年度見込</th></tr> <tr><td>理学療法</td><td>17,617</td><td>20,414</td><td>17,811</td><td>17,504</td><td>19,842</td><td>18,638</td></tr> <tr><td>作業療法</td><td>6,972</td><td>7,317</td><td>6,335</td><td>6,010</td><td>6,356</td><td>6,598</td></tr> <tr><td>言語聴覚療法</td><td>7,883</td><td>8,180</td><td>7,825</td><td>8,656</td><td>7,218</td><td>7,952</td></tr> <tr><td>計</td><td>32,472</td><td>35,911</td><td>31,971</td><td>32,170</td><td>33,416</td><td>33,188</td></tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	理学療法	17,617	20,414	17,811	17,504	19,842	18,638	作業療法	6,972	7,317	6,335	6,010	6,356	6,598	言語聴覚療法	7,883	8,180	7,825	8,656	7,218	7,952	計	32,472	35,911	31,971	32,170	33,416	33,188	A	リハビリ需要の増加に対応しているが、質の向上を図っていくためには専任のリハビリテーション医の確保が必要である。	A	漸増状況にあるリハビリ需要に対応した。																		
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																				
理学療法	17,617	20,414	17,811	17,504	19,842	18,638																																																				
作業療法	6,972	7,317	6,335	6,010	6,356	6,598																																																				
言語聴覚療法	7,883	8,180	7,825	8,656	7,218	7,952																																																				
計	32,472	35,911	31,971	32,170	33,416	33,188																																																				
カ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	I 1 (3) カ	遺伝解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	22	遺伝子診療に関して、体制の整備・充実を図る。	・H29 遺伝診療科の受診患者数は順調に増加している。 ・第2期中期目標期間(H26~30) H27年度に院内の関係する部署間の調整を経て遺伝診療科を立ち上げた。当該科の存在を県民や診療所等の医師等に広報するため、ホームページへの掲載や講演会の開催等を行った。 遺伝診療科受診者数 (単位:人) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>29年度見込</th><th>30年度見込</th></tr> <tr><td>受診者数</td><td>—</td><td>—</td><td>21</td><td>39</td><td>65</td><td>70</td></tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	受診者数	—	—	21	39	65	70	A	H29年度の遺伝診療科の受診患者数は順調に増加している。世間の関心の高さから今後も患者数の増加が期待される。	A	H27年度から遺伝診療科を開設した。開始時から年々患者数が増加傾向にある。世間の関心の高さから今後も患者数の増加が期待される。																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																				
受診者数	—	—	21	39	65	70																																																				

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																													
						説明	説明																														
	キ 認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。また、発達障害については、鑑別診断や治療を実施するとともに、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	I 1 (3) キ	23	鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、認知症ケアチームの介入、専門医療相談等を推進する。	総合 鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施については現状では困難な状況にある。 脳FDG-PET (単位:件) <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>実施件数</td> <td>137</td> <td>144</td> <td>131</td> <td>135</td> <td>168</td> <td>168</td> </tr> </table> 認知症ケア加算 (単位:件) <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>算定件数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>803</td> <td>7,624</td> <td>7,624</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	実施件数	137	144	131	135	168	168	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	算定件数	-	-	-	803	7,624	7,624	A-	H29年9月末時点の脳FDG-PETの件数は前年度に比べて大幅に増加している。 H29年1月に認知症ケア加算の施設基準を取得し、H29年度は9月末時点で3,812件算定している。	A-	社会的ニーズの高まりに対応し、ケアチームの整備に努めた結果H29年1月の認知症ケア加算施設基準取得以降、算定件数順調に推移しており、今後も増加が見込まれる。(H29年度見込:7,624件)
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																															
実施件数	137	144	131	135	168	168																															
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																															
算定件数	-	-	-	803	7,624	7,624																															
			24	・症状が重篤な認知症患者を受入れるための、精神科救急・急性期医療体制を確保する。 ・老年期特有の専門外来(老年期こころと物忘れ外来)により専門的な医療相談を実施する。	こころ 認知症入院患者件数 (単位:件) <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>認知症入院患者</td> <td>20</td> <td>16</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> </table> 老年期こころと物忘れ外来実施件数 (単位:件) <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>老年期こころと物忘れ外来実施件数</td> <td>793</td> <td>855</td> <td>797</td> <td>573</td> <td>490</td> <td>490</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	認知症入院患者	20	16	6	12	14	14	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	老年期こころと物忘れ外来実施件数	793	855	797	573	490	490	A-	精神科救急・急性期医療体制を確保して症状が重篤な認知症患者を受け入れるとともに、老年期特有の専門外来(老年期こころと物忘れ外来)により専門的な医療相談を実施した。	A-	認知症については、精神科救急・急性期医療体制を確保し急性期治療を実施するとともに、老年期特有の専門医療相談等の実施に取り組んだ。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																															
認知症入院患者	20	16	6	12	14	14																															
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																															
老年期こころと物忘れ外来実施件数	793	855	797	573	490	490																															
			25	発達障害については、従来からの新生児退院診察や、新生児包括外来における低体重出生児の発達フォローを継続し、保護者向けのペアレントトレーニングについても継続して取り組む。	こども 発達小児科診療実績 (単位:人) <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>外来延患者数</td> <td>2,755</td> <td>2,960</td> <td>3210</td> <td>3563</td> <td>3,663</td> <td>3,663</td> </tr> </table> ・発達障害児を持つ保護者を対象に、H29年6月~11月の間、計10回、医師や保育士を中心にペアレント・トレーニングを行った。 ・中期計画期間中、新生児退院診察を週1回実施した。また、新生児包括外来における低出生体重児の発達フォローを隔週1回実施した。	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	外来延患者数	2,755	2,960	3210	3563	3,663	3,663	A-	ペアレント・トレーニング、新生児退院診察、低出生体重児の発達フォローを継続的に実施した。	A-	期間中(H27年度)に専門医師確保し、診療体制を強化した。														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																															
外来延患者数	2,755	2,960	3210	3563	3,663	3,663																															
	ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、低侵襲治療や高度な治療への対応の強化(ハイブリッド手術室の整備、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充)など、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設及び機器等の充実に取り組む。	I 1 (3) ク	26	中期計画に記載した施設及び機器等の整備を計画的に実施する。	・第2期中期計画期間に合わせて策定された施設整備計画に基づいて施設及び機器等の整備を実施した。 ・計画的に実施する一方で、策定時から情勢の変化があった場合には計画の見直しを図った。 ・総合病院本館の既存不適格に対応するため、防排煙設備の一部について、H28年度からH29年度にかけて改修を行った。 ・先端医学棟(5階建 延床面積約20,569.6㎡)の建設工事が完了し、H29年7月に竣工式を挙げて、H29年9月に稼働した。 ・第1立体駐車場がH29年3月に着工し、H30年10月末の工事完了に向けて施工中である。 ・こども病院本館の老朽化に対応するため、本館リニューアル工事の実施設計を行っている。H30年度末の工事完了を目指して、今後速やかに着工する予定。 ・こども病院の院内保育所を建替えるため、実施設計を行っている。H30年7月の開所を目指して、H29年度内の着工を予定。 ・先端医学棟建設工事(H27からの継続工事)を進め、6月末に完成した。 ・先端医学棟の開棟に向け、必要な機器等を整備した。 ・第1期リニューアル工事の施工業者を決定し、11月からの本格着工に向けて準備作業を進めた。 ・北安東2丁目の医師宿舍建設工事に係る設計作業を完了し、工事発注手続きを進めた。	A	・先端医学棟は、建設工事が見直し後の計画どおりH29年6月末に完成し、機器類も9月初めの稼働開始に合わせて必要な機器の購入手続を進めることができた。 ・先端医学棟以外の施設・機器等についても、各病院において情勢に応じた必要な整備を行い、全体として、計画の適切な見直しを図りつつ、着実に施設及び器機等の整備を行うことができた。	A	・総合病院では、先端医学棟の建設や電子カルテの更新を完了し、本館耐震改修及び立体駐車場の建設に着手するなど、大規模事業に積極的に取り組んだ。 こころの医療センターでは、初めて電子カルテを導入するとともに、空調設備など各種設備の改修を行った。 こども病院では、新外来棟の増築や既存棟改修、電子カルテの更新を完了し、H30年度には本館リニューアル工事や院内保育所の建替え等に取り組む予定である。 器機類についても、総合病院の先端医学棟関係を中心に、各病院において情勢に応じた必要な整備を図った。 全体として、計画の適切な見直しを図りつつ、着実に施設及び器機等の整備を行うことができた。 ・医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設及び機器等を十分に充実させることができた。																												
	ケ 各県立病院は医療の提供に当たり、次のとおり重点的に取り組む。	ケ	-	-	-	-	-	-	-																												

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																													
						説明	説明																														
	(ア) 県立総合病院	I 1 (3) ケ (ア) 県立総合病院診療事業 県内医療機関の中核的病院として、各疾患に対する総合的な医療をはじめ、3大疾患(心疾患、脳血管疾患、がん)に対する高度・専門医療や救急・急性期医療等を提供する。 各診療事業を推進するため、医師・看護師確保に取り組む。 県民に提供する医療<業務の予定量> 病床数 720床(670床) 一般病床 620床 結核病床 100床(50床) 外来患者 440,640人 入院患者 236,301人	-	-	-	-	-	-	-																												
	・急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患において、24時間を通して高度な専門的治療を提供する体制の充実を図る。加えて、生活習慣病としての危険因子を管理するため、地域の医療機関との連携を強化する。	循環器疾患患者に対して循環器病センター機能を生かした24時間体制による高度な専門的治療を提供する体制の充実 ①重症心不全疾患の患者に対して冠状動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)機能を最大限に生かした高度な専門的治療の提供 ②急性心筋梗塞、脳卒中発症患者に対応する24時間救急受入体制の強化 ③循環器関連診療科の有機的な連携によるチーム医療の推進 ④ハイブリッド手術室の使用によるステントグラフト治療等の高度専門医療の提供	27	冠状動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)を中心に24時間365日体制を構築し、高度専門診療を提供する。	総合 ・H29 ・6月に特定集中治療室管理料2の施設基準を取得しランクアップを実現し、増収見込み額は約75百万円となる見込み。 (75,790円/日→118,680円/日等) ・第2期中期期間(H26~30) ・H27 ・循環器病センター3階のCCU/ICUを24時間体制(看護配置2:1)で10床稼働している。 ・心臓リハビリについても充実を図り、施設基準においてもIIからIへのランクアップを実現した(増収額480万円/年) ・H28 循環器病センター3階のCCU/ICUを2床増床して12床へ拡大 CCU/ICU稼働率 (単位:%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>96.1</td> <td>100.5</td> <td>102.6</td> <td>100.0</td> <td>110.2</td> <td>110.2</td> </tr> <tr> <td>入室患者数(人)</td> <td>717</td> <td>738</td> <td>771</td> <td>722</td> <td>758</td> <td>758</td> </tr> <tr> <td>1日平均(人)</td> <td>10.1</td> <td>10.1</td> <td>10.3</td> <td>11.5</td> <td>13.2</td> <td>13.2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	稼働率(%)	96.1	100.5	102.6	100.0	110.2	110.2	入室患者数(人)	717	738	771	722	758	758	1日平均(人)	10.1	10.1	10.3	11.5	13.2	13.2	A	冠状動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)を中心に24時間365日体制を構築し、高度専門診療を提供している。 H29年6月に特定集中治療室管理料2の施設基準を取得しランクアップを実現し、増収となる。 入室患者数、稼働率ともに増加している。	A	冠状動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)を中心に24時間365日体制を構築し、高度専門診療を提供しているH28年7月に病床数を10床から12床に増床し、H29年6月に特定集中治療室管理料2の施設基準を取得しランクアップを実現した。入室患者数、稼働率ともに増加している。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																															
稼働率(%)	96.1	100.5	102.6	100.0	110.2	110.2																															
入室患者数(人)	717	738	771	722	758	758																															
1日平均(人)	10.1	10.1	10.3	11.5	13.2	13.2																															
			28	脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。	総合 ・H29 ・先端医学棟にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、急性期医療に対応する体制が整備された。 ・超急性期脳卒中加算は増加している。(26件の見込み) ・第2期中期目標期間(H26~30) ・脳卒中の地域連携クリニカルパスを運用している。 ・脳血管内治療のできる医師を確保した。(脳神経外科) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>96.1</td> <td>100.5</td> <td>102.6</td> <td>100.0</td> <td>110.2</td> <td>110.2</td> </tr> <tr> <td>入室患者数(人)</td> <td>717</td> <td>738</td> <td>771</td> <td>722</td> <td>758</td> <td>758</td> </tr> <tr> <td>1日平均(人)</td> <td>10.1</td> <td>10.1</td> <td>10.3</td> <td>11.5</td> <td>13.2</td> <td>13.2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	稼働率(%)	96.1	100.5	102.6	100.0	110.2	110.2	入室患者数(人)	717	738	771	722	758	758	1日平均(人)	10.1	10.1	10.3	11.5	13.2	13.2	A	先端医学棟にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、急性期医療に対応する体制が大幅に充実した。 脳卒中の地域連携クリニカルパスの適用患者数は毎年40~50件前後で安定的に推移している。	A	先端医学棟にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、急性期医療に対応する体制が大幅に充実した。 脳卒中の地域連携クリニカルパスの適用患者数は毎年40~50件前後で安定的に推移している。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																															
稼働率(%)	96.1	100.5	102.6	100.0	110.2	110.2																															
入室患者数(人)	717	738	771	722	758	758																															
1日平均(人)	10.1	10.1	10.3	11.5	13.2	13.2																															

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																																		
						説明	説明																																																			
			29	生活習慣病を心血管疾患の発症危険因子としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。	<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H29 ・糖尿病透析予防指導管理料については、専門外来を開設し活動している。件数増加を目指し、新たに糖尿病透析予防指導を行う「そらまめ外来」の午後の診療枠を追加する予定である。 ・指導に必要な検査（尿アルブミン値）の実施率が低いため、検査実施率の向上を検討する。 ・末梢動脈疾患検査は着実に件数が増加している。 <p>・第2期中期目標期間（H26~30） 関係科の医師及びコメディカルによる合同検討会（下肢救済チーム）を開催し、スタッフが協力して患者の治療にあたるチーム医療の連携を推進している。</p> <table border="1"> <caption>糖尿病透析予防指導管理料 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>44</td> <td>24</td> <td>37</td> <td>132</td> <td>140</td> <td>160</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>末梢動脈疾患(PAD)検査 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ABI</td> <td>1,123</td> <td>1,446</td> <td>1,725</td> <td>1,831</td> <td>2,062</td> <td>2,100</td> </tr> <tr> <td>SPP</td> <td>171</td> <td>143</td> <td>258</td> <td>220</td> <td>202</td> <td>220</td> </tr> <tr> <td>下肢動脈超音波</td> <td>73</td> <td>111</td> <td>188</td> <td>195</td> <td>210</td> <td>210</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	算定件数	44	24	37	132	140	160	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	ABI	1,123	1,446	1,725	1,831	2,062	2,100	SPP	171	143	258	220	202	220	下肢動脈超音波	73	111	188	195	210	210	A-	循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療を推進している。糖尿病透析予防指導、末梢動脈疾患検査は着実に件数が増加している。	A-	循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療を推進している。糖尿病透析予防指導、末梢動脈疾患検査は着実に件数が増加している。							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																				
算定件数	44	24	37	132	140	160																																																				
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																				
ABI	1,123	1,446	1,725	1,831	2,062	2,100																																																				
SPP	171	143	258	220	202	220																																																				
下肢動脈超音波	73	111	188	195	210	210																																																				
			30	ハイブリッド手術室を運用する体制を整備し、高度専門医療を提供する。	<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H29 ・先端医学棟にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、稼動を開始した。 ・TAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）68件（見込み） <p>・第2期中期期間（H26~30） H26年10月からハイブリッド手術室の稼動を開始した。 ・TAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）の施設基準を取得し、H27年度は4例実施した。H28年度は28例実施した。</p> <table border="1"> <caption>ハイブリッド手術室稼動状況 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハイブリッド手術室使用件数</td> <td>-</td> <td>77</td> <td>217</td> <td>163</td> <td>228</td> <td>326</td> </tr> <tr> <td>TAVI実施件数 ※上記の内数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>4</td> <td>28</td> <td>68</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>ステントグラフト挿入術 ※上記の内数</td> <td>50</td> <td>80</td> <td>81</td> <td>107</td> <td>90</td> <td>139</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>参考 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCI</td> <td>322</td> <td>506</td> <td>515</td> <td>517</td> <td>438</td> <td>438</td> </tr> <tr> <td>アブレーション</td> <td>94</td> <td>43</td> <td>189</td> <td>229</td> <td>246</td> <td>246</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	ハイブリッド手術室使用件数	-	77	217	163	228	326	TAVI実施件数 ※上記の内数	-	-	4	28	68	95	ステントグラフト挿入術 ※上記の内数	50	80	81	107	90	139	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	PCI	322	506	515	517	438	438	アブレーション	94	43	189	229	246	246	A	先端医学棟に同一手術室内での画像診断に基づく、精密で正確な手術が可能となる、MRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、高度専門医療の提供体制を充実した。ハイブリッド手術件数も順調に増加している。	A	H26年10月のハイブリッド手術室運用開始以降、使用件数は増加傾向で、TAVIの件数も順調に増加している。H28年度には東部地域の患者を集患するため東部地域の医師会に広報活動を実施した。H29年度は先端医学棟にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、高度専門医療を提供した。ハイブリッド手術件数も順調に増加している。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																				
ハイブリッド手術室使用件数	-	77	217	163	228	326																																																				
TAVI実施件数 ※上記の内数	-	-	4	28	68	95																																																				
ステントグラフト挿入術 ※上記の内数	50	80	81	107	90	139																																																				
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																				
PCI	322	506	515	517	438	438																																																				
アブレーション	94	43	189	229	246	246																																																				

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26～30)自己評価																																																																																																							
						説明	説明																																																																																																								
	<p>・がん患者に対し、地域がん診療連携拠点病院として、最新・最良の診断、ロボット支援手術などの先進的手術及び化学療法、放射線治療を組み合わせた高度な集学的治療や予防医療を提供する体制を整備するとともに、地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療を提供していく。</p>	<p>I 1 (3) ケ (ア)</p> <p>がん疾患患者に対して地域がん診療連携拠点病院としての高度な集学的治療を提供する体制の充実及び地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療の提供 ①先端医学棟を設置し、手術、放射線治療、化学療法に係るがん診療体制の充実 ②地域の医療機関等との連携による緩和ケアや終末期ケアの推進 ③がん相談及び情報提供機能の強化 ④ロボット支援手術の活用</p>	31	がん患者が速やかに検査や治療を受けられる体制を構築し、手術件数の増加に努める。	<p>総合</p> <p>がん手術件数 (がん登録と同様の病名ICDコードにて対象患者を抽出) (単位:件、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胃がん</td> <td>158</td> <td>149</td> <td>135</td> <td>136</td> <td>151</td> <td>151</td> </tr> <tr> <td>大腸がん</td> <td>246</td> <td>262</td> <td>310</td> <td>264</td> <td>263</td> <td>263</td> </tr> <tr> <td>肝がん</td> <td>87</td> <td>135</td> <td>133</td> <td>135</td> <td>112</td> <td>112</td> </tr> <tr> <td>肺がん</td> <td>110</td> <td>114</td> <td>138</td> <td>156</td> <td>164</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>乳がん</td> <td>285</td> <td>320</td> <td>334</td> <td>343</td> <td>343</td> <td>343</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1,028</td> <td>1,107</td> <td>999</td> <td>1,131</td> <td>1,125</td> <td>1,125</td> </tr> <tr> <td>がん手術合計</td> <td>1,906</td> <td>2,075</td> <td>2,011</td> <td>2,135</td> <td>2,126</td> <td>2,126</td> </tr> <tr> <td>手術全体</td> <td>6,867</td> <td>7,230</td> <td>7,753</td> <td>7,764</td> <td>8,009</td> <td>8,009</td> </tr> <tr> <td>がん手術割合</td> <td>27.8</td> <td>28.7</td> <td>25.9</td> <td>27.5</td> <td>26.5</td> <td>26.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>※年度別各種がん手術は1患者が複数手術をした場合は、それぞれ計上 ※がん手術合計、手術全体は複数手術をした場合は、主たる手術に計上</p> <p>内視鏡検査・処置 (H29.9末実績) (単位:件、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>胃がん</th> <th>大腸がん</th> <th>肝がん</th> <th>肺がん</th> <th>乳がん</th> <th>その他</th> <th>がん処置 合計</th> <th>検査・処置 全体</th> <th>がん処置 割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>98</td> <td>24</td> <td>19</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>322</td> <td>463</td> <td>5,060</td> <td>9.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>放射線治療 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>15,077</td> <td>15,545</td> <td>16,384</td> <td>16,330</td> <td>16,530</td> <td>16,730</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	胃がん	158	149	135	136	151	151	大腸がん	246	262	310	264	263	263	肝がん	87	135	133	135	112	112	肺がん	110	114	138	156	164	14	乳がん	285	320	334	343	343	343	その他	1,028	1,107	999	1,131	1,125	1,125	がん手術合計	1,906	2,075	2,011	2,135	2,126	2,126	手術全体	6,867	7,230	7,753	7,764	8,009	8,009	がん手術割合	27.8	28.7	25.9	27.5	26.5	26.5	胃がん	大腸がん	肝がん	肺がん	乳がん	その他	がん処置 合計	検査・処置 全体	がん処置 割合	98	24	19	0	0	322	463	5,060	9.2	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	件数	15,077	15,545	16,384	16,330	16,530	16,730	A	<p>先端医学棟1階に最新鋭の大型放射線機器に対応できる放射線治療室4室を整備した。加えて先端医学棟手術室にロボット支援手術室や内視鏡手術室を整備するなど高度ながん手術が安全に行われている。10月からはダヴィンチを1台追加し、2台体制となり並行稼働が可能となり、手術、放射線治療とも十分に提供できている。</p> <p>また、H26～29において、麻酔科医6名、消化器内科4名を増員し、体制強化に努めている。</p>	A	<p>がん手術件数及び放射線治療件数は、H25年度に比して、着実に増加している。H29年度は先端医学棟1階に最新鋭の大型放射線機器に対応できる放射線治療室4室を整備した。加えて先端医学棟手術室にロボット支援手術室や内視鏡手術室を整備するなど高度ながん手術が安全に行われている。10月からはダヴィンチを1台追加し、2台体制となり並行稼働が可能となり、手術件数、放射線治療とも十分に提供できている。</p> <p>また、H26～29において、麻酔科医6名、消化器内科4名を増員し、体制強化に努めている。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																									
胃がん	158	149	135	136	151	151																																																																																																									
大腸がん	246	262	310	264	263	263																																																																																																									
肝がん	87	135	133	135	112	112																																																																																																									
肺がん	110	114	138	156	164	14																																																																																																									
乳がん	285	320	334	343	343	343																																																																																																									
その他	1,028	1,107	999	1,131	1,125	1,125																																																																																																									
がん手術合計	1,906	2,075	2,011	2,135	2,126	2,126																																																																																																									
手術全体	6,867	7,230	7,753	7,764	8,009	8,009																																																																																																									
がん手術割合	27.8	28.7	25.9	27.5	26.5	26.5																																																																																																									
胃がん	大腸がん	肝がん	肺がん	乳がん	その他	がん処置 合計	検査・処置 全体	がん処置 割合																																																																																																							
98	24	19	0	0	322	463	5,060	9.2																																																																																																							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																									
件数	15,077	15,545	16,384	16,330	16,530	16,730																																																																																																									
			32	外来化学療法センターの環境整備を行い、化学療法の充実を図る。	<p>総合</p> <p>・H29 ・外来化学療法センターは、専門の認定看護師1名と認定薬剤師6名を配置し、40床のベッドを活用し、安心・安全な治療に貢献している。</p> <p>・第2期中期期間(H26～30) ・外来化学療法センターは、専門の認定看護師1名と認定薬剤師6名を配置し、40床のベッドを活用し、安心・安全な治療に貢献している。</p> <p>・H26年5月厚生労働省より抗がん剤ばく露防止に関する課長通知が出され、現在の抗がん剤調製室の設備改善が必要となった。</p> <p>・先端医学棟建設後の跡地利用の中で中央滅菌材料室跡地に移転する設計を完了した。</p> <p>外来化学療法加算 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>9,733</td> <td>9,963</td> <td>10,509</td> <td>11,171</td> <td>11,470</td> <td>11,570</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	件数	9,733	9,963	10,509	11,171	11,470	11,570	A	<p>外来化学療法が順調に伸びている。オブジーボ等の先進的な化学療法も順調に増加している。</p>	A	<p>外来化学療法室の機能拡充により、患者サービスの向上と件数を維持している。H28には認定薬剤師の配置を4名から6名へ増員し、オブジーボ等の先進的な化学療法も順調に増加している。</p> <p>また、院内改修に伴う外来化学療法センターの移転計画も着実に進んでいる。</p>																																																																																								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																									
件数	9,733	9,963	10,509	11,171	11,470	11,570																																																																																																									
			33	地域の医療機関等と連携し、緩和ケアや終末期ケアを推進する。	<p>総合</p> <p>・H29 ・緩和ケアチーム介入症例数 H29年度上半期実績：198件 (5E病棟142件、5E病棟外56件)</p> <p>・第2期中期目標期間(H26～30)</p> <p>緩和ケアチーム介入症例数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>症例数</td> <td>426</td> <td>381</td> <td>403</td> <td>372</td> <td>396</td> <td>400</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	症例数	426	381	403	372	396	400	A-	<p>がん疾患患者に対して、緩和ケアチームが積極的に介入して、介入症例数を維持している。</p>	A-	<p>がん疾患患者に対して、緩和ケアチームが積極的に介入して、介入症例数を維持している。</p>																																																																																								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																									
症例数	426	381	403	372	396	400																																																																																																									

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26～30)自己評価																																																	
						説明	説明																																																		
			34	がん相談支援センターの機能を強化し、がんに関する相談支援、情報の提供に努める。	<p>がん相談件数 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん相談</td> <td>2,457</td> <td>3,784</td> <td>3,065</td> <td>4,587</td> <td>4,460</td> <td>4,460</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	がん相談	2,457	3,784	3,065	4,587	4,460	4,460	A		A																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																			
がん相談	2,457	3,784	3,065	4,587	4,460	4,460																																																			
			35	ロボット支援手術の件数増加に努める	<ul style="list-style-type: none"> ・H29 臨床研究 胃がんロボット支援手術の適用を拡大した。ロボット支援手術(消化器外科領域 大腸・胃)28件実施見込み ・10月から先端医学棟手術室にダヴィンチを1台追加し、2台体制となり並行稼働が可能な運用体制を整備した。 ・第2期中期期間(H26～30) ・手術支援ロボット(ダヴィンチ)を導入し、泌尿器科領域、産婦人科領域、消化器外科領域において運用している。 ・臨床研究 H28 ロボット支援手術(消化器外科領域)9件実施 H29 ロボット支援手術(消化器外科領域)28件実施見込み ・適応疾患の拡大 ・H26 前立腺がん、子宮頸がんダヴィンチを用いた手術を開始 ・H27 膀胱がん適用を拡大した。 ・H28 大腸がん適用を拡大した。 H28.10 ダヴィンチを用いた腹腔鏡下膀胱全摘術の自由診療開始 H28.12 ダヴィンチを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術の先進医療開始(全国5番目、大学病院以外では全国初、県内初) <p>ダヴィンチ使用手術件数 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>診療科</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>泌尿器科</td> <td>-</td> <td>31</td> <td>77</td> <td>102</td> <td>128</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>婦人科</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>消化器外科</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>9</td> <td>28</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>36</td> <td>81</td> <td>112</td> <td>156</td> <td>160</td> </tr> </tbody> </table> <p>ダヴィンチ使用術者数 (単位: 人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>	診療科	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	泌尿器科	-	31	77	102	128	130	婦人科	-	5	4	1	-	-	消化器外科	-	-	-	9	28	30	計	0	36	81	112	156	160	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	人数	-	5	6	6	7	7	A	10月よりダヴィンチの運用が2台となり、2件の手術を並行して2件実施できるようになった。術式は泌尿器科の前立腺や腎臓の腫瘍摘出手術に加え消化器領域の胃、大腸に実施している。件数、適用疾患ともに増加している。	A
診療科	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																			
泌尿器科	-	31	77	102	128	130																																																			
婦人科	-	5	4	1	-	-																																																			
消化器外科	-	-	-	9	28	30																																																			
計	0	36	81	112	156	160																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																			
人数	-	5	6	6	7	7																																																			
	・救命救急センターとして一層の充実を図るとともに、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対応するため、高度救命救急センターを目指した整備を図る。	重篤な救急患者に対応する高度救命救急センターの運営 ①高度救命救急センター運営に必要な専門スタッフの確保・育成 ②集中治療専門医の確保 ③救急搬送患者の受入体制の充実	36	医師の増員を図るとともに、働きやすさに配慮した変則勤務が可能な体制を維持する。	<ul style="list-style-type: none"> ・H29 H29年度は救急科医師7名体制で稼働 ・第2期中期目標期間(H26～30) ・医師の変則勤務の試行を継続し、当直明けに休める制度を整えた。 ・H25年7月から、救急科医師5名体制(うち専門医2名)により、救命救急センターが稼働した。 ・H27年3月から高度救命救急センターに指定 ・H28年度は救急科医師8名、H29年度は救急科医師7名体制で稼働 <p>医師の変則勤務試行状況 (単位: %)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>該当者(人)</td> <td>1,553</td> <td>1,547</td> <td>1,444</td> <td>1,634</td> <td>1,792</td> <td>1,792</td> </tr> <tr> <td>利用者(人)</td> <td>858</td> <td>924</td> <td>935</td> <td>961</td> <td>914</td> <td>914</td> </tr> <tr> <td>利用率(%)</td> <td>55.2</td> <td>59.7</td> <td>64.7</td> <td>58.8</td> <td>51.0</td> <td>51.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※該当者：変則勤務を行うことが可能な延べ医師数 ※利用者：変則勤務を行った延べ医師数</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	該当者(人)	1,553	1,547	1,444	1,634	1,792	1,792	利用者(人)	858	924	935	961	914	914	利用率(%)	55.2	59.7	64.7	58.8	51.0	51.0	A	救命救急センターを中心にして効果的な制度設計を検討し救急患者の受入体制を維持している	A																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																			
該当者(人)	1,553	1,547	1,444	1,634	1,792	1,792																																																			
利用者(人)	858	924	935	961	914	914																																																			
利用率(%)	55.2	59.7	64.7	58.8	51.0	51.0																																																			

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価																																																																														
						説明	第2期(H26~30)自己評価																																																																													
			37	・救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。 ・ドクターカーの運用に関して、出勤可能な市町の拡大に努める。	総合 救急車受入率 (単位：%) <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>当番日</td> <td>97.4</td> <td>94.2</td> <td>97.1</td> <td>96.5</td> <td>95.5</td> <td>95.5</td> </tr> <tr> <td>全日</td> <td>91.9</td> <td>89.3</td> <td>93.0</td> <td>93.1</td> <td>92.3</td> <td>92.3</td> </tr> </table> 特殊疾病患者受入数 (単位：件) <table border="1"> <tr> <th>疾病名</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>重症熱傷</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>重症外傷</td> <td>249</td> <td>293</td> <td>368</td> <td>446</td> <td>539</td> <td>539</td> </tr> <tr> <td>急性中毒</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>病院外心停止</td> <td>127</td> <td>202</td> <td>210</td> <td>207</td> <td>207</td> <td>207</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>382</td> <td>507</td> <td>610</td> <td>683</td> <td>776</td> <td>776</td> </tr> </table> ドクターカー出勤状況 (単位：件) <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>12</td> <td>15</td> </tr> </table> ・ドクターカー協定書締結状況 ・H26 静岡市 ・H27 富士市、富士宮市 ・H28 静岡市消防局の管轄区域が3市2町に拡大 静岡市、島田市、牧之原市、吉田町、川根本町 ・H29 志太消防本部と協議中（焼津市、藤枝市）	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	当番日	97.4	94.2	97.1	96.5	95.5	95.5	全日	91.9	89.3	93.0	93.1	92.3	92.3	疾病名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	重症熱傷	4	7	14	12	12	12	重症外傷	249	293	368	446	539	539	急性中毒	2	5	18	18	18	18	病院外心停止	127	202	210	207	207	207	計	382	507	610	683	776	776	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	件数	2	4	4	7	12	15	A	A
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																														
当番日	97.4	94.2	97.1	96.5	95.5	95.5																																																																														
全日	91.9	89.3	93.0	93.1	92.3	92.3																																																																														
疾病名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																														
重症熱傷	4	7	14	12	12	12																																																																														
重症外傷	249	293	368	446	539	539																																																																														
急性中毒	2	5	18	18	18	18																																																																														
病院外心停止	127	202	210	207	207	207																																																																														
計	382	507	610	683	776	776																																																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																														
件数	2	4	4	7	12	15																																																																														
	(イ) 県立こころの医療センター	県立こころの医療センター診療事業 県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療を提供するとともに、精神科救急・急性期医療や、他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図る。 県民に提供する医療<業務の予定量> 病床数 280床 精神病床 280床 外来患者 38,942人 入院患者 55,956人	-	-	-	-	-																																																																													
	・24時間を通して精神科救急医療相談に応じるとともに、救急患者を受け入れ、新たな入院患者が早期に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。	精神科救急・急性期医療の提供体制の充実 ①救急患者が常時受け入れ可能な体制の整備及び新たな入院患者の早期退院を支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備 ②24時間365日精神科救急医療相談に対応可能な体制の整備	38	24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。	・県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応した。 ・当センター広報誌「ぬくもり」への掲載頻度を増やし、広報に努めた。 ・当センターホームページに「精神科救急ダイヤル」に関する情報を掲載し周知を図った。	A	A																																																																													
			39	新たな入院患者が90日以内に退院できるよう促進し、精神科救急入院料の施設基準を維持する。	早期治療、早期退院の実践により、救急病棟（南2）、急性期治療病棟（北2）における「新規患者率」、「新規患者3ヶ月以内在院移行率」はそれぞれの施設基準を満たしている。	A	A																																																																													

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																																									
						説明	説明																																																										
	<p>・他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療に積極的に取り組む。</p>	<p>他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対する高度医療への積極的な取組 ①高度医療（クロザピン、m-ECT（修正型電気けいれん療法）、心理・社会的治療（心理教育、家族教室等））への取組</p>	40	薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、m-ECT（修正型電気けいれん療法）を積極的に実施する。	<p>・H29 H21年7月から開始したm-ECTの治療を本年度も継続して積極的に実施している。</p> <p>・第2期中期目標期間（H26~30）</p> <p>m-ECT実施件数 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延件数(件)</td> <td>578</td> <td>836</td> <td>596</td> <td>605</td> <td>714</td> <td>714</td> </tr> <tr> <td>実患者数</td> <td>56</td> <td>68</td> <td>53</td> <td>54</td> <td>60</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>中部地区</td> <td>53</td> <td>61</td> <td>47</td> <td>51</td> <td>55</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>(静岡市)</td> <td>36</td> <td>50</td> <td>32</td> <td>43</td> <td>45</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>東部地区</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>西部地区</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	延件数(件)	578	836	596	605	714	714	実患者数	56	68	53	54	60	60	中部地区	53	61	47	51	55	55	(静岡市)	36	50	32	43	45	45	東部地区	1	3	4	2	2	2	西部地区	1	3	1	1	2	2	その他	1	1	1	0	0	0	A	薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、精神科医療では高度医療とされるm-ECT（修正型電気けいれん療法）を積極的に実施し、H28年度と比べて100件程度の増となる見込みである。	A	他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療であるm-ECTの治療に積極的に取り組んだ。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																											
延件数(件)	578	836	596	605	714	714																																																											
実患者数	56	68	53	54	60	60																																																											
中部地区	53	61	47	51	55	55																																																											
(静岡市)	36	50	32	43	45	45																																																											
東部地区	1	3	4	2	2	2																																																											
西部地区	1	3	1	1	2	2																																																											
その他	1	1	1	0	0	0																																																											
			41	先端薬物療法（クロザピンなど）を積極的に実施する。	<p>・クロザピンによる治療体制が整い、H22年4月27日、クロザリル適正使用委員会において、CPMS（クロザリル患者モニタリングサービス）登録機関として承認された。</p> <p>・静岡県内では、浜松医科大学医学部付属病院、聖隷三方原病院に次いで3番目の登録である。</p> <p>・H23年度に作成したクリニカルパスに基づき治療を開始し、これまでに41名の患者に投与している。現在30名に対して継続投与中である。</p> <p>クロザピン投与患者数 ※3月31日現在投与患者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数</td> <td>9</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	患者数	9	19	23	30	30	30	A	他の医療機関では対応困難な難治性の統合失調症に高い効果を示す先端薬物療法を積極的に実施した。	A	他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療である先端薬物療法（クロザピン投与）に積極的に取り組んだ。 クロザピンによる治療は、重篤な副作用も懸念されることから、治療にあたっては副作用回避マニュアルに基づき、十分な安全対策を今後も継続する必要がある。																																										
項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																											
患者数	9	19	23	30	30	30																																																											
			42	心理・社会的治療についての取組を積極的に実施する。	<p>・H29 入院・外来患者心理教室4クール開催 参加者延114名(H29.9.30現在)</p> <p>・第2期中期目標期間（H26~30） H22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトを、心理・社会的治療プロジェクトに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを実施した。 心理教育に関する院内外研修会を開催し、スタッフのレベルアップに努めた。</p> <p>心理教育参加者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>34</td> <td>54</td> <td>172</td> <td>206</td> <td>228</td> <td>228</td> </tr> </tbody> </table> <p>心理教育研修会参加者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>41</td> <td>162</td> <td>66</td> <td>142</td> <td>168</td> <td>168</td> </tr> </tbody> </table>	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	参加者数	34	54	172	206	228	228	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	参加者数	41	162	66	142	168	168	A	薬物療法に頼らない有効な治療の一環として、心理・社会的治療についての取組を積極的に実施した。	A	他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対して、薬物療法に頼らない有効な治療の一環として、心理教育に積極的に取り組んだ。																												
項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																											
参加者数	34	54	172	206	228	228																																																											
項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																											
参加者数	41	162	66	142	168	168																																																											

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																							
						説明	説明																																								
	<p>・入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるように、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制_を構築する。</p>	<p>○多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築 ①入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるようになるための、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築</p>	43	在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア（ACT）チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活を支援する。	<p>・H21年度に作成したガイドラインに沿って、ACTによる支援を実施した。 H22年2月の支援開始以来延べ21名の支援活動を実施し、うち9名は安定した在宅生活に移行したため支援終了、1名は転院により支援終了、2名は死亡により終了、H29は、外来患者9名への支援を継続している。</p> <p>ACT実施状況</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度見込</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">対象者</td> <td>外来</td> <td>6人</td> <td>6人</td> <td>5人</td> <td>7人</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>2人</td> <td>1人</td> <td>2人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">活動状況</td> <td>外来</td> <td colspan="6">多職種による定期訪問、ケースカンファレンス</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td colspan="6">多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス</td> </tr> </table>			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	対象者	外来	6人	6人	5人	7人	9人	9人	入院	2人	1人	2人	0人	0人	0人	活動状況	外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス						入院	多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス						A	在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア（ACT）チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制により退院後の地域生活を支援した。	A	期間を通じ、入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるように、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築に努めた。 当センターが目指す24時間365日のサポート体制による地域支援を行うには、収益を確保することが重要であり、診療報酬での評価につながるような働きかけが必要である。
		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																								
対象者	外来	6人	6人	5人	7人	9人	9人																																								
	入院	2人	1人	2人	0人	0人	0人																																								
活動状況	外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス																																													
	入院	多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス																																													
	<p>・「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療について、指定医療機関としての役割を積極的に果たす。</p>	<p>○医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与 ①「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療への、指定医療機関としての積極的な関与</p>	44	医療観察法による入院処遇対象者を受け入れ、指定医療機関としての機能を最大限に発揮する。	<p>・H21年8月より指定入院医療機関として2床で運用を開始、H23年3月末には12床への増床が完了した。 ・増床完了後対象患者の受入が進んだ結果、H23年8月以降ほぼ満床の状態が1年以上続く等高い利用率で推移している。</p> <p>医療観察法病棟の稼働状況 (単位：床・%)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度見込</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>病床数(床)</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>94.1</td> <td>97.3</td> <td>97.4</td> <td>99.1</td> <td>96.9</td> <td>96.9</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	病床数(床)	12	12	12	12	12	12	病床利用率(%)	94.1	97.3	97.4	99.1	96.9	96.9	A	年間を通じて満床に近い状態が続いており、医療観察法指定医療機関としての機能を最大限に発揮した。	A	「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療について、指定医療機関としての役割を積極的に果たした。 今後も、よりよい医療を提供するため、スタッフの一層のレベルアップが必要となる。																	
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																									
病床数(床)	12	12	12	12	12	12																																									
病床利用率(%)	94.1	97.3	97.4	99.1	96.9	96.9																																									
	(ウ) 県立こども病院	<p>I 1 (3) ケ (ウ)</p> <p>県立こども病院診療事業 県内小児医療の中核病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に対する高度・専門医療やハイリスク妊婦に対する周産期医療を提供する。 県民に提供する医療<業務の予定量></p> <p>病床数 279床 一般病床 243床 精神病床 36床 外来患者 105,234人 入院患者 81,038人</p>	-	-	-	-	-	-	-																																						

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																																																																																																								
						説明	説明																																																																																																																									
	<p>・小児重症心疾患患者に対し、24時間を通して高度な先進的治療を提供するため、ハイブリッド手術室等の先進設備を整備する。加えて、小児心疾患治療のリーディング施設として専門医等の育成に努める。</p>	<p>I 1 (3) ケ (ウ)</p> <p>小児重症心疾患患者に対し、24時間を通して高度な専門的治療を提供する体制の充実及び小児心疾患治療の先進的な施設としての専門医等の育成 ①小児重症心疾患患者へ24時間対応による専門的治療の提供体制の充実 ②小児循環器疾患治療スタッフに対する教育体制の充実や小児集中治療室(PICU)、新生児集中治療室(NICU)及び循環器集中治療室(CCU)の相互研修の実施を通じた治療レベルの向上による循環器センターの機能を強化 ③小児用補助人工心臓装置の活用 ④心エコー画像のリアルタイム遠隔診断の実施 ⑤ハイブリッド手術の適用拡大</p>	45	<p>①心臓血管外科、循環器科の連携による専門治療と、術後の集中治療を行うCCUを加えた循環器センターの体制を維持・充実させる。 ②新生児科(NICU)・小児集中治療科(PICU)と共同でカンファレンスを実施し、より研修効果をあげ、治療レベルの向上を図る。 ③補助人工心臓装置の活用を図る。 ④心エコー画像の遠隔診断を継続実施する。 ⑤ハイブリッド手術の小児への適用症例拡大を検討する。</p>	<p>・H28年に循環器病棟に準重症患者対応病室を設置し、順調に運用されている。 ・H29年1月に自治体立病院では全国初、小児専門病院では全国2番目となる小児用補助人工心臓を導入し、現在稼働中である。</p> <p>CCU稼働率 (単位:人、%)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>3,307</td> <td>3,553</td> <td>3,745</td> <td>3,297</td> <td>3,132</td> <td>3,331</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>90.6</td> <td>87.2</td> <td>85.3</td> <td>87.4</td> <td>85.8</td> <td>91.3</td> </tr> </table> <p>心臓カテーテル治療実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>実施件数</td> <td>121</td> <td>133</td> <td>156</td> <td>170</td> <td>188</td> <td>154</td> </tr> </table> <p>ハイブリッド手術実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>-</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>8</td> <td>10</td> </tr> </table> <p>心エコー画像遠隔診断実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>施設数</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>症例数</td> <td>15</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>8</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	入院延患者数	3,307	3,553	3,745	3,297	3,132	3,331	病床稼働率	90.6	87.2	85.3	87.4	85.8	91.3	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	実施件数	121	133	156	170	188	154	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	件数	-	6	12	12	8	10	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	施設数	4	4	4	4	4	4	症例数	15	9	7	5	2	8	A	<p>・心臓血管外科、循環器科の連携による専門治療と、術後の集中治療を行うCCUを加えた循環器センターの体制を維持・充実により、多くの小児重症心疾患患者を受け入れている。 ・準重症患者対応病室を設置し、小児重症心疾患患者を受け入れる体制の拡充を図った。 ・H28年度に導入した小児用補助人工心臓は稼働中である。 ・ハイブリッド手術室では手術を行い実績を重ねるとともに、心臓カテーテル治療件数も順調に推移している。</p>	A	<p>H26年度にハイブリッド手術室を設置し、H成28年度には小児用補助人工心臓の導入と準重症患者対応病室を設置するなど循環器治療の更なる充実を図った。</p>																																																	
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																										
入院延患者数	3,307	3,553	3,745	3,297	3,132	3,331																																																																																																																										
病床稼働率	90.6	87.2	85.3	87.4	85.8	91.3																																																																																																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																										
実施件数	121	133	156	170	188	154																																																																																																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																										
件数	-	6	12	12	8	10																																																																																																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																										
施設数	4	4	4	4	4	4																																																																																																																										
症例数	15	9	7	5	2	8																																																																																																																										
	<p>・地域の医療機関と連携して、ハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの構築に努めるとともに、新生児に対して、高度な先進的治療を提供するための体制を拡充する。</p>	<p>地域の医療機関と連携したハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの維持・充実と新生児に対しての高度な専門的治療を提供する体制の拡充 ①すべてのハイリスク出産に対応できるシステム作り ②先天異常の出生前超音波診断や、出生後の管理・処置のための機器整備 ③新生児集中治療室(NICU)における低侵襲手術の実施</p>	46	<p>①地域の産科医療機関との前方・後方連携を更に強化、症例検討会・研修会を通じ産科医の診断能力向上を図る。 ②最新式の超音波診断装置を導入する。 ③必要に応じNICU内での手術を継続実施する。</p>	<p>地域医療機関向け研修会等開催実績 (単位:回、人)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>研修会等回数</td> <td>7</td> <td>17</td> <td>14</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>331</td> <td>961</td> <td>743</td> <td>637</td> <td>605</td> <td>655</td> </tr> </table> <p>NICU診療実績 (単位:人、%)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>5,444</td> <td>5,410</td> <td>5,927</td> <td>6,411</td> <td>6,160</td> <td>6,285</td> </tr> </table> <p>GPU診療実績 (単位:人、%)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>5,014</td> <td>4,863</td> <td>4,679</td> <td>4,855</td> <td>4,356</td> <td>4,753</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>76.3</td> <td>74.0</td> <td>71.0</td> <td>73.9</td> <td>66.3</td> <td>72.3</td> </tr> </table> <p>MPICU診療実績 (単位:人、%)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>2,095</td> <td>2,087</td> <td>2,098</td> <td>2,007</td> <td>2,114</td> <td>2,080</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>95.7</td> <td>95.3</td> <td>95.5</td> <td>91.6</td> <td>96.5</td> <td>95.0</td> </tr> </table> <p>新生児出生体重別入院患者実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <tr> <th>体重(g)</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>500未満</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>500~1,000</td> <td>33</td> <td>48</td> <td>26</td> <td>36</td> <td>26</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>1,000~1,500</td> <td>48</td> <td>44</td> <td>36</td> <td>22</td> <td>24</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>1,500以上</td> <td>166</td> <td>148</td> <td>160</td> <td>144</td> <td>138</td> <td>151</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>250</td> <td>242</td> <td>225</td> <td>209</td> <td>192</td> <td>224</td> </tr> </table> <p>・NICU内の手術は、H25年度に3件、H26年度に3件を行った。</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	研修会等回数	7	17	14	10	10	12	参加者数	331	961	743	637	605	655	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	入院延患者数	5,444	5,410	5,927	6,411	6,160	6,285	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	入院延患者数	5,014	4,863	4,679	4,855	4,356	4,753	病床稼働率	76.3	74.0	71.0	73.9	66.3	72.3	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	入院延患者数	2,095	2,087	2,098	2,007	2,114	2,080	病床稼働率	95.7	95.3	95.5	91.6	96.5	95.0	体重(g)	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	500未満	3	2	3	7	4	4	500~1,000	33	48	26	36	26	34	1,000~1,500	48	44	36	22	24	35	1,500以上	166	148	160	144	138	151	合計	250	242	225	209	192	224	A	<p>・地域医療機関を対象とした研修会、検討会を定期的に開催し、地域の周産期医療のレベルアップを図っている。 ・NICUの入院延患者数は一定の水準にある。 ・他の医療機関では対応が困難な超低出生体重児、極低出生体重児を数多く受け入れている。</p>	A	<p>地域の医療機関との連携のもと、超低出生体重児治療など県内の新生児医療の充実に寄与できた。 NICU稼働病床数の増加により入院延患者数は増加し高度な専門的治療を提供できた。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																										
研修会等回数	7	17	14	10	10	12																																																																																																																										
参加者数	331	961	743	637	605	655																																																																																																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																										
入院延患者数	5,444	5,410	5,927	6,411	6,160	6,285																																																																																																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																										
入院延患者数	5,014	4,863	4,679	4,855	4,356	4,753																																																																																																																										
病床稼働率	76.3	74.0	71.0	73.9	66.3	72.3																																																																																																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																										
入院延患者数	2,095	2,087	2,098	2,007	2,114	2,080																																																																																																																										
病床稼働率	95.7	95.3	95.5	91.6	96.5	95.0																																																																																																																										
体重(g)	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																										
500未満	3	2	3	7	4	4																																																																																																																										
500~1,000	33	48	26	36	26	34																																																																																																																										
1,000~1,500	48	44	36	22	24	35																																																																																																																										
1,500以上	166	148	160	144	138	151																																																																																																																										
合計	250	242	225	209	192	224																																																																																																																										
<p>・本県における小児がんの拠点機能を有する病院として、高度な集学的治療に積極的に取り組む。</p>	<p>小児がん診療の連携拠点病院として、高度な集学的治療への積極的な取組 ①小児がんの集学的治療推進、セカンドオピニオンの受入れなど、静岡県小児がん拠点病院としての機能強化 ②院内がん登録の推進 ③県立静岡がんセンターとの連携強化</p>	47	<p>①②静岡県小児がん拠点病院として血液腫瘍に対しては、骨髓・末梢血幹細胞・臍帯血移植などの治療法を利用して対応する。 ①②小児がん連携拠点病院の指定を念頭に置き、診療の更なる充実を図る。 ③県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施する。</p>	<p>血液腫瘍科延患者数実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>7,032</td> <td>6,947</td> <td>9,613</td> <td>8,301</td> <td>8,287</td> <td>8,539</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>3,645</td> <td>3,396</td> <td>3,533</td> <td>3,691</td> <td>3,676</td> <td>3,676</td> </tr> </table> <p>造血幹細胞移植実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>骨髓移植</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>臍帯血</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>自家末梢血</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>同種末梢血</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>13</td> </tr> </table> <p>小児がん登録件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>登録件数</td> <td>12</td> <td>57</td> <td>46</td> <td>61</td> <td>90</td> <td>90</td> </tr> </table> <p>・H28年度から、2ヶ月に1回、県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施している。</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	入院	7,032	6,947	9,613	8,301	8,287	8,539	外来	3,645	3,396	3,533	3,691	3,676	3,676	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	骨髓移植	9	9	4	4	4	7	臍帯血	1	1	0	2	2	1	自家末梢血	2	2	8	5	3	4	同種末梢血	1	1	1	0	0	1	計	13	13	13	11	9	13	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	登録件数	12	57	46	61	90	90	A	<p>・静岡県小児がん拠点病院として、県内小児がん患者の半数以上を受入れ、固形がんについても脳神経外科等との連携のもと対応している。 ・県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを行い、連携を図っている。</p>	A	<p>県内の小児がん治療の中心病院として、県立がんセンターとの連携など診療の更なる充実を図った。</p>																																											
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																										
入院	7,032	6,947	9,613	8,301	8,287	8,539																																																																																																																										
外来	3,645	3,396	3,533	3,691	3,676	3,676																																																																																																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																										
骨髓移植	9	9	4	4	4	7																																																																																																																										
臍帯血	1	1	0	2	2	1																																																																																																																										
自家末梢血	2	2	8	5	3	4																																																																																																																										
同種末梢血	1	1	1	0	0	1																																																																																																																										
計	13	13	13	11	9	13																																																																																																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																										
登録件数	12	57	46	61	90	90																																																																																																																										

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30) 自己評価																																																																													
						説明	説明																																																																														
	<p>・24時間を通して重篤な小児救命救急患者の受入体制を維持・強化するとともに、救急医療全般にわたって地域の医療機関と分担して受け入れる体制を整備する。</p>	<p>24時間を通して重篤な小児救命救急患者を受け入れる体制の維持及び地域で不足する小児救急医療体制の補完等、小児救急医療のモデルとなる体制整備 ①院内各専門領域のバックアップによる、小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした小児救急医療全般にわたる受入体制の強化、拡充 ②小児救命救急センターとしてメディカルコントロール体制整備への協力 ③小児救急専門スタッフの教育の充実</p>	48	<p>①PICU（小児集中治療センター）・救急総合診療科を中心として小児救急医療体制の強化を図る。 ①小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした、365日24時間小児救急患者の受入可能な体制を維持、充実させる。 ③院内の小児救急専門スタッフ（医師、看護師）育成に努める。</p>	<p>1) 小児救命救急センター</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>1,424</td> <td>1,734</td> <td>1,716</td> <td>1,338</td> <td>1,332</td> <td>1,009</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	入院患者数	1,424	1,734	1,716	1,338	1,332	1,009	A	<p>・小児救命救急センターの指定を受けているPICUと小児救急センターを中心に、24時間365日を通して、軽症から重症まで小児救急患者を多く受け入れている。 ・ER開設以降、富士富士宮、志太榛原等の救急患者が増加しており、地域で不足する小児救急体制を補完している。 ・PICU病棟に専門スタッフを配置し、小児救急体制の充実を図っている。</p>	<p>A</p> <p>H25年6月に小児救急センター（ER）を開設し、小児救命救急センターとともにあらゆる救急患者を受け入れる体制を確立するとともに、地域で即している救急医療体制の補完にも寄与できた。</p>																																																															
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																															
入院患者数	1,424	1,734	1,716	1,338	1,332	1,009																																																																															
			49	<p>②地域の医療・消防機関で構成されるメディカルコントロール協議会に参加するとともに、PICUの主催により、救急医療・救急（消防）業務従事者向けの研究会、実習講習を行う。</p>	<p>各地域の医療機関、消防機関が参加するメディカルコントロール協議会に当院も参加した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">対象</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児救命救急研究会</td> <td>小児医療、救急医療関係者</td> <td>193</td> <td>210</td> <td>155</td> <td>150</td> <td>152</td> <td>172</td> </tr> <tr> <td>救急救命士再教育病院実習</td> <td>救急救命士</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>16</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table>	対象		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	小児救命救急研究会	小児医療、救急医療関係者	193	210	155	150	152	172	救急救命士再教育病院実習	救急救命士	12	9	2	6	16	9	A	<p>救急隊員を対象とした研修会等を定期的に開催し、県下の小児救急医療の質の向上を図っている。</p>	<p>A</p> <p>継続的に救急隊員への研修などを実施し、小児救命救急センターとしてメディカルコントロール体制整備への協力をし、小児救急医療の質の向上を図った。</p>																																																					
対象		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																														
小児救命救急研究会	小児医療、救急医療関係者	193	210	155	150	152	172																																																																														
救急救命士再教育病院実習	救急救命士	12	9	2	6	16	9																																																																														
	<p>・精神疾患を持つ小児患者やその家族に対して、児童精神科分野における中核的機能の発揮に努める。</p>	<p>子どものこころの診療分野の県内における中核的機能の発揮 ①子どもの精神科専門病棟を有するこども病院としての強みを発揮 ②「子どもの心の診療ネットワーク事業」の拠点病院として、教育・福祉・医療機関の連携ネットワークの更なる拡大、充実 ③臨床研修の充実による児童精神科医の継続的育成</p>	50	<p>①県内の児童精神科医療の中核機関としての治療の充実と、必要に応じ、身体疾患を有する患者に対し当該担当科と連携して治療する。</p>	<p>こころの診療科診療実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>10,688</td> <td>10,546</td> <td>9,455</td> <td>10,086</td> <td>10,400</td> <td>11,308</td> </tr> <tr> <td>入院新患者数</td> <td>54</td> <td>44</td> <td>54</td> <td>54</td> <td>66</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>外来延患者数</td> <td>12,188</td> <td>12,331</td> <td>12,532</td> <td>12,311</td> <td>12,500</td> <td>12,600</td> </tr> <tr> <td>外来初診患者数</td> <td>521</td> <td>540</td> <td>492</td> <td>477</td> <td>494</td> <td>508</td> </tr> </tbody> </table> <p>こころの診療科地域別実患者数実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東部</td> <td>671</td> <td>715</td> <td>732</td> <td>755</td> <td>805</td> <td>805</td> </tr> <tr> <td>中部</td> <td>1,010</td> <td>1,034</td> <td>1,094</td> <td>1,077</td> <td>1,149</td> <td>1,149</td> </tr> <tr> <td>西部</td> <td>52</td> <td>53</td> <td>52</td> <td>54</td> <td>64</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>16</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,744</td> <td>1,813</td> <td>1,885</td> <td>1,896</td> <td>2,034</td> <td>2,034</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	入院延患者数	10,688	10,546	9,455	10,086	10,400	11,308	入院新患者数	54	44	54	54	66	52	外来延患者数	12,188	12,331	12,532	12,311	12,500	12,600	外来初診患者数	521	540	492	477	494	508	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	東部	671	715	732	755	805	805	中部	1,010	1,034	1,094	1,077	1,149	1,149	西部	52	53	52	54	64	64	県外	11	11	7	10	16	16	合計	1,744	1,813	1,885	1,896	2,034	2,034	A	<p>中部地域だけでなく、児童精神科の医療機関が少ない東部地域からも多くの患者を受け入れた。</p>	<p>A</p> <p>県内児童精神の中核病院として、診療を行うとともに関係機関との連携、支援を行った。 発達障害の受診が増大し、外来診療の負担増となっているため、発達小児科や神経科とともに、今後の診療体制を検討する必要がある。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																															
入院延患者数	10,688	10,546	9,455	10,086	10,400	11,308																																																																															
入院新患者数	54	44	54	54	66	52																																																																															
外来延患者数	12,188	12,331	12,532	12,311	12,500	12,600																																																																															
外来初診患者数	521	540	492	477	494	508																																																																															
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																															
東部	671	715	732	755	805	805																																																																															
中部	1,010	1,034	1,094	1,077	1,149	1,149																																																																															
西部	52	53	52	54	64	64																																																																															
県外	11	11	7	10	16	16																																																																															
合計	1,744	1,813	1,885	1,896	2,034	2,034																																																																															
			51	<p>厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県拠点病院として参加する。</p>	<p>事業を行っている全国18都府県23拠点病院の一つとして参加した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度見込</th> <th colspan="2">30年度見込</th> </tr> <tr> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設</th> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設</th> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設</th> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設</th> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設</th> <th>精神保健講座</th> <th>児童養護施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象</td> <td>県内小中学校教諭・家族</td> <td>県内小中学校教諭・家族</td> <td>県内小中学校教諭・家族</td> <td>県内小中学校教諭・家族</td> <td>県内小中学校教諭・家族</td> <td>県内小中学校教諭・家族</td> <td>県内小中学校教諭・家族</td> <td>県内小中学校教諭・家族</td> <td>県内小中学校教諭・家族</td> <td>県内小中学校教諭・家族</td> <td>県内小中学校教諭・家族</td> <td>県内小中学校教諭・家族</td> </tr> <tr> <td>参加者数等</td> <td>5回 133人</td> <td>16回 8施設 196人</td> <td>5回 20回 10施設 166人</td> <td>5回 22回 11施設 135人</td> <td>5回 10回 10施設 167人</td> <td>5回 10回 10施設 163人</td> <td>5回 20回 10施設 163人</td> <td>5回 20回 10施設 163人</td> <td>5回 20回 10施設 163人</td> <td>5回 20回 10施設 163人</td> <td>5回 20回 10施設 163人</td> <td>5回 20回 10施設 163人</td> </tr> </tbody> </table> <p>(拠点病院を配置している都府県) 東京都、神奈川県、石川県、山梨県、長野県、静岡県、三重県、大阪府、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、香川県、福岡県、佐賀県、大分県、熊本県、沖縄県</p>	区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度見込		30年度見込		精神保健講座	児童養護施設	精神保健講座	児童養護施設	精神保健講座	児童養護施設	精神保健講座	児童養護施設	精神保健講座	児童養護施設	精神保健講座	児童養護施設	対象	県内小中学校教諭・家族	県内小中学校教諭・家族	県内小中学校教諭・家族	県内小中学校教諭・家族	県内小中学校教諭・家族	県内小中学校教諭・家族	県内小中学校教諭・家族	県内小中学校教諭・家族	県内小中学校教諭・家族	県内小中学校教諭・家族	県内小中学校教諭・家族	県内小中学校教諭・家族	参加者数等	5回 133人	16回 8施設 196人	5回 20回 10施設 166人	5回 22回 11施設 135人	5回 10回 10施設 167人	5回 10回 10施設 163人	5回 20回 10施設 163人	5回 20回 10施設 163人	5回 20回 10施設 163人	5回 20回 10施設 163人	5回 20回 10施設 163人	5回 20回 10施設 163人	A	<p>急増する子どもの心の問題に関するネットワーク構築のため、学校・地域との連携強化を図り、県内の小児精神保健ネットワークの中核的な役割を果たしている。</p>	<p>A</p> <p>子どもの心の診療ネットワークには全国18都府県の拠点病院の一つとして厚労省の事業開始当初から参画し、継続して中核的役割を果たした。</p>																										
区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度見込		30年度見込																																																																										
	精神保健講座	児童養護施設	精神保健講座	児童養護施設	精神保健講座	児童養護施設	精神保健講座	児童養護施設	精神保健講座	児童養護施設	精神保健講座	児童養護施設																																																																									
対象	県内小中学校教諭・家族	県内小中学校教諭・家族	県内小中学校教諭・家族	県内小中学校教諭・家族	県内小中学校教諭・家族	県内小中学校教諭・家族	県内小中学校教諭・家族	県内小中学校教諭・家族	県内小中学校教諭・家族	県内小中学校教諭・家族	県内小中学校教諭・家族	県内小中学校教諭・家族																																																																									
参加者数等	5回 133人	16回 8施設 196人	5回 20回 10施設 166人	5回 22回 11施設 135人	5回 10回 10施設 167人	5回 10回 10施設 163人	5回 20回 10施設 163人	5回 20回 10施設 163人	5回 20回 10施設 163人	5回 20回 10施設 163人	5回 20回 10施設 163人	5回 20回 10施設 163人																																																																									

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																											
						説明	説明																																												
			52	児童精神科医の育成に努める	有期職員医師を1名採用し(H25年度から延べ5名)、専門的な児童精神科医を育成している。 有期職員医師採用実績 (単位:人) <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> <tr> <td>採用人数</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	採用人数	1	1	1	1	1	1	A	児童精神科臨床研修として有期職員医師を採用し、児童精神科医の育成を行った。	A	期間中継続して、児童精神科臨床研修として有期職員医師を採用し、児童精神科医の育成を行っている。																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																													
採用人数	1	1	1	1	1	1																																													
第2 2 医療に関する技術者(医師、看護師及びその他の医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上 優秀な医師、看護師等医療従事者を確保し、育成するため、魅力ある病院として、これら医療従事者から評価され選ばれるよう、研修機能の充実・強化を図ること。また、国内外との交流による研修の充実に努めること。	第2 2 医療に関する技術者(医師、看護師及びその他の医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上 県立病院が提供する医療の質の向上を図り、最適な医療を安全に提供するため、医療従事者が専門業務に専念できる体制の整備や就労環境の向上などを図ることにより、優秀な人材の確保に努めるとともに、教育研修機能の充実や国内外の医療機関との交流などを推進し、医療従事者の育成に積極的に取り組む。	I 2	医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	53 業務運営に必要な人材の確保に努める。	総合病院正規職員数(医師除く) 各年度4月1日時点(単位:人) <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度予定</th> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>646</td> <td>654</td> <td>678</td> <td>748</td> <td>804</td> <td>810</td> </tr> <tr> <td>医療技術者</td> <td>184</td> <td>196</td> <td>215</td> <td>211</td> <td>208</td> <td>208</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>38</td> <td>41</td> <td>49</td> <td>51</td> <td>52</td> <td>55</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	看護師	646	654	678	748	804	810	医療技術者	184	196	215	211	208	208	事務	38	41	49	51	52	55	A	人材確保対策本部を設置し、キャラバン隊による県外養成校の訪問や広報活動の強化、看護師就学金貸与制度の拡充等の多岐にわたる新たな取組を導入し、積極的な人材確保に努めた結果、29年度随時採用を含め68名(H29年9月26日現在採用内定応諾者数)の看護師を採用した。	A	H25年より看護師の紹介業者を通じた採用を行い、H27年度より人材確保対策本部を設置し、キャラバン隊による県外養成校の訪問や広報活動の強化、看護師就学金貸与制度の拡充等の多岐にわたる新たな取組を導入し、積極的な人材確保に努めた結果、看護師必要数はほぼ確保された。														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																													
看護師	646	654	678	748	804	810																																													
医療技術者	184	196	215	211	208	208																																													
事務	38	41	49	51	52	55																																													
			54	研修医の確保に努める。	初期臨床研修医数 (単位:人) <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度予定</th> </tr> <tr> <td>1年生</td> <td>19(2)</td> <td>22(2)</td> <td>20(2)</td> <td>21(2)</td> <td>22(2)</td> <td>23(3)</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>18(3)</td> <td>18(2)</td> <td>22(2)</td> <td>19(2)</td> <td>21(2)</td> <td>20(2)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>37(5)</td> <td>40(4)</td> <td>42(4)</td> <td>40(4)</td> <td>43(4)</td> <td>43(5)</td> </tr> </table> ※()うち自治医科大学出身者 後期臨床研修医数 (単位:人) <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度予定</th> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>42</td> <td>50</td> <td>54</td> <td>58</td> <td>50</td> <td>54</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	1年生	19(2)	22(2)	20(2)	21(2)	22(2)	23(3)	2年生	18(3)	18(2)	22(2)	19(2)	21(2)	20(2)	計	37(5)	40(4)	42(4)	40(4)	43(4)	43(5)	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	人数	42	50	54	58	50	54	A	H29年度は、初期臨床研修医1年生22名、2年生21名の合計43名を確保した。後期研修医は50名を確保した。	A	研修医の確保については、年度ごとの計画の人数を確保できている。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																													
1年生	19(2)	22(2)	20(2)	21(2)	22(2)	23(3)																																													
2年生	18(3)	18(2)	22(2)	19(2)	21(2)	20(2)																																													
計	37(5)	40(4)	42(4)	40(4)	43(4)	43(5)																																													
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																													
人数	42	50	54	58	50	54																																													
					後期研修医数 (単位:人) <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度予定</th> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	人数	3	2	2	4	4	4	A	研修医の確保については、計画どおりとなっている。	A	研修による育成を通じ、後期研修医の確保ができた。新専門医制度へも対応し、H30年度開始に向け、H29年度にプログラムを作成した。																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																													
人数	3	2	2	4	4	4																																													
					後期研修医数 (単位:人) <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度予定</th> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>15</td> <td>15</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	人数	14	15	16	16	15	15	A	後期研修医は定員どおり受け入れている。新専門医制度へも対応し、今年度から新プログラムで研修を行っている。	A	後期研修医は期間中定員どおり受け入れた。新専門医制度へも対応し、H29年度から新プログラムで研修を行っている。																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																													
人数	14	15	16	16	15	15																																													

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																																																																																																																																																																			
						説明	説明																																																																																																																																																																																				
			55	即時的で効果的な人材を確保するため、採用試験を適宜実施する。	<p>・H29 看護師については、定時募集に加えて随時募集を実施し、切れ目のない採用試験を実施している。また、総合病院においては紹介業者を通じた採用も合わせて行った。さらに優秀な人材確保のためコメディカルにおいてアソシエイトの公募試験を開始した。</p> <p>・第2期中期目標期間(H26~30) 正規職員の確保状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度予定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">法人合計</td> <td>医師</td> <td>226</td> <td>230</td> <td>241</td> <td>245</td> <td>260</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>1,179</td> <td>1,221</td> <td>1,251</td> <td>1,317</td> <td>1,370</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>289</td> <td>304</td> <td>327</td> <td>320</td> <td>315</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>105</td> <td>109</td> <td>118</td> <td>119</td> <td>118</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,801</td> <td>1,869</td> <td>1,941</td> <td>2,006</td> <td>2,067</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">本部</td> <td>看護師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>26</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>27</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>31</td> <td>29</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">総合</td> <td>医師</td> <td>123</td> <td>127</td> <td>135</td> <td>144</td> <td>157</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>646</td> <td>654</td> <td>678</td> <td>748</td> <td>804</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>184</td> <td>196</td> <td>215</td> <td>211</td> <td>208</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>38</td> <td>41</td> <td>49</td> <td>51</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>992</td> <td>1,021</td> <td>1,080</td> <td>1,158</td> <td>1,224</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">こころ</td> <td>医師</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>113</td> <td>114</td> <td>110</td> <td>114</td> <td>115</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>24</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>162</td> <td>167</td> <td>161</td> <td>165</td> <td>166</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">こども</td> <td>医師</td> <td>91</td> <td>90</td> <td>94</td> <td>89</td> <td>91</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>419</td> <td>452</td> <td>461</td> <td>453</td> <td>449</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>80</td> <td>81</td> <td>85</td> <td>83</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>619</td> <td>652</td> <td>669</td> <td>654</td> <td>650</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定	法人合計	医師	226	230	241	245	260	歯科医師	2	5	4	5	4	看護師	1,179	1,221	1,251	1,317	1,370	医療技術	289	304	327	320	315	事務	105	109	118	119	118	計	1,801	1,869	1,941	2,006	2,067	本部	看護師	1	1	2	2	2	医療技術	1	1	1			事務	26	27	28	27	25	計	28	29	31	29	27	総合	医師	123	127	135	144	157	歯科医師	1	3	3	4	3	看護師	646	654	678	748	804	医療技術	184	196	215	211	208	事務	38	41	49	51	52	計	992	1,021	1,080	1,158	1,224	こころ	医師	12	13	12	12	12	歯科医師		1				看護師	113	114	110	114	115	医療技術	24	26	26	26	26	事務	13	13	13	13	13	計	162	167	161	165	166	こども	医師	91	90	94	89	91	歯科医師	1	1	1	1	1	看護師	419	452	461	453	449	医療技術	80	81	85	83	81	事務	28	28	28	28	28	計	619	652	669	654	650	<p>看護師試験については、年3回の定時募集に加えて、経験者随時募集を年8回実施し、年間で切れ目のない募集を実施した。なお、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報(WEB、情報誌等)、修学資金貸与制度の拡充、養成校訪問など様々な確保対策を進め、採用数の増加に繋がっている。</p> <p>コメディカルについては、必要な職種について適時、募集を実施しており、栄養士、言語聴覚士についてアソシエイトの公募試験を開始し優秀な人材の確保に努めた。</p>	<p>医師、看護師をはじめ必要な人材を確保することができており、特に看護師については確保対策を進めた結果、25年度と比較し約200名の増員を達成し、稼動病床の増加につなげることができた。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度予定																																																																																																																																																																																					
法人合計	医師	226	230	241	245	260																																																																																																																																																																																					
	歯科医師	2	5	4	5	4																																																																																																																																																																																					
	看護師	1,179	1,221	1,251	1,317	1,370																																																																																																																																																																																					
	医療技術	289	304	327	320	315																																																																																																																																																																																					
	事務	105	109	118	119	118																																																																																																																																																																																					
計	1,801	1,869	1,941	2,006	2,067																																																																																																																																																																																						
本部	看護師	1	1	2	2	2																																																																																																																																																																																					
	医療技術	1	1	1																																																																																																																																																																																							
	事務	26	27	28	27	25																																																																																																																																																																																					
計	28	29	31	29	27																																																																																																																																																																																						
総合	医師	123	127	135	144	157																																																																																																																																																																																					
	歯科医師	1	3	3	4	3																																																																																																																																																																																					
	看護師	646	654	678	748	804																																																																																																																																																																																					
	医療技術	184	196	215	211	208																																																																																																																																																																																					
	事務	38	41	49	51	52																																																																																																																																																																																					
計	992	1,021	1,080	1,158	1,224																																																																																																																																																																																						
こころ	医師	12	13	12	12	12																																																																																																																																																																																					
	歯科医師		1																																																																																																																																																																																								
	看護師	113	114	110	114	115																																																																																																																																																																																					
	医療技術	24	26	26	26	26																																																																																																																																																																																					
	事務	13	13	13	13	13																																																																																																																																																																																					
計	162	167	161	165	166																																																																																																																																																																																						
こども	医師	91	90	94	89	91																																																																																																																																																																																					
	歯科医師	1	1	1	1	1																																																																																																																																																																																					
	看護師	419	452	461	453	449																																																																																																																																																																																					
	医療技術	80	81	85	83	81																																																																																																																																																																																					
	事務	28	28	28	28	28																																																																																																																																																																																					
計	619	652	669	654	650																																																																																																																																																																																						
			56	就職説明会への参加や多角的な広報の実施などにより、必要な職員の確保を目指す。	<p>・H29 合同就職説明会に参加し、機構受験者の確保に努めた。新卒看護師向け求人誌への看護師募集記事の掲載を行った。</p> <p>看護学生向け就職説明会 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>来場者数</th> <th>訪問者数</th> <th>受験者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ナース専科(静岡)</td> <td>200</td> <td>157</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>ナースナビ(浜松)</td> <td>204</td> <td>45</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>(新潟)</td> <td>296</td> <td>29</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>(徳島)</td> <td>272</td> <td>18</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>キャリアタス看護(東京)</td> <td>319</td> <td>32</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>マイナビ(浜松)</td> <td>22</td> <td>22</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>(静岡)</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>(沼津)</td> <td>40</td> <td>32</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>業者計</td> <td>1,378</td> <td>360</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>静岡県立大学</td> <td>132</td> <td>83</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>常葉大学</td> <td>266</td> <td>78</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>聖隷クリストファー大学</td> <td>50</td> <td>16</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>順天堂大学</td> <td>120</td> <td>46</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>静岡市立看護専門学校</td> <td>34</td> <td>34</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>東部看護専門学校</td> <td>240</td> <td>109</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>養成校計</td> <td>842</td> <td>366</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2,220</td> <td>726</td> <td>144</td> </tr> </tbody> </table>	区分	来場者数	訪問者数	受験者数	ナース専科(静岡)	200	157	47	ナースナビ(浜松)	204	45	0	(新潟)	296	29	0	(徳島)	272	18	0	キャリアタス看護(東京)	319	32	0	マイナビ(浜松)	22	22	7	(静岡)	25	25	1	(沼津)	40	32	3	業者計	1,378	360	58	静岡県立大学	132	83	41	常葉大学	266	78	22	聖隷クリストファー大学	50	16	10	順天堂大学	120	46	2	静岡市立看護専門学校	34	34	0	東部看護専門学校	240	109	11	養成校計	842	366	86	計	2,220	726	144	<p>企業主催の説明会については、県内・県外会場等、参加回数を増やし、より多くの看護学生と面談し、病院機構をPRすることができた。</p> <p>また、養成校主催の説明会へも昨年に引き続き参加をし、現在の学生の動向等をつかむことができた。</p>	<p>県内・県外会場の合同就職説明会、養成校主催説明会の参加回数を増やし、より多くの看護学生と面談をすることで、必要な職員の確保ができた。</p>																																																																																																												
区分	来場者数	訪問者数	受験者数																																																																																																																																																																																								
ナース専科(静岡)	200	157	47																																																																																																																																																																																								
ナースナビ(浜松)	204	45	0																																																																																																																																																																																								
(新潟)	296	29	0																																																																																																																																																																																								
(徳島)	272	18	0																																																																																																																																																																																								
キャリアタス看護(東京)	319	32	0																																																																																																																																																																																								
マイナビ(浜松)	22	22	7																																																																																																																																																																																								
(静岡)	25	25	1																																																																																																																																																																																								
(沼津)	40	32	3																																																																																																																																																																																								
業者計	1,378	360	58																																																																																																																																																																																								
静岡県立大学	132	83	41																																																																																																																																																																																								
常葉大学	266	78	22																																																																																																																																																																																								
聖隷クリストファー大学	50	16	10																																																																																																																																																																																								
順天堂大学	120	46	2																																																																																																																																																																																								
静岡市立看護専門学校	34	34	0																																																																																																																																																																																								
東部看護専門学校	240	109	11																																																																																																																																																																																								
養成校計	842	366	86																																																																																																																																																																																								
計	2,220	726	144																																																																																																																																																																																								

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																																																							
						説明	説明																																																																								
			57	看護師修学資金制度の積極的広報をし、活用推進により、更なる看護師確保を目指す。	看護師修学資金の状況 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決定</td> <td>73</td> <td>74</td> <td>123</td> <td>88</td> <td>105</td> <td>60</td> <td>523</td> </tr> <tr> <td>継続</td> <td>52</td> <td>80</td> <td>99</td> <td>126</td> <td>163</td> <td>178</td> <td>698</td> </tr> <tr> <td>取消</td> <td>▲6</td> <td>▲12</td> <td>▲11</td> <td>▲5</td> <td>▲6</td> <td>▲8</td> <td>▲48</td> </tr> <tr> <td>貸与計</td> <td>119</td> <td>142</td> <td>211</td> <td>209</td> <td>262</td> <td>230</td> <td>1,173</td> </tr> <tr> <td>採用</td> <td>38</td> <td>33</td> <td>76</td> <td>40</td> <td>62</td> <td>-</td> <td>249</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	計	決定	73	74	123	88	105	60	523	継続	52	80	99	126	163	178	698	取消	▲6	▲12	▲11	▲5	▲6	▲8	▲48	貸与計	119	142	211	209	262	230	1,173	採用	38	33	76	40	62	-	249	A	一定数の募集が集まり、今後安定的な看護師確保が期待される。効率的・効果的な周知等を行い看護師の確保につながった。	A	一定数の募集が集まり、安定的な看護師確保がなされた。																						
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	計																																																																								
決定	73	74	123	88	105	60	523																																																																								
継続	52	80	99	126	163	178	698																																																																								
取消	▲6	▲12	▲11	▲5	▲6	▲8	▲48																																																																								
貸与計	119	142	211	209	262	230	1,173																																																																								
採用	38	33	76	40	62	-	249																																																																								
			58	看護部幹部や事務部幹部による養成校の訪問を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・H29 看護師確保キャラバン隊が県外42校を訪問した。 ・第2期中期目標期間 (H26~H30) 看護師確保担当を本部事務部に設置し、H26年度県内19校、県外93校、27年度県内21校、県外220校の看護師養成校の訪問を行い、募集活動を行うとともに、情報収集を行った。 H27年度からは、看護師人材確保会議において、看護師確保キャラバンを創設し、機構幹部(院長代理、副院長兼看護部長、副看護部長等)が、県外養成校を訪問した。 看護師確保キャラバン隊の状況 (単位:校) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>山形県</td> <td>10</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>新潟県</td> <td>0</td> <td>10</td> <td>0</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>石川県</td> <td>11</td> <td>0</td> <td>8</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>福井県</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>山梨県</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>長野県</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>岐阜県</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>三重県</td> <td>10</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>徳島県</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>佐賀県</td> <td>7</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>鹿児島県</td> <td>0</td> <td>11</td> <td>0</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>沖縄県</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>63</td> <td>47</td> <td>42</td> <td>152</td> </tr> </tbody> </table>		27年度	28年度	29年度	計	山形県	10	0	0	10	新潟県	0	10	0	10	石川県	11	0	8	19	福井県	0	0	1	1	山梨県	4	2	5	11	長野県	6	4	1	11	岐阜県	10	7	9	26	三重県	10	5	4	19	徳島県	0	0	7	7	佐賀県	7	0	0	7	鹿児島県	0	11	0	11	沖縄県	5	8	7	20	計	63	47	42	152	A	看護師確保キャラバン隊が県内外の看護師養成校を訪問し、県立3病院等の特色や強み等をPRするとともに、各養成校の学生の就職状況等について情報を収集し、採用活動に活かすことができた。	A	期間を通じ、看護師確保担当看護部長や看護師確保キャラバン隊が看護師養成校を訪問することで大きな成果を上げ看護師が充足した。
	27年度	28年度	29年度	計																																																																											
山形県	10	0	0	10																																																																											
新潟県	0	10	0	10																																																																											
石川県	11	0	8	19																																																																											
福井県	0	0	1	1																																																																											
山梨県	4	2	5	11																																																																											
長野県	6	4	1	11																																																																											
岐阜県	10	7	9	26																																																																											
三重県	10	5	4	19																																																																											
徳島県	0	0	7	7																																																																											
佐賀県	7	0	0	7																																																																											
鹿児島県	0	11	0	11																																																																											
沖縄県	5	8	7	20																																																																											
計	63	47	42	152																																																																											
			59	看護師・その他医療従事者等の実習・アルバイト研修等の受入れを推進する。	実習・アルバイト研修等の受入れ(H29.9末時点) (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>医師</th> <th>医学生</th> <th>看護師</th> <th>看護学生</th> <th>コメディカル</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>7</td> <td>141</td> <td>20</td> <td>298</td> <td>151</td> <td>617</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>20</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>272</td> <td>16</td> <td>315</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>44</td> <td>17</td> <td>156</td> <td>102</td> <td>40</td> <td>359</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>71</td> <td>163</td> <td>178</td> <td>672</td> <td>207</td> <td>1,291</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・H29 総合では、学生用電子カルテ、デスク等実習環境を整備し、「急性期だからこそ」の看護、実習を通して、学生が魅力を感じる医療現場となるよう対応した。 ・こころでは、昨年度に引き続き、多くの実習生を受け入れ、精神科病院における看護のやりがい等を伝えた。 ・こども病院では、看護師確保用DVDをリニューアルに向けて作成中。 	区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総合	7	141	20	298	151	617	こころ	20	5	2	272	16	315	こども	44	17	156	102	40	359	計	71	163	178	672	207	1,291	A	研修の受入に関しては、実習生の要請に応じた魅力的な研修体制を構築した。	A	研修の受入について、門戸を広げた受入に努め、より多くの実習受入を実現するための戦略を図っている。																																			
区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計																																																																									
総合	7	141	20	298	151	617																																																																									
こころ	20	5	2	272	16	315																																																																									
こども	44	17	156	102	40	359																																																																									
計	71	163	178	672	207	1,291																																																																									

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																																																																																																																					
						説明	説明																																																																																																																																						
<p>(1)医師の卒後臨床研修の充実・強化等</p> <p>医師の卒後臨床研修や専門研修の受入れ体制の充実・強化を図り、優秀な医師の確保及び育成に努めること。また、看護師及びその他の医療従事者の資質向上のため、研修の充実を図るとともに、看護師養成施設等からの実習生受入れなど、県内の看護師の養成に協力すること。</p>	<p>(1)医師の卒後臨床研修の充実・強化等</p> <p>県立病院が核となり、特色のある研修プログラムの開発とその推進体制を強化し、研修医にとって魅力あるプログラムを提供する。また、県立総合病院のメディカルスキルアップセンターの活用や、県立こども病院のラーニングセンター整備を行い、医師、看護師及びその他の医療従事者の教育研修体制の強化に努めるとともに、実習生の受入れや職員の派遣等、国内外の医療機関との交流を進める。</p>	<p>I 2 (1)</p> <p>医師の卒後臨床研修の充実・強化等 ①研修医に選ばれた良質な臨床研修指定病院としての臨床研修機能の充実 ②医師の技術・知識の向上のための一般研修及び海外研修の充実、海外医師の招聘による研修の充実 ③県立総合病院メディカルスキルアップセンターを活用した教育研修の充実、複数病院との共同利用で合同一次・二次救命処置トレーニングの実施 ④県立こども病院ラーニングセンターの運用 ⑤国際交流の推進 ⑥認定看護師等の資格取得への支援 ⑦看護学生等に対する魅力的な実習の提供 ⑧コメディカル・事務職員の研修</p>	60	<p>○医師 ・医師の技術力の向上を目指し、海外研修等を奨励する。 ・医師の卒後臨床研修等の強化を図り、県立病院に相応しい医療従事者を確実に確保し、充足させる。</p>	<p>・H29(総合) ・医師や研修医の海外研修への参加により、研修内容の充実を図ることができた。 ・海外での学会発表実績 15件 (H29.9末時点) ・海外の学会に治療実績等の発表を行い技術力の高さを示した</p> <p>(総合) 海外研修の実績 (H29.9末時点) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">内 容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>米国内分沁学会</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>血管アクセス学会</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>米国胸部外科学会</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>米国胸部疾患学会</td><td></td><td>3</td></tr> <tr><td>米国がん治療学会議</td><td></td><td>3</td></tr> <tr><td>小児泌尿器科学会</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州呼吸器学会国際会議</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>ヨーロッパ肩肘学会学術大会</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州糖尿病学会議</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>国際コンチネンス学会議</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>ヨーロッパ肩肘学会学術大会</td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>臨床研修医UCLA研修</td><td></td><td>6</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td>24</td></tr> </tbody> </table> <p>海外での学会発表実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>総合</td><td>5</td><td>27</td><td>26</td><td>32</td><td>36</td><td>36</td></tr> <tr><td>こども</td><td>20</td><td>32</td><td>45</td><td>36</td><td>33</td><td>33</td></tr> </tbody> </table> <p>・海外の学会に治療実績等の発表を行い技術力0の高さを示した。 ・海外研修の報告は、院内には定例医局会・院内連絡会で行われており、対外的には研修医募集のホームページに掲載している</p> <p>海外研修の主な実績 (H29.9末時点) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>内 容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>総 合</td><td>臨床研修医UCLA研修</td><td>6</td></tr> <tr><td></td><td>海外学会(米国胸部疾患学会他)</td><td>6</td></tr> <tr><td>こ ころ</td><td>-</td><td>0</td></tr> <tr><td>こども</td><td>アメリカ心エコー学会議</td><td>1</td></tr> <tr><td></td><td>アメリカ胸部外科学会</td><td>1</td></tr> <tr><td></td><td>小児外科国際シンポジウム</td><td>3</td></tr> </tbody> </table>	内 容		人数	米国内分沁学会		2	血管アクセス学会		1	米国胸部外科学会		1	米国胸部疾患学会		3	米国がん治療学会議		3	小児泌尿器科学会		1	欧州呼吸器学会国際会議		2	ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会		1	ヨーロッパ肩肘学会学術大会		1	欧州糖尿病学会議		1	国際コンチネンス学会議		1	ヨーロッパ肩肘学会学術大会		1	臨床研修医UCLA研修		6	計		24	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	総合	5	27	26	32	36	36	こども	20	32	45	36	33	33	区 分	内 容	人数	総 合	臨床研修医UCLA研修	6		海外学会(米国胸部疾患学会他)	6	こ ころ	-	0	こども	アメリカ心エコー学会議	1		アメリカ胸部外科学会	1		小児外科国際シンポジウム	3	<p>A- 医師を対象とした「研究事業費」を充実し、研究や海外研修に必要な予算・制度を整えている。</p>	<p>A- 期間を通じて、医師を対象とした「研究事業費」を充実し、研究や海外研修に必要な予算・制度を整えている。</p>																																															
内 容		人数																																																																																																																																											
米国内分沁学会		2																																																																																																																																											
血管アクセス学会		1																																																																																																																																											
米国胸部外科学会		1																																																																																																																																											
米国胸部疾患学会		3																																																																																																																																											
米国がん治療学会議		3																																																																																																																																											
小児泌尿器科学会		1																																																																																																																																											
欧州呼吸器学会国際会議		2																																																																																																																																											
ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会		1																																																																																																																																											
ヨーロッパ肩肘学会学術大会		1																																																																																																																																											
欧州糖尿病学会議		1																																																																																																																																											
国際コンチネンス学会議		1																																																																																																																																											
ヨーロッパ肩肘学会学術大会		1																																																																																																																																											
臨床研修医UCLA研修		6																																																																																																																																											
計		24																																																																																																																																											
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																																							
総合	5	27	26	32	36	36																																																																																																																																							
こども	20	32	45	36	33	33																																																																																																																																							
区 分	内 容	人数																																																																																																																																											
総 合	臨床研修医UCLA研修	6																																																																																																																																											
	海外学会(米国胸部疾患学会他)	6																																																																																																																																											
こ ころ	-	0																																																																																																																																											
こども	アメリカ心エコー学会議	1																																																																																																																																											
	アメリカ胸部外科学会	1																																																																																																																																											
	小児外科国際シンポジウム	3																																																																																																																																											
			61	<p>メディカルスキルアップセンターの活用の促進を図る。</p>	<p>・H29 ・先端医学棟の開棟に伴い、循環器病センター6階から先端医学棟2階へ拡張移転した。 ・新たに各種の高度なシミュレーター、模擬病棟、講義室を整備した。 ・静岡県が推進する「ふじのくにバーチャルメディカルカレッジ」に対応。</p> <p>・第2期中期期間(H26~30) ・外部利用について、使用規程、料金規程の案を作成し、運用開始した。</p> <p>総合</p> <p>メディカルスキルアップセンター利用状況 (単位:回、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度見込</th> <th colspan="2">30年度見込</th> </tr> <tr> <th>回</th> <th>人</th> <th>回</th> <th>人</th> <th>回</th> <th>人</th> <th>回</th> <th>人</th> <th>回</th> <th>人</th> <th>回</th> <th>人</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">医師</td> <td>開催回</td> <td>140</td> <td>40</td> <td>223</td> <td>37</td> <td>503</td> <td>42</td> <td>548</td> <td>29</td> <td>482</td> <td>26</td> <td>482</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>1,573</td> <td>214</td> <td>2,467</td> <td>179</td> <td>3,334</td> <td>298</td> <td>2,656</td> <td>212</td> <td>2,880</td> <td>74</td> <td>2,880</td> <td>74</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">看護師</td> <td>開催回</td> <td>152</td> <td>30</td> <td>184</td> <td>33</td> <td>190</td> <td>30</td> <td>199</td> <td>28</td> <td>124</td> <td>18</td> <td>124</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>1,327</td> <td>222</td> <td>2,404</td> <td>172</td> <td>2,650</td> <td>265</td> <td>3,290</td> <td>252</td> <td>2,190</td> <td>100</td> <td>2,190</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">その他</td> <td>開催回</td> <td>86</td> <td>66</td> <td>107</td> <td>73</td> <td>163</td> <td>122</td> <td>158</td> <td>96</td> <td>110</td> <td>80</td> <td>110</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>1,575</td> <td>809</td> <td>1,183</td> <td>850</td> <td>2,343</td> <td>1,785</td> <td>3,008</td> <td>1,526</td> <td>3,178</td> <td>2,962</td> <td>3,178</td> <td>2,962</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計</td> <td>開催回</td> <td>378</td> <td>145</td> <td>514</td> <td>143</td> <td>856</td> <td>194</td> <td>905</td> <td>153</td> <td>716</td> <td>130</td> <td>716</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>4,475</td> <td>1,245</td> <td>6,054</td> <td>1,201</td> <td>8,652</td> <td>2,488</td> <td>8,954</td> <td>1,990</td> <td>8,248</td> <td>3,136</td> <td>8,248</td> <td>3,136</td> </tr> </tbody> </table>	区 分		25年度		26年度		27年度		28年度		29年度見込		30年度見込		回	人	回	人	回	人	回	人	回	人	回	人	医師	開催回	140	40	223	37	503	42	548	29	482	26	482	26	参加人数	1,573	214	2,467	179	3,334	298	2,656	212	2,880	74	2,880	74	看護師	開催回	152	30	184	33	190	30	199	28	124	18	124	18	参加人数	1,327	222	2,404	172	2,650	265	3,290	252	2,190	100	2,190	100	その他	開催回	86	66	107	73	163	122	158	96	110	80	110	80	参加人数	1,575	809	1,183	850	2,343	1,785	3,008	1,526	3,178	2,962	3,178	2,962	計	開催回	378	145	514	143	856	194	905	153	716	130	716	130	参加人数	4,475	1,245	6,054	1,201	8,652	2,488	8,954	1,990	8,248	3,136	8,248	3,136	<p>A 先端医学棟の開棟に伴い、循環器病センター6階から先端医学棟2階へ拡張移転した。設備や機器の更なる充実を行った。各種の高度なシミュレーターを導入し、医療スタッフや学生の高度なトレーニングや講習が可能となった。</p>	<p>A 継続的にメディカルスキルアップセンターが利用され、医師、看護師等の技術の修得、向上が行われている。H29年7月の先端医学棟の開棟に伴い、循環器病センター6階から先端医学棟2階へ拡張移転した。設備や機器の更なる充実を行った。各種の高度なシミュレーターを導入し、医療スタッフや学生の高度なトレーニングや講習が可能となった。</p>
区 分		25年度		26年度				27年度		28年度		29年度見込		30年度見込																																																																																																																															
		回	人	回	人	回	人	回	人	回	人	回	人																																																																																																																																
医師	開催回	140	40	223	37	503	42	548	29	482	26	482	26																																																																																																																																
	参加人数	1,573	214	2,467	179	3,334	298	2,656	212	2,880	74	2,880	74																																																																																																																																
看護師	開催回	152	30	184	33	190	30	199	28	124	18	124	18																																																																																																																																
	参加人数	1,327	222	2,404	172	2,650	265	3,290	252	2,190	100	2,190	100																																																																																																																																
その他	開催回	86	66	107	73	163	122	158	96	110	80	110	80																																																																																																																																
	参加人数	1,575	809	1,183	850	2,343	1,785	3,008	1,526	3,178	2,962	3,178	2,962																																																																																																																																
計	開催回	378	145	514	143	856	194	905	153	716	130	716	130																																																																																																																																
	参加人数	4,475	1,245	6,054	1,201	8,652	2,488	8,954	1,990	8,248	3,136	8,248	3,136																																																																																																																																

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																									
						説明	説明																										
			62	ラーニングセンターの活用の促進を図る。	後期研修医を募集するセミナー、新生児の蘇生講習会及び新人看護師を対象とした点滴ルート確保の実習等で利用している。	B	医師や看護師を対象とした研修で活用している。	B	H27年度に旧手術室を改修してラーニングルームを開設し、医師、看護師の実習研修に役立てた。 今後、活用を促進するために計画的な運用手順を作成する必要がある。																								
			63	海外との視察者等の受け入れや派遣など、国際交流の推進を図る。	海外視察・講演等の派遣・受入 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>視察・講演等派遣</td> <td>16</td> <td>9</td> <td>13</td> <td>53</td> <td>55</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>視察・研修等受入</td> <td>65</td> <td>36</td> <td>39</td> <td>44</td> <td>45</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	視察・講演等派遣	16	9	13	53	55	55	視察・研修等受入	65	36	39	44	45	45	A	先端医学棟の開棟に伴い、海外からの視察等の受入れ体制を強化し、中国を始めとした海外との国際交流を積極的に実施し、国際交流の推進を図った。	A	浙江省からの研修生を受入れ、継続的に交流した。 先端医学棟関連や、浙江省友好提携周年事業などの行事により積極的な交流を行った。			
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																											
視察・講演等派遣	16	9	13	53	55	55																											
視察・研修等受入	65	36	39	44	45	45																											
			64	・看護師及びその他の医療従事者のスキルアップを図るため、認定看護師の育成のほか医療従事者等の研修等を推進する。 ・認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することで、資格取得者の増員を図る。	総合 ・シドニー・ウエストメッド小児病院から医師を招聘するとともに、H29年度には当院の医師2名をウエストメッド小児病院に派遣している。 ・H29年10月に浙江大学医学院附属兒童医院から研修医を受け入れ、11月には兒童医院へ訪問し友好協力協定を締結することとした。	A	ウエストメッド小児病院との交流は、海外における最先端の医療技術を学ぶ良い機会となった。 浙江大学医学院附属兒童医院と積極的な交流を行った。	A	ウエストメッド小児病院とは、医師の招聘や子ども病院から後期研修医を派遣するなど継続的に交流した。 浙江大学医学院附属兒童医院とは幹部が相互に訪問し、友好協力協定を締結するなど積極的に交流した。																								
			64	・看護師及びその他の医療従事者のスキルアップを図るため、認定看護師の育成のほか医療従事者等の研修等を推進する。 ・認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することで、資格取得者の増員を図る。	総合 主な医療職種資格取得者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>人数</th> <th>専門・認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門看護師</td> <td>3</td> <td>がん看護、急性・重症患者看護、慢性疾患看護</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>14</td> <td>救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、透析看護 がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、精神看護</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>39</td> <td>指導薬剤師、日本医療学会認定、がん薬物療法認定、感染制御認定、がん専門認定実務実習指導、認定CRC、妊婦・授乳婦薬剤療法、栄養サポートチーム専門 抗菌薬科学療法認定、禁煙認定専門、緩和薬物療法認定、小児薬物療法認定 がん指導、糖尿病療養指導、薬物療法指導</td> </tr> <tr> <td>理学療法士</td> <td>7</td> <td>専門理学療法士(運動器、呼吸器、内部障害)、日本リハビリテーション指導士</td> </tr> <tr> <td>放射線技師</td> <td>17</td> <td>放射線治療専門、放射線治療品質管理、PET認定、救急撮影</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2</td> <td>糖尿病療養指導</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>82</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	職種	人数	専門・認定領域	専門看護師	3	がん看護、急性・重症患者看護、慢性疾患看護	認定看護師	14	救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、透析看護 がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、精神看護	薬剤師	39	指導薬剤師、日本医療学会認定、がん薬物療法認定、感染制御認定、がん専門認定実務実習指導、認定CRC、妊婦・授乳婦薬剤療法、栄養サポートチーム専門 抗菌薬科学療法認定、禁煙認定専門、緩和薬物療法認定、小児薬物療法認定 がん指導、糖尿病療養指導、薬物療法指導	理学療法士	7	専門理学療法士(運動器、呼吸器、内部障害)、日本リハビリテーション指導士	放射線技師	17	放射線治療専門、放射線治療品質管理、PET認定、救急撮影	その他	2	糖尿病療養指導	計	82		A	感染管理、集中ケア等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を各病院に配置し、組織を横断的に活動することができた。また、認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することで、資格取得者の増員を図った。	A	総合病院では、期間を通じて、感染管理、集中ケア等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を配置し、組織を横断的に活動することができた。 こころの医療センターでは、H29年度に感染管理認定看護師1名を増員し、看護師の資質向上に努めた。 子ども病院では、H29年度には小児救急看護の認定看護師を1名増員した。
職種	人数	専門・認定領域																															
専門看護師	3	がん看護、急性・重症患者看護、慢性疾患看護																															
認定看護師	14	救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、透析看護 がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、精神看護																															
薬剤師	39	指導薬剤師、日本医療学会認定、がん薬物療法認定、感染制御認定、がん専門認定実務実習指導、認定CRC、妊婦・授乳婦薬剤療法、栄養サポートチーム専門 抗菌薬科学療法認定、禁煙認定専門、緩和薬物療法認定、小児薬物療法認定 がん指導、糖尿病療養指導、薬物療法指導																															
理学療法士	7	専門理学療法士(運動器、呼吸器、内部障害)、日本リハビリテーション指導士																															
放射線技師	17	放射線治療専門、放射線治療品質管理、PET認定、救急撮影																															
その他	2	糖尿病療養指導																															
計	82																																
					こころ 認定看護師取得者数 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>人数</th> <th>専門・認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定看護師</td> <td>7</td> <td>精神科</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>感染管理</td> </tr> </tbody> </table>	区分	人数	専門・認定領域	認定看護師	7	精神科		1	感染管理																			
区分	人数	専門・認定領域																															
認定看護師	7	精神科																															
	1	感染管理																															
					子ども <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>人数</th> <th>専門・認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門看護師</td> <td>1</td> <td>小児看護</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>12</td> <td>皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、緩和ケア1名、新生児集中ケア2名、がん化学療法1名、感染管理2名、小児救急看護2名、手術室看護1名、精神看護1名</td> </tr> </tbody> </table>	区分	人数	専門・認定領域	専門看護師	1	小児看護	認定看護師	12	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、緩和ケア1名、新生児集中ケア2名、がん化学療法1名、感染管理2名、小児救急看護2名、手術室看護1名、精神看護1名																			
区分	人数	専門・認定領域																															
専門看護師	1	小児看護																															
認定看護師	12	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、緩和ケア1名、新生児集中ケア2名、がん化学療法1名、感染管理2名、小児救急看護2名、手術室看護1名、精神看護1名																															

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																																																																																															
						説明	説明																																																																																																																
			65	臨床現場に即した、より実践的な研修を提供する。	実習・アルバイト研修等の受入れ (H29.9末時点) (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>医師</th> <th>医学生</th> <th>看護師</th> <th>看護学生</th> <th>コメディカル</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>7</td> <td>141</td> <td>20</td> <td>298</td> <td>151</td> <td>617</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>20</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>272</td> <td>16</td> <td>315</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>44</td> <td>17</td> <td>156</td> <td>102</td> <td>40</td> <td>359</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>71</td> <td>163</td> <td>178</td> <td>672</td> <td>207</td> <td>1,291</td> </tr> </tbody> </table>	区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総合	7	141	20	298	151	617	こころ	20	5	2	272	16	315	こども	44	17	156	102	40	359	計	71	163	178	672	207	1,291	A	先端医学棟2階に教育研修部を設置し、メディカルスキルアップセンターを整備した。臨床現場に即した、より実践的な研修やトレーニングが可能となり医師をはじめとする医療スタッフ、学生の実習、研修等の受け入れ体制を強化した。	A	先端医学棟2階に教育研修部を設置し、メディカルスキルアップセンターを整備した。臨床現場に即した、より実践的な研修が提供できた。																																																																											
区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計																																																																																																																	
総合	7	141	20	298	151	617																																																																																																																	
こころ	20	5	2	272	16	315																																																																																																																	
こども	44	17	156	102	40	359																																																																																																																	
計	71	163	178	672	207	1,291																																																																																																																	
			66	研修体系プログラムの整備と研修内容の充実を図る。	職員研修参加者数 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規採用職員研修</td> <td>147</td> <td>144</td> <td>145</td> <td>136</td> <td>126</td> <td></td> </tr> <tr> <td>新規役付職員研修</td> <td>24</td> <td>26</td> <td>15</td> <td>10</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>新規監督者研修</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>28</td> <td>25</td> <td>18</td> <td></td> </tr> <tr> <td>新任管理者・新任監督者研修</td> <td>6</td> <td>17</td> <td>-</td> <td>34</td> <td>28</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション講座</td> <td>17</td> <td>23</td> <td>21</td> <td>20</td> <td>24</td> <td></td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション講座</td> <td>40</td> <td>29</td> <td>31</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ファシリテーション講座</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>23</td> <td>20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コーチング講座</td> <td>32</td> <td>32</td> <td>28</td> <td>32</td> <td>18</td> <td></td> </tr> <tr> <td>メンタルサポート講座</td> <td>23</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>25</td> <td>実施予定</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	新規採用職員研修	147	144	145	136	126		新規役付職員研修	24	26	15	10	4		新規監督者研修	14	14	28	25	18		新任管理者・新任監督者研修	6	17	-	34	28		コミュニケーション講座	17	23	21	20	24		プレゼンテーション講座	40	29	31	-	-		ファシリテーション講座	-	-	-	23	20		コーチング講座	32	32	28	32	18		メンタルサポート講座	23	20	21	25	実施予定		A	階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修を実施した。	A	階層別、業務に必要なスキル等を身につける専門研修について毎年研修内容の見直しを行ない、研修体制プログラムを整備した。																																								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																	
新規採用職員研修	147	144	145	136	126																																																																																																																		
新規役付職員研修	24	26	15	10	4																																																																																																																		
新規監督者研修	14	14	28	25	18																																																																																																																		
新任管理者・新任監督者研修	6	17	-	34	28																																																																																																																		
コミュニケーション講座	17	23	21	20	24																																																																																																																		
プレゼンテーション講座	40	29	31	-	-																																																																																																																		
ファシリテーション講座	-	-	-	23	20																																																																																																																		
コーチング講座	32	32	28	32	18																																																																																																																		
メンタルサポート講座	23	20	21	25	実施予定																																																																																																																		
(2)就労環境の向上 優秀な医療従事者を確保するため、働きやすく、また、働きがいのある病院となるよう、ワーク・ライフ・バランスの確保や職員の精神面を含めた健康保持に配慮し、就労環境の向上を図ること。	(2)就労環境の向上 仕事と生活の調和に配慮した雇用形態や勤務時間の設定、時間外勤務の縮減、職員の健康保持への配慮や院内保育所の活用など職員が働きやすく、また、働きがいを実感できるような環境づくりを進める。	I 2 (2)		<ul style="list-style-type: none"> ワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態や勤務時間など柔軟な勤務条件の設定 医療従事者が本来業務に専念できる環境の整備 職員の意欲を高め、勤務実績が的確に反映される人事・給与制度の検討 職員が働きやすい施設等の環境整備 県立こども病院院内保育所建替え 	67	柔軟な職員採用や多様な雇用形態・勤務条件の設定を図る。 ・H29 ・看護師の2交代制勤務については、H29年度10月末で総合病院16病棟、こころの医療センター3病棟、こども病院9病棟となっている。 ・看護師の夜勤専従について、3病院で試行を行っている。 ・看護師、事務、コメディカルの優秀な有期職員をアソシエイトに登用し人材確保を図った。 ・H29年度から新たに採用した医師を対象に、初任給調整手当を廃止し、その原資を活用して、期間内の手術や外来等の診療実績を評価して支給する診療賞与を導入した。 ・第2期中期目標期間(H26~30) ・法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮し、患者に必要な医療を適切に提供するとともに、経営改善及び職員の勤務条件の改善に取り組んだ。 ・看護師の2交代制勤務については、労働組合との合意により試行を経て制度化し、H26年度以降も実施病棟を拡大した。 ・看護師の夜勤専従については、労働組合との合意により試行を実施している。 ・H28年度から新たにアソシエイト制度を創設し、優秀な有期職員の登用を進めている。 アソシエイト採用実績 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>5</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>-</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	看護師	5	1	事務	2	2	コメディカル	-	3	計	7	6	A	看護師の2交代制や夜勤専従の取組など、雇用形態の多様化を図った。 看護師や事務職員に続き、コメディカルでもアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めた。 診療賞与の導入により、医師の診療実績を的確に反映する給与体系となった。	A	法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮し、期間を通じて看護師の2交代制病棟は拡大し、夜勤専従の試行を行うことで、多様な雇用形態への取組を進めた。 アソシエイト制度の創設により、職員採用において柔軟な登用が可能となり、人材確保が図られている。																																																																																														
区分	28年度	29年度																																																																																																																					
看護師	5	1																																																																																																																					
事務	2	2																																																																																																																					
コメディカル	-	3																																																																																																																					
計	7	6																																																																																																																					
			68	医療従事者の事務的業務の軽減を図り、本来業務に専念できる環境の整備や業務多忙を解消するために、医療秘書・助手等を効果的に配置する。	補助職員の配置状況 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> <th>増減(H29-H28)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">総合</td> <td>医師事務補助</td> <td>31</td> <td>50</td> <td>55</td> <td>66</td> <td>73</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>71</td> <td>88</td> <td>81</td> <td>80</td> <td>74</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>16</td> <td>18</td> <td>17</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こころ</td> <td>小計</td> <td>118</td> <td>156</td> <td>153</td> <td>164</td> <td>165</td> <td>166</td> </tr> <tr> <td>医師事務補助</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こども</td> <td>小計</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>医師事務補助</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>20</td> <td>19</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>21</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">計</td> <td>小計</td> <td>42</td> <td>41</td> <td>44</td> <td>45</td> <td>44</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>医師事務補助</td> <td>50</td> <td>69</td> <td>75</td> <td>86</td> <td>93</td> <td>93</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>100</td> <td>117</td> <td>110</td> <td>110</td> <td>104</td> <td>105</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>22</td> <td>24</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>172</td> <td>210</td> <td>209</td> <td>221</td> <td>222</td> <td>223</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	増減(H29-H28)	総合	医師事務補助	31	50	55	66	73	73	看護助手	71	88	81	80	74	75	コメディカル助手	16	18	17	18	18	18	こころ	小計	118	156	153	164	165	166	医師事務補助	1	1	2	2	2	2	看護助手	9	10	8	8	9	9	こども	小計	12	13	12	12	13	13	医師事務補助	18	18	18	18	18	18	看護助手	20	19	21	22	21	21	計	小計	42	41	44	45	44	44	医師事務補助	50	69	75	86	93	93	看護助手	100	117	110	110	104	105	コメディカル助手	22	24	24	25	25	25	小計	172	210	209	221	222	223	A	医師の事務補助を行う職員の配置については、電子カルテの入力業務等により、医師が診療に専念できる等、事務負担軽減の効果が確認されている。 総合では、医師の増加、外来診療枠の拡大に応じて医師事務作業補助者を増員し、医療従事者が診療に専念できるように配置している。診療報酬においては、最上位基準を維持している。 また、看護助手等の補助職員の配置により、医療従事者が国家資格所有者でなければできない業務に専念できている。	A	期間を通じて、補助職員等を配置することで、医療従事者の事務的業務の軽減が図られている。 25年度と比較し特に総合病院の医師事務補助者を大幅に増員し、医師の事務負担軽減することができている。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	増減(H29-H28)																																																																																																																
総合	医師事務補助	31	50	55	66	73	73																																																																																																																
	看護助手	71	88	81	80	74	75																																																																																																																
	コメディカル助手	16	18	17	18	18	18																																																																																																																
こころ	小計	118	156	153	164	165	166																																																																																																																
	医師事務補助	1	1	2	2	2	2																																																																																																																
	看護助手	9	10	8	8	9	9																																																																																																																
こども	小計	12	13	12	12	13	13																																																																																																																
	医師事務補助	18	18	18	18	18	18																																																																																																																
	看護助手	20	19	21	22	21	21																																																																																																																
計	小計	42	41	44	45	44	44																																																																																																																
	医師事務補助	50	69	75	86	93	93																																																																																																																
	看護助手	100	117	110	110	104	105																																																																																																																
コメディカル助手	22	24	24	25	25	25																																																																																																																	
小計	172	210	209	221	222	223																																																																																																																	

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価																																													
						説明	第2期(H26~30)自己評価																																												
				69 看護師、コメディカル、事務職員に対する勤務成績評価制度の試行を円滑に実施する。	・H29 ・勤務成績評価制度の試行を行うとともに、平成30年4月から県に準拠した人事評価制度を導入することを職員組合と合意した。 ・第2期中期目標期間(H26~30) ・H26年10月より看護師監督者層を対象とした勤務成績評価制度の試行を開始した。 ・試行対象職員 看護師監督者層(看護部長、副看護部長、看護師長、副看護部長) ・H27年度は、対象をコメディカル監督者層及び事務職員(県派遣職員)、管理者層に拡大し、試行した。 ・H28年度は、対象を看護師、コメディカル及び事務職員(プロパー)の副主任以上とし、試行した。 ・H30年4月から県に準拠した人事評価制度を実施予定。	A	A																																												
				70 就労環境の改善に向けた院内施設の充実のための検討を進める。	・H29 総合病院では、医師確保対策を更に推進するため、医師宿舎新規建設の準備を進めた。また、院内保育所は運営協議会にて、事務局、委託先、利用者間で意見交換を行った。 こども病院院内保育所は、院内保育所建替えに向け基本設計を終了し、静岡市の開発許可を得た。 ・第2期中期目標期間(H26~30) 総合病院では宿舎の大規模修繕(H26.27)、新看護師宿舎の建設(H27)を行い、院内保育所では、土曜日の保育時間延長や、入所者へのインフルエンザ予防接種を行った。 また、医師の就労環境の改善のため、医師クラブをH30年度に整備予定である。 こども病院では、研修医宿舎(F棟)の改修(H28)を行い、院内保育所の建替えは、H29年度下半期に建設を着工し、H30年度上半期に竣工予定である。	A	A																																												
				71 院内保育所建替え工事を実施し運営方針を策定する。	こども 運営方針を決定し、H28年度に市と敷地(市街化調整区域)に関する協議を進め、H29年度中の設計、建築を予定している。	A	A																																												
(3)知識や技術の普及 県内の医療従事者の質の向上を図るため、県立病院が培った知識や技術を積極的に普及させること。また、医療従事者の養成に協力すること。	(3)知識や技術の普及 医療従事者が他の機関・団体における研修や研究等の活動に参画しやすい体制を維持するとともに、院内研修等教育研修機能を県内の医療従事者へ積極的に開放していく。	I 2 (3)	知識や技術の普及 ①学会や研修会等へ積極的に参加できる仕組みづくり ②認定看護師等の資格保有者の活用 ③県内の医療従事者への教育研修機能の開放	72 研究雑費や研究旅費等の予算化等により学会や研修会等への参加がしやすい体制を維持する。	・H29 ・研究研修費を活用し、職員が積極的に学会や研修会等に参加した。 ・医師や研修医をはじめとする医療スタッフが研究雑費や研究旅費等の予算化等により国内外の学会や研修会へ参加した。 (総合) 海外研修の実績 (H29.9末時点) (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>米国内分泌学会</td><td>2</td></tr> <tr><td>血管アクセス学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>米国胸部外科学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>米国胸部疾患学会</td><td>3</td></tr> <tr><td>米国内分泌学会</td><td>3</td></tr> <tr><td>小児泌尿器科学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州呼吸器学会国際会議</td><td>2</td></tr> <tr><td>ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会</td><td>1</td></tr> <tr><td>ヨーロッパ肩肘学会学術大会</td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州糖尿病学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>国際コンチネンス学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>ヨーロッパ肩肘学会学術大会</td><td>1</td></tr> <tr><td>臨床研修医UCLA研修</td><td>6</td></tr> <tr><td>計</td><td>24</td></tr> </tbody> </table> 学会発表実績 (国内外) (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発表数</td> <td>412</td> <td>460</td> <td>472</td> <td>578</td> <td>580</td> <td>600</td> </tr> </tbody> </table>	内 容	人数	米国内分泌学会	2	血管アクセス学会	1	米国胸部外科学会	1	米国胸部疾患学会	3	米国内分泌学会	3	小児泌尿器科学会	1	欧州呼吸器学会国際会議	2	ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会	1	ヨーロッパ肩肘学会学術大会	1	欧州糖尿病学会	1	国際コンチネンス学会	1	ヨーロッパ肩肘学会学術大会	1	臨床研修医UCLA研修	6	計	24	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	発表数	412	460	472	578	580	600	A	A
内 容	人数																																																		
米国内分泌学会	2																																																		
血管アクセス学会	1																																																		
米国胸部外科学会	1																																																		
米国胸部疾患学会	3																																																		
米国内分泌学会	3																																																		
小児泌尿器科学会	1																																																		
欧州呼吸器学会国際会議	2																																																		
ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会	1																																																		
ヨーロッパ肩肘学会学術大会	1																																																		
欧州糖尿病学会	1																																																		
国際コンチネンス学会	1																																																		
ヨーロッパ肩肘学会学術大会	1																																																		
臨床研修医UCLA研修	6																																																		
計	24																																																		
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																													
発表数	412	460	472	578	580	600																																													
				こころ 学会発表実績 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学会発表件数</td> <td>22</td> <td>3</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	学会発表件数	22	3	8	10	10	10	A	A																															
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																													
学会発表件数	22	3	8	10	10	10																																													

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																																																																																																																																																		
						説明	説明																																																																																																																																																																			
					研究研修費を活用し、職員が積極的に学会や研修会等に参加した。 学会発表実績 (単位:件) <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度見込</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>事業件数</td> <td>451</td> <td>466</td> <td>468</td> <td>496</td> <td>470</td> <td>470</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	事業件数	451	466	468	496	470	470	A	各職員が学会や研修会等に参加して知識や技術を習得することで、病院全体のレベルアップに寄与した。	A	学会や研修会への積極的な参加を支援した。																																																																																																																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																																																																				
事業件数	451	466	468	496	470	470																																																																																																																																																																				
			73	院内における資格取得を支援し、活用を促進する。	・H29 看護師、コメディカル、事務が業務を実施するうえで、有用な資格等の取得を支援し、職員のレベルアップを図る。 ・第2期中期目標期間(H26~30) 資格等取得助成制度利用者 (単位:人) <table border="1"> <tr> <td></td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度見込</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>27</td> <td>20</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>4</td> <td>13</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>14</td> <td>24</td> <td>11</td> <td>38</td> <td>20</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>19</td> <td>27</td> <td>9</td> <td>30</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>9</td> <td>30</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>29</td> <td>37</td> <td>16</td> <td>57</td> <td>45</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>6</td> <td>16</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>37</td> <td>54</td> <td>21</td> <td>68</td> <td>45</td> <td>45</td> </tr> </table>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	総合							看護師	10	10	7	27	20	20	コメディカル	4	13	4	11	0	0	事務	0	1	0	0	0	0	計	14	24	11	38	20	20	こころ							看護師	0	0	0	0	0	0	コメディカル	1	0	0	0	0	0	事務	0	0	1	0	0	0	計	1	0	1	0	0	0	こども							看護師	19	27	9	30	25	25	コメディカル	1	3	0	0	0	0	事務	0	0	0	0	0	0	計	20	30	9	30	25	25	本部							事務	2	0	0	0	0	0	計							看護師	29	37	16	57	45	45	コメディカル	6	16	4	11	0	0	事務	2	1	1	0	0	0	計	37	54	21	68	45	45	A	資格等取得助成制度は、H24年度から開始し、毎年度一定数の利用者があり、資格取得者は増加している。	A	看護師、コメディカル、事務職員のレベルアップを促し、機構全体の医療の質の向上に貢献している。
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																																																																				
総合																																																																																																																																																																										
看護師	10	10	7	27	20	20																																																																																																																																																																				
コメディカル	4	13	4	11	0	0																																																																																																																																																																				
事務	0	1	0	0	0	0																																																																																																																																																																				
計	14	24	11	38	20	20																																																																																																																																																																				
こころ																																																																																																																																																																										
看護師	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																				
コメディカル	1	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																				
事務	0	0	1	0	0	0																																																																																																																																																																				
計	1	0	1	0	0	0																																																																																																																																																																				
こども																																																																																																																																																																										
看護師	19	27	9	30	25	25																																																																																																																																																																				
コメディカル	1	3	0	0	0	0																																																																																																																																																																				
事務	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																				
計	20	30	9	30	25	25																																																																																																																																																																				
本部																																																																																																																																																																										
事務	2	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																				
計																																																																																																																																																																										
看護師	29	37	16	57	45	45																																																																																																																																																																				
コメディカル	6	16	4	11	0	0																																																																																																																																																																				
事務	2	1	1	0	0	0																																																																																																																																																																				
計	37	54	21	68	45	45																																																																																																																																																																				
			74	地域の医療機関等の看護師、保健師への実習研修を継続実施する。	実習研修受入れ実績 (単位:人) <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度見込</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>受入数</td> <td>304</td> <td>309</td> <td>391</td> <td>434</td> <td>444</td> <td>376</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	受入数	304	309	391	434	444	376	A	看護部が中心となり、院内関係部署の調整・研修プログラムを準備し、増加する実習希望に対し、実習研修を行った。	A	期間中、継続的に実習研修を行った。																																																																																																																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																																																																				
受入数	304	309	391	434	444	376																																																																																																																																																																				
			75	講演会やセミナーなどを開催する。	公開講演会開催実績(医療機関向け) (単位:回) <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度見込</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>開催件数</td> <td>20</td> <td>26</td> <td>13</td> <td>29</td> <td>21</td> <td>21</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	開催件数	20	26	13	29	21	21	A	講演会、症例検討会を定期的に開催した。職員のみならず院外の医療従事者に対して知識や技術の普及を行っている。	A	主に医療関係者向けの開催件数は年20回前後で毎年度安定的に推移しており、医療関係者の知識向上や技術の普及に貢献している。																																																																																																																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																																																																				
開催件数	20	26	13	29	21	21																																																																																																																																																																				
					公開講演会開催実績(医療機関向け) (単位:回) <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度見込</td> <td>30年度見込</td> </tr> <tr> <td>開催件数</td> <td>17</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>15</td> <td>19</td> <td>19</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	開催件数	17	19	23	15	19	19	A	オープンセミナー、講演会等を定期的に開催するとともに、別室での映像配信やDVDの配付等を行い、会場の収容人数を超える参加希望者に対応した。	A	さまざまな分野の講演会を定期的に実施し、また、多くの医療従事者が受講できるよう工夫(ビデオ研修など)をし、医療従事者の資質向上に寄与した。																																																																																																																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																																																																																				
開催件数	17	19	23	15	19	19																																																																																																																																																																				

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																																																																																																																									
						説明	説明																																																																																																																																										
第2 3 医療に関する調査及び研究 医療に関する調査及び研究を行い、県立病院が提供する医療の高度化や本県の医療水準の向上を図ること。	第2 3 医療に関する調査及び研究 県内医療水準の向上に寄与するため、病院が有する医療資源の活用、院外への情報発信、他の機関との連携を図りながら、調査及び研究に取り組む。また、それらを円滑に進めるため、診療録の電子化等の医療情報基盤の整備・充実強化に努める。	I 3	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																								
(1)研究機能の強化 臨床研究機能の強化に取り組むこと。また、富士山麓先端健康産業集積(ファルマバレー)プロジェクトなど、治験や産学官との連携による研究開発に取り組むこと。	(1)研究機能の強化 生活習慣病や遺伝子診療、脳科学等の臨床研究を行うことのできる環境の整備及び研究支援体制の充実を図る。また、治験や調査研究事業に積極的に参画できるように引き続き体制を整備する。さらに、県立大学等の研究機関との共同研究にも取り組む。	I 3 (1)	76	<ul style="list-style-type: none"> 研究員を確保し、円滑な運用を行う。 研究資金となる奨学寄附金を受入れる。 臨床試験管理センターによる臨床研究の支援を行う。 県立大学との共同研究を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> H29 先端医学棟5階に「リサーチサポートセンター」を設置。遺伝子解析、統計解析、検体の収集・保存・解析、県民の疾病分析などを行う体制を整備した。 「リサーチサポートセンター」内に「きこえとことばのセンター」(静岡県乳幼児難聴支援センター)を設置。新生児聴覚スクリーニングのデータ収集や難聴児の言語発達の研究などを行う体制を整備した。 県立大学薬学部の4つ研究室を循環器病センター6階から先端医学棟5階に移転し、共同研究の体制を強化した。 外部客員研究員の新規受入状況 3名 第2期中期期間(H26~30) 総合病院循環器病センター6階に県立大学薬学部の臨床薬剤学教室、臨床薬効解析学教室、医薬品情報解析学教室分室が設置され、総合病院薬剤部との共同研究を行う体制を取っている。 北館6階に、臨床医学研究センターを設置。 H27年度から外部客員研究員の受入を開始し、臨床研究のサポートを実施。 	<p>研究の一部は国内外へ論文発表が行われる等、共同研究の成果が確認できる。</p> <p>A H29年度は外部から客員研究員を新たに3名の受入を行った。「リサーチサポートセンター」と「きこえとことばのセンター」の人材と設備を整備し、研究機能の強化を行った。</p>	<p>A H27年度から外部の客員研究員の受入を開始し、順調に人数を増やし、研究体制の強化している。また、人数の増加に伴い研究内容の分野もひろがっている。</p>																																																																																																																																										
<p>臨床研究数 (単位:件、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度予定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究数</td> <td>195</td> <td>213</td> <td>233</td> <td>266</td> <td>270</td> <td>270</td> </tr> <tr> <td>支援研究数</td> <td>36</td> <td>53</td> <td>46</td> <td>46</td> <td>50</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>支援率</td> <td>18.5</td> <td>24.9</td> <td>19.7</td> <td>17.3</td> <td>18.5</td> <td>18.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>客員研究員受入状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度予定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>静岡県立大学</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>外部</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table> <p>奨学寄附金受入件数・金額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>寄附者</th> <th>目的</th> <th>金額(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">25年度</td> <td>アストラゼネカ株</td> <td>呼吸器疾患・炎症における研究助成のため</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>第一三共株東海支店</td> <td>骨代謝領域(乳癌)における研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>ロシュ・ダイアグノスティクス株</td> <td>心血管病の予防と早期発見に関する研究</td> <td>3,000</td> </tr> <tr> <td>田辺三菱製薬株東海支店</td> <td>糖尿病治療薬の有効性に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>大日本住友製薬株</td> <td>呼吸器内科領域における真菌感染症の治療に関する研究</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>キッセイ薬品工業株静岡営業所</td> <td>食後高血糖の治療に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td></td> <td>5,800</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">26年度</td> <td>協和発酵キリン株</td> <td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td> <td>1,900</td> </tr> <tr> <td>協和発酵キリン株</td> <td>透析患者の管理についての研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>小野薬品工業株</td> <td>糖尿病・内分泌代謝疾患の治療に関する研究</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td>第一三共株東海支店</td> <td>循環器領域における研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>アストラゼネカ株</td> <td>呼吸器疾患における研究</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td></td> <td>4,600</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">27年度</td> <td>大正富山医薬品株</td> <td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>協和発酵キリン株</td> <td>透析患者の管理についての研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>第一三共株式会社</td> <td>循環器領域における研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>田辺三菱製薬株式会社</td> <td>糖尿病治療薬の有効性評価に関する研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td></td> <td>1,400</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">28年度</td> <td>興和創薬株式会社</td> <td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>小野薬品工業株式会社</td> <td>糖尿病・内分泌代謝疾患の治療に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>小野薬品工業株式会社</td> <td>麻酔の及ぼす影響に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td></td> <td>1,500</td> </tr> <tr> <td>29.9末</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> </tbody></table>						区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度予定	研究数	195	213	233	266	270	270	支援研究数	36	53	46	46	50	50	支援率	18.5	24.9	19.7	17.3	18.5	18.5	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度予定	静岡県立大学	8	7	14	14	14	14	外部	-	-	4	7	9	11	区分	寄附者	目的	金額(千円)	25年度	アストラゼネカ株	呼吸器疾患・炎症における研究助成のため	100	第一三共株東海支店	骨代謝領域(乳癌)における研究	500	ロシュ・ダイアグノスティクス株	心血管病の予防と早期発見に関する研究	3,000	田辺三菱製薬株東海支店	糖尿病治療薬の有効性に関する研究	500	大日本住友製薬株	呼吸器内科領域における真菌感染症の治療に関する研究	300	キッセイ薬品工業株静岡営業所	食後高血糖の治療に関する研究	500		合計		5,800	26年度	協和発酵キリン株	糖尿病疾患の治療に関する研究	1,900	協和発酵キリン株	透析患者の管理についての研究	200	小野薬品工業株	糖尿病・内分泌代謝疾患の治療に関する研究	1,000	第一三共株東海支店	循環器領域における研究	500	アストラゼネカ株	呼吸器疾患における研究	1,000		合計		4,600	27年度	大正富山医薬品株	糖尿病疾患の治療に関する研究	500	協和発酵キリン株	透析患者の管理についての研究	200	第一三共株式会社	循環器領域における研究	500	田辺三菱製薬株式会社	糖尿病治療薬の有効性評価に関する研究	200		合計		1,400	28年度	興和創薬株式会社	糖尿病疾患の治療に関する研究	500	小野薬品工業株式会社	糖尿病・内分泌代謝疾患の治療に関する研究	500	小野薬品工業株式会社	麻酔の及ぼす影響に関する研究	500		合計		1,500	29.9末						0	総合					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度予定																																																																																																																																											
研究数	195	213	233	266	270	270																																																																																																																																											
支援研究数	36	53	46	46	50	50																																																																																																																																											
支援率	18.5	24.9	19.7	17.3	18.5	18.5																																																																																																																																											
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度予定																																																																																																																																											
静岡県立大学	8	7	14	14	14	14																																																																																																																																											
外部	-	-	4	7	9	11																																																																																																																																											
区分	寄附者	目的	金額(千円)																																																																																																																																														
25年度	アストラゼネカ株	呼吸器疾患・炎症における研究助成のため	100																																																																																																																																														
	第一三共株東海支店	骨代謝領域(乳癌)における研究	500																																																																																																																																														
	ロシュ・ダイアグノスティクス株	心血管病の予防と早期発見に関する研究	3,000																																																																																																																																														
	田辺三菱製薬株東海支店	糖尿病治療薬の有効性に関する研究	500																																																																																																																																														
	大日本住友製薬株	呼吸器内科領域における真菌感染症の治療に関する研究	300																																																																																																																																														
	キッセイ薬品工業株静岡営業所	食後高血糖の治療に関する研究	500																																																																																																																																														
	合計		5,800																																																																																																																																														
26年度	協和発酵キリン株	糖尿病疾患の治療に関する研究	1,900																																																																																																																																														
	協和発酵キリン株	透析患者の管理についての研究	200																																																																																																																																														
	小野薬品工業株	糖尿病・内分泌代謝疾患の治療に関する研究	1,000																																																																																																																																														
	第一三共株東海支店	循環器領域における研究	500																																																																																																																																														
	アストラゼネカ株	呼吸器疾患における研究	1,000																																																																																																																																														
	合計		4,600																																																																																																																																														
27年度	大正富山医薬品株	糖尿病疾患の治療に関する研究	500																																																																																																																																														
	協和発酵キリン株	透析患者の管理についての研究	200																																																																																																																																														
	第一三共株式会社	循環器領域における研究	500																																																																																																																																														
	田辺三菱製薬株式会社	糖尿病治療薬の有効性評価に関する研究	200																																																																																																																																														
		合計		1,400																																																																																																																																													
28年度	興和創薬株式会社	糖尿病疾患の治療に関する研究	500																																																																																																																																														
	小野薬品工業株式会社	糖尿病・内分泌代謝疾患の治療に関する研究	500																																																																																																																																														
	小野薬品工業株式会社	麻酔の及ぼす影響に関する研究	500																																																																																																																																														
		合計		1,500																																																																																																																																													
29.9末						0																																																																																																																																											

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																																									
						説明	説明																																																										
					医薬品受託研究事業費・契約件数 (単位:千円、件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>29</td> <td>29</td> <td>29</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>71,394</td> <td>86,805</td> <td>90,549</td> <td>78,259</td> <td>78,341</td> <td>78,341</td> </tr> <tr> <td>契約額</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>537</td> <td>185</td> <td>1,139</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>350</td> </tr> <tr> <td>契約額</td> <td>14</td> <td>22</td> <td>29</td> <td>26</td> <td>15</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>8,539</td> <td>7,610</td> <td>10,858</td> <td>19,656</td> <td>5,087</td> <td>13,867</td> </tr> <tr> <td>契約額</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	総合	29	29	29	30	30	30	件数	71,394	86,805	90,549	78,259	78,341	78,341	契約額	2	1	5	0	0	2	件数	537	185	1,139	0	0	350	契約額	14	22	29	26	15	42	件数	8,539	7,610	10,858	19,656	5,087	13,867	契約額							A-	<ul style="list-style-type: none"> ・製薬会社等からの依頼を受け、新薬開発に係る治験を行っている。 ・治験が終了し市販に至った薬品があり、新薬提供の一助となっている。 ・市販薬の市販後調査を適正に実施し、安心安全な医療に寄与している。 	A-	<ul style="list-style-type: none"> ・製薬会社等からの依頼を受け、新薬開発に係る治験を行っている。 ・治験が終了し市販に至った薬品があり、新薬提供の一助となっている。 ・市販薬の市販後調査を適正に実施し、安心安全な医療に寄与している。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																											
総合	29	29	29	30	30	30																																																											
件数	71,394	86,805	90,549	78,259	78,341	78,341																																																											
契約額	2	1	5	0	0	2																																																											
件数	537	185	1,139	0	0	350																																																											
契約額	14	22	29	26	15	42																																																											
件数	8,539	7,610	10,858	19,656	5,087	13,867																																																											
契約額																																																																	
(2) 診療等の情報の活用 診療等を通じて得られる情報を県立病院で提供する医療の質の向上のために活用するとともに、他の医療機関へ情報提供すること。	(2) 診療等の情報の活用 診療録等医療情報の電子化や管理機能の充実を図るなど、エビデンスを集積し、カンファレンス、臨床研修、臨床研究等において活用し医療の質の向上を図る。また、学会、講習会、研究会等へ情報発信しやすい体制を整備する。	I 3 (2)		診療等の情報の活用 ①診療情報等の分析 ②収支実績を部門別に随時把握できるシステムの利用	77 ・医療水準の向上と院内における医療の質の高度化に資するため、新薬開発や臨床研究などへ参画する。	78 DPCの診療情報に基づく症例分析を行う。	総合 ・H29 ・9月末までにDPC部会兼コード検討委員会を2回開催し、年度内に合計で4回開催する予定。 ・第2期中期目標期間(H26~30) ・DPC分析ソフトを用いて、特定の症例について分析を行い、分析結果をもとに薬剤の積極的な切替を行った結果、後発品使用率が86.6%(H27年度)から92.3%(H28年度)に上昇した。 ・アナライザー、ダッシュボードを用いて、後発医薬品の使用率の算出を実現した。	A-	・9月末までにDPC部会兼コード検討委員会を2回開催し、年度内に合計で4回開催する予定。病名のICD10-2013年度版への切り替えなど、適切なコーディングとなるよう検討を行なっている。	A-	H28年度よりDPCの診療情報を用いた分析結果を病院情報をホームページで公開している。 H28年度よりDPC部会兼コード検討委員会の開催回数を年4回とし、DPCの精度向上に貢献している。 今後も、プロパー職員のスキルアップを図り、より精緻で実用的な分析を行う。																																																						
					DPCデータの分析結果を診療へ活かすとともに適切なコーディングを周知するため、DPC部会兼コード検討委員会を開催した。	79	DPCの診療情報を分析し、診療へフィードバックを行う。また、職員の分析にかかるとともに、職員のスキルアップに努める。	個別 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>出席者数</td> <td>37</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>54</td> <td>56</td> <td>56</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	開催回数	2	2	2	4	4	4	出席者数	37	19	23	54	56	56	A	部会兼委員会の委員を各部門の職員から構成し、必要な情報を各診療へフィードバックすることにより、診療情報の管理体制を整えた。	A	診療情報管理について、担当職員の資質向上とともに医療現場への介入により診療情報の担保を図った。																																
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																											
開催回数	2	2	2	4	4	4																																																											
出席者数	37	19	23	54	56	56																																																											
					公立病院としての説明責任・透明性の確保に努める。(不採算疾患例の明示、原価計算) 部門別、診療科別原価計算に取り組む。	80	公立病院としての説明責任・透明性の確保に努める。(不採算疾患例の明示、原価計算) 部門別、診療科別原価計算に取り組む。	総合 H28年1月に原価計算システムを導入し、システム事業者との設定調整を行っており、本格稼働に向けて調整中。運用開始後は、DPCデータや財務会計システムを用いて診療科別、部門別の原価計算を行う予定である。	B	原価計算システムの運用に向けて調整中。	B	H28年1月に原価計算システムを導入し、システム事業者と本格稼働に向けて細部の調整中。																																																					

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																																																																																
						説明	説明																																																																																																	
				診療科別に経年変化を明らかにする原価計算に取り組む。	こと H26年度に導入検討を始め、H27年度には原価計算システムを導入、配賦基準等を定め、H28年度から本格的な運用を開始した。運用開始後は、DPCや財務会計のデータを用いて原価計算を行っている。	B	原価計算システムの導入により、診療科別の損益を計算することが可能となった。	B	H27年度に原価計算システムを導入しH26年度からH27年度分の原価計算を行った。 計算結果を経営改善に役立てる活用方法の整備、原価計算に精通した職員の養成及び、このデータの活用を図っていく。																																																																																															
(3) 県民への情報提供の充実 公開講座や医療相談などを通じて調査及び研究の成果を県民へ情報発信し、県民の健康意識の高揚に努めること。	(3) 県民への情報提供の充実 定期的に公開講座、医療相談会等を開催するとともに、ホームページ等で健康管理・増進などについての情報を提供するなど、様々な方法で県民への情報提供を進める。	I 3 (3)	県民への情報提供の充実 ①定期的な公開講座、医療相談会等の開催 ②ホームページ等による健康管理・増進などについての情報提供	81 県民向け・医療機関向けの公開講座等を開催する。	各病院、特色を活かした公開講座等を企画、開催した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院</th> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">総合</td> <td>県民向け</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>実施件数</td> <td>494</td> <td>416</td> <td>662</td> <td>495</td> <td>612</td> <td>620</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>20</td> <td>26</td> <td>13</td> <td>29</td> <td>21</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>医療機関</td> <td>1,075</td> <td>626</td> <td>755</td> <td>1,765</td> <td>1,477</td> <td>1,480</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">こころ</td> <td>県民向け</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>実施件数</td> <td>357</td> <td>15</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>医療機関</td> <td>0</td> <td>96</td> <td>104</td> <td>81</td> <td>53</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">子ども</td> <td>県民向け</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>実施件数</td> <td>52</td> <td>131</td> <td>124</td> <td>116</td> <td>169</td> <td>135</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>17</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>15</td> <td>19</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>医療機関</td> <td>738</td> <td>1,111</td> <td>1,228</td> <td>906</td> <td>1,082</td> <td>1,013</td> </tr> </tbody> </table>	病院	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	総合	県民向け	6	6	6	4	8	8	実施件数	494	416	662	495	612	620	参加者	20	26	13	29	21	21	医療機関	1,075	626	755	1,765	1,477	1,480	こころ	県民向け	3	1	1	2	2	2	実施件数	357	15	9	6	8	8	参加者	0	4	2	3	2	2	医療機関	0	96	104	81	53	53	子ども	県民向け	2	2	2	2	3	2	実施件数	52	131	124	116	169	135	参加者	17	19	23	15	19	19	医療機関	738	1,111	1,228	906	1,082	1,013	A-	公開講座の開催を通じて、県民・県内医療機関に対して、最新医療に関する情報提供を行うことができた。また、同時に、機構の取組みについてもPRすることができた。	A-	期間を通じ、参加者数は年々増加傾向にあり、引き続き、病院の特色を活かした公開講座を行う。
病院	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																	
総合	県民向け	6	6	6	4	8	8																																																																																																	
	実施件数	494	416	662	495	612	620																																																																																																	
	参加者	20	26	13	29	21	21																																																																																																	
	医療機関	1,075	626	755	1,765	1,477	1,480																																																																																																	
こころ	県民向け	3	1	1	2	2	2																																																																																																	
	実施件数	357	15	9	6	8	8																																																																																																	
	参加者	0	4	2	3	2	2																																																																																																	
	医療機関	0	96	104	81	53	53																																																																																																	
子ども	県民向け	2	2	2	2	3	2																																																																																																	
	実施件数	52	131	124	116	169	135																																																																																																	
	参加者	17	19	23	15	19	19																																																																																																	
	医療機関	738	1,111	1,228	906	1,082	1,013																																																																																																	
				82 県民向けイベントへの開催や参加に努める。	総合 ・H29 ・静岡県立総合病院の機能、設備、職員の姿を知ってもらうことにより、県民に開かれた病院であることを示しながら、本院の存在意義をより理解してもらうことを目的として、県民向け病院開放イベント「オープンホスピタル」を開催した。 H29年8月5日 来場者約1,400名 ・県民の日に合わせ、「県民の日講演会」を8/20に開催した。 ・第2期中期目標期間(H26~30) オープンホスピタル来場者数 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来場者数</td> <td>900</td> <td>-</td> <td>1,000</td> <td>1,200</td> <td>1,400</td> <td>1,500</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	来場者数	900	-	1,000	1,200	1,400	1,500	A	H29年度のオープンホスピタルの来場者数は約1,400人を記録し、過去最高となった。これは、当院HPなどで行った広報活動やイベント内容を充実させた効果と考えている。多くの来場者に当院をPRすることができ、好評を得た。	A	オープンホスピタルのイベント数は、H25年度37件からH29年度は42件と1.15倍となり、毎年度工夫を凝らした出展が行われている。来場者数も、H25年度900人から毎年度100人程度の安定的な増加数を推移している。H29年度以降は先端医学棟の機能や設備の紹介を積極的に行っていく。																																																																																	
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																		
来場者数	900	-	1,000	1,200	1,400	1,500																																																																																																		
				子ども (株)静岡新聞社、静岡放送(株)が主催の「子どもみらいプロジェクト秋まつり in ツインメッセ」に2日間参加し、健康相談及び子ども用の医師・ナース服の着用体験のブースを出展した。 子どもみらいプロジェクト来場者数 (単位:組、人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康相談</td> <td>28</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>17</td> <td>22</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>写真撮影</td> <td>1,052</td> <td>875</td> <td>859</td> <td>1,288</td> <td>957</td> <td>957</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	健康相談	28	6	10	17	22	22	写真撮影	1,052	875	859	1,288	957	957	A	県民向けイベントへ参加し、多くの来場者に当院をPRすることができた。また、情報提供も着実に推進している。	A	期間中、県民向けイベントへ継続して参加し、子ども病院のPRに努め、情報提供も着実に推進した。																																																																											
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																																																																		
健康相談	28	6	10	17	22	22																																																																																																		
写真撮影	1,052	875	859	1,288	957	957																																																																																																		
				83 県民及び他の医療機関従事者に、県立病院機構の有する医療情報等を積極的に提供するため、機構ホームページを適時、的確に更新する。	・H29 機構全体のトピックスなどメインとなるページの見直しや、先端医学棟についての最新情報を適時更新するなど、積極的に情報発信を行った。 ・第2期中期目標期間(H26~30) 各病院の医療情報やトピックス、入札情報や採用情報等を適時更新するなど、ホームページの活用を図った。 H27年1月には、機構及び3病院のホームページをリニューアルした結果アクセス数も伸び、機構のアピールにつながった。(H28からの実績は、アクセス数を管理するサイトの仕様変更があった。) セクション別アクセス件数 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本部</td> <td>291,958</td> <td>316,047</td> <td>271,467</td> <td>214,412</td> <td>254,000</td> <td>289,000</td> </tr> <tr> <td>総合病院</td> <td>1,582,445</td> <td>1,742,978</td> <td>1,935,315</td> <td>1,864,780</td> <td>2,149,000</td> <td>2,446,000</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>275,237</td> <td>285,800</td> <td>279,546</td> <td>269,084</td> <td>290,000</td> <td>390,000</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>1,518,204</td> <td>1,510,609</td> <td>1,519,362</td> <td>1,452,729</td> <td>1,637,000</td> <td>1,864,000</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3,667,844</td> <td>3,855,434</td> <td>4,005,690</td> <td>3,801,005</td> <td>4,330,000</td> <td>4,989,000</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	本部	291,958	316,047	271,467	214,412	254,000	289,000	総合病院	1,582,445	1,742,978	1,935,315	1,864,780	2,149,000	2,446,000	こころ	275,237	285,800	279,546	269,084	290,000	390,000	子ども	1,518,204	1,510,609	1,519,362	1,452,729	1,637,000	1,864,000	合計	3,667,844	3,855,434	4,005,690	3,801,005	4,330,000	4,989,000	A	先端医学棟の最新情報やトピックスの更新など、積極的にホームページの活用を図ることが出来た。その結果アクセス数も増加しているため、引き続き積極的な情報発信に努める。	A	機構及び3病院のホームページのリニューアルや、トピックスの更新など、積極的にホームページの活用を図った。機構全体で、アクセス数は増加傾向にあり、情報提供は着実に推進している。																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																																																		
本部	291,958	316,047	271,467	214,412	254,000	289,000																																																																																																		
総合病院	1,582,445	1,742,978	1,935,315	1,864,780	2,149,000	2,446,000																																																																																																		
こころ	275,237	285,800	279,546	269,084	290,000	390,000																																																																																																		
子ども	1,518,204	1,510,609	1,519,362	1,452,729	1,637,000	1,864,000																																																																																																		
合計	3,667,844	3,855,434	4,005,690	3,801,005	4,330,000	4,989,000																																																																																																		

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																													
						説明	説明																														
			84	県民に病院の運営にかかる情報を戦略的に広報するため、報道機関向けの情報発信の推進を図る。	最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、積極的に情報提供を行い、情報発信の推進を図った。 H28年度から各病院でのプレスリリース実績を共有ファイルで管理するようにし、各病院の実績の把握及び機構全体での情報共有を図った。 記者情報提供件数 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>提供件数</td> <td>46</td> <td>40</td> <td>41</td> <td>48</td> <td>48</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>掲載件数</td> <td>27</td> <td>25</td> <td>27</td> <td>31</td> <td>34</td> <td>34</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	提供件数	46	40	41	48	48	48	掲載件数	27	25	27	31	34	34	A	A	県政記者クラブへの情報提供について、各病院の実績を共有ファイル管理するとともに標準化を行い、記者提供が正確に行われるようになった。 提供件数は高い水準を保っており、情報提供についての意識向上に繋がっている	記者情報提供件数は増加しており、情報提供は着実に推進している。 機構全体の実績の把握及び情報共有を図ることができた。							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																															
提供件数	46	40	41	48	48	48																															
掲載件数	27	25	27	31	34	34																															
第2 4 医療に関する地域への支援 本県の地域医療の確保のため、県立病院がその支援に大きな役割を果たし、信頼され、必要とされる病院となるよう努めること。	第2 4 医療に関する地域への支援 地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、県立病院が有する医療資源を積極的に活用するなど、積極的な支援を進める。	I 4		医療に関する地域への支援 地域医療支援の中心的機能を果たすため、急性期病院として必要な医師を確保し、自らの診療体制を確立した上で、地域の医療機関への医師派遣に協力するとともに、高度医療機器等の共同利用を推進するなど、人材、施設・設備両面での地域の医療機関への支援を推進する。	-	-	-	-	-																												
(1)本県の医師確保対策における役割 県立病院として、より多くの医師を確保し、医師不足の公的医療機関への派遣を行うこと。また、県との協働により、本県の医師確保対策に取り組むこと。	(1)本県の医師確保対策への取組 県との協働による本県の医師確保対策に取り組むとともに、県立病院の医師の増員及び育成を図り、地域医療を支える県内医療機関への医師派遣の充実に取り組む。	I 4 (1)		本県の医師確保対策への取組 ①県の医師派遣事業への協力 ②県の医師派遣事業に必要な医師必要数の見直し ③「ふじのくに地域医療支援センター」機能の一部である医師就労等相談窓口業務などを受託・運営 ④新専門医認定制度への対応	・H29 富士宮市立、静岡厚生病院、静岡市立清水病院、佐久間病院、JA厚生連清水厚生病院、志太榛原地域救急医療センター、桜ヶ丘病院に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣した。 医師派遣実績 (単位:機関、科、人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>616</td> <td>701</td> <td>775</td> <td>570</td> <td>654</td> <td>654</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	医療機関	10	11	10	9	8	8	診療科	11	12	9	6	6	6	延人員数	616	701	775	570	654	654	A-	A-	県内公的病院8病院に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援した。 また、公的病院だけでなく、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣し、地域貢献を果たした。	派遣医療機関、診療科等減少傾向にあるが、要望のあった病院に対しては、適切に医師派遣を行っている。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																															
医療機関	10	11	10	9	8	8																															
診療科	11	12	9	6	6	6																															
延人員数	616	701	775	570	654	654																															
			85	地域医療支援病院としての使命を果たすため、医師を確保したうえで、医師不足が顕著な公的病院に医師を派遣する。	・H29 静岡市立静岡病院、静岡済生会総合病院、焼津市立総合病院、藤枝市立総合病院、島田市民病院、富士宮市立病院に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣した。 医師派遣実績(公的病院) (単位:機関、科、人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>662</td> <td>662</td> <td>958</td> <td>1078</td> <td>816</td> <td>835</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	医療機関	6	4	7	6	6	6	診療科	2	1	2	2	2	2	延人員数	662	662	958	1078	816	835	A	A	県内公的病院6病院に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援した。 また、公的病院だけでなく、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣し、地域貢献を果たした。	期間中、医師不足が顕著な公的医療機関へ医師を派遣することにより地域医療の支援を継続して行った。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																															
医療機関	6	4	7	6	6	6																															
診療科	2	1	2	2	2	2																															
延人員数	662	662	958	1078	816	835																															
			86	小児1次救急医療への応援を行う。	・H29 静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣した。 ・第2期中期目標期間(H26~30) 期間中、2つの急病センターへの医師派遣を行った。 医師派遣実績(急病センター) (単位:機関、科、人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>304</td> <td>313</td> <td>292</td> <td>295</td> <td>304</td> <td>301</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	医療機関	2	2	2	2	2	2	診療科	2	2	2	2	2	2	延人員数	304	313	292	295	304	301	A	A	静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣し、地域の小児1次救急医療を支援した。	期間中、継続して静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ医師を派遣し、地域の小児1次救急医療を支援した。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																															
医療機関	2	2	2	2	2	2																															
診療科	2	2	2	2	2	2																															
延人員数	304	313	292	295	304	301																															

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																																		
						説明	説明																																																			
			87	<ul style="list-style-type: none"> 各科医師定数を見直しする。 静岡県の地域医療を支援していくために必要な医師数の検討を進める。 	<p>他院や各医局と連携し、地域医療に必要な医師の確保に努めた。富士宮市立、静岡厚生病院、静岡市立清水病院、佐久間病院、JA厚生連清水厚生病院、志太榛原地域救急医療センター、桜ヶ丘病院に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣した。</p> <table border="1"> <caption>医師現員数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H25.4.1</th> <th>H26.4.1</th> <th>H27.4.1</th> <th>H28.4.1</th> <th>H29.4.1</th> <th>H30.4.1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>正規</td> <td>117</td> <td>123</td> <td>130</td> <td>139</td> <td>152</td> <td>152</td> </tr> <tr> <td>有期</td> <td>106</td> <td>108</td> <td>117</td> <td>111</td> <td>111</td> <td>111</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>医師派遣実績 (単位:機関、科、人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>616</td> <td>701</td> <td>775</td> <td>570</td> <td>654</td> <td>654</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H25.4.1	H26.4.1	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1	H30.4.1	正規	117	123	130	139	152	152	有期	106	108	117	111	111	111	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	医療機関	10	11	10	9	8	8	診療科	11	12	9	6	6	6	延人員数	616	701	775	570	654	654	A-	<p>着実に医師を確保できている。県内公的病院6病院に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援した。</p> <p>また、公的病院だけでなく、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣し、地域貢献を果たした。</p> <p>診療科によっては不足もあり、さらに充実させる必要がある。</p>	A-	<p>着実に医師を確保できている。期間中、継続して地域の公的病院に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援した。</p>
区分	H25.4.1	H26.4.1	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1	H30.4.1																																																				
正規	117	123	130	139	152	152																																																				
有期	106	108	117	111	111	111																																																				
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																				
医療機関	10	11	10	9	8	8																																																				
診療科	11	12	9	6	6	6																																																				
延人員数	616	701	775	570	654	654																																																				
			88	<ul style="list-style-type: none"> ふじのくに地域医療支援センター機能の一部である業務を受託、運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> H29 『ふじのくに地域医療支援センター』の機能の一部業務である「県内での勤務を希望する医師および研修医の就業・キャリア形成等の相談」、「静岡県医学修学研修資金貸与者の勤務先病院の決定支援」や「女性医師支援」などの業務を受託し、県内医師確保のための役割の一部を担っている。 第2期中期期間 (H26~30) 主な業務である静岡県医学修学研修資金貸与者の配置調整においては、H25年の受託開始からこれまで、当機構が配置調整を担当する医師数は着実に増加しており、うち県内に勤務を開始する医師数も年々増加している。 <table border="1"> <caption>配置調整医師数及び県内勤務開始者数 (機構担当分) (単位:名)</caption> <thead> <tr> <th>勤務開始年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配置調整医師数</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>34</td> <td>64</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>うち県内勤務医師数</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>22</td> <td>41</td> <td>39</td> </tr> </tbody> </table> <p>※配置調整は各前年度となる。</p>	勤務開始年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込	配置調整医師数	6	12	14	34	64	63	うち県内勤務医師数	4	6	10	22	41	39	A	<p>業務を受託し、県の医師確保施策に寄与できるよう努めた。</p>	A	<p>県内医療機関に勤める奨学金利用者が着実に増加しており、県の医師確保施策に寄与できている。</p>																												
勤務開始年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度見込																																																				
配置調整医師数	6	12	14	34	64	63																																																				
うち県内勤務医師数	4	6	10	22	41	39																																																				
			89	<ul style="list-style-type: none"> 専攻医を受け入れる体制を整備し、専攻医の募集を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> H29 プログラムの作成を7領域において行い、全領域において「日本専門医機構」の審査を受け、合格した。 H30年度より開始する新専門医制度に向けて、全診療科の状況把握を行った。 ホームページの広報など、積極的に募集を行っている。 	B	<p>プログラムの作成を7領域において行い、全領域において審査の合格を受けた。給与体系の見直しや医師宿舍などの受入れ体制を整え、専攻医を募集したが、応募は少なかった。今後は新専門医制度の動向に注視する。</p>	B	<p>プログラムの作成を7領域において行い、全領域において審査の合格を受けた。給与体系の見直しや医師宿舍などの受入れ体制を整えた。今後は新専門医制度の動向に注視する。</p>																																																	
				<ul style="list-style-type: none"> H29 H30年度より開始する新専門医制度に向けて、プログラムを作成した。精神科領域のプログラムについては、10月6日付で2審査に合格した。 第2期中期目標期間 (H26~30) プログラム作成について、2次審査に合格した。 	A	<p>H30年度より開始する新専門医制度に向けプログラムを作成する等、専攻医を受け入れる体制を整備した。</p>	A	<p>県立病院として、より多くの医師を確保するため、新専門医制度への対応等、医師確保対策に取り組んだ。今後もいっそうの受入れ体制の整備、募集を進める。</p>																																																		
				<ul style="list-style-type: none"> H29年度から新制度に準じて実施される小児科専門医制度の基幹施設として、新制度に則った研修を実施している。 	B	<p>新制度による研修受入体制は整備しているが、平成29年度は11月末現在で1名の内定に留まっている。</p>	B	<p>平成28年度に研修医用宿泊施設を整備し、平成29年度から新制度に則った研修を実施した。</p> <p>平成28年度には定員どおり8名を、平成29年度は11月末現在で1名の内定を行った。</p>																																																		

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																					
						説明	説明																																						
(2) 地域医療への支援 高度医療機器の共同利用の促進、他の医療機関等との医療情報のネットワーク化など、地域医療との連携を進め、地域医療の確保への支援を行うこと。	(2) 地域医療への支援 情報通信技術を活用した医療連携や遠隔診断のネットワークづくりを進める。また、高度医療機器などの共同利用など、県立病院の施設や設備について地域への開放を進める。	I 4 (2)	地域医療への支援 ①PETイメージング・センター、CT、MRI等の共同利用の推進 ②IT技術を活用した地域医療機関等との連携及び支援	90	地域の医療機関や健診センターへの啓蒙活動を継続し、PET共同利用率の向上を図る。	総合 PETイメージングセンター共同利用 (単位: 件、%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>4,121</td> <td>4,211</td> <td>4,276</td> <td>4,235</td> <td>4,088</td> <td>4,088</td> </tr> <tr> <td>共同利用件数</td> <td>1,635</td> <td>1,673</td> <td>1,623</td> <td>1,429</td> <td>1,010</td> <td>1,010</td> </tr> <tr> <td>共同利用率</td> <td>40</td> <td>39.7</td> <td>39.5</td> <td>33.7</td> <td>26</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>健診件数</td> <td>10</td> <td>165</td> <td>155</td> <td>168</td> <td>166</td> <td>166</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	件数	4,121	4,211	4,276	4,235	4,088	4,088	共同利用件数	1,635	1,673	1,623	1,429	1,010	1,010	共同利用率	40	39.7	39.5	33.7	26	26	健診件数	10	165	155	168	166	166	A-	静岡県立病院がPETを独自整備したことにより、共同利用率は減少している。新たな連携先の拡大に努めている。	A-	共同利用件数は1,500件前後で毎年度安定的に推移しているが、H29年度は静岡県立病院がPETを独自整備したため共同利用率は減少している。
				区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																			
				件数	4,121	4,211	4,276	4,235	4,088	4,088																																			
				共同利用件数	1,635	1,673	1,623	1,429	1,010	1,010																																			
共同利用率	40	39.7	39.5	33.7	26	26																																							
健診件数	10	165	155	168	166	166																																							
91	地域の医療機関向けにCT・MRIの地域支援検査枠を増設し、共同利用件数の向上を図る。	総合 CT、MRI共同利用 (単位: 件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT</td> <td>833</td> <td>762</td> <td>815</td> <td>919</td> <td>828</td> <td>828</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>626</td> <td>591</td> <td>645</td> <td>621</td> <td>520</td> <td>520</td> </tr> <tr> <td>CT(撮影のみ)</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>MRI(撮影のみ)</td> <td>107</td> <td>133</td> <td>132</td> <td>129</td> <td>148</td> <td>148</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	CT	833	762	815	919	828	828	MRI	626	591	645	621	520	520	CT(撮影のみ)	8	7	1	6	4	4	MRI(撮影のみ)	107	133	132	129	148	148	A-	H29年度の共同利用件数はCT、MRI共に前年度並みとなる見込。	A-	CTは800件、MRIは600件前後で毎年安定して推移している。				
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																							
CT	833	762	815	919	828	828																																							
MRI	626	591	645	621	520	520																																							
CT(撮影のみ)	8	7	1	6	4	4																																							
MRI(撮影のみ)	107	133	132	129	148	148																																							
92	・ふじのくにねっとを活用し、地域の病院・診療所・調剤薬局・訪問看護ステーションとの連携を強化する。 ・ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会の運営を維持する。	総合 「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である各地域の中核病院、自治体病院、診療所・医師会等とともに「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。 ・第2期中期期間(H26~30)H27年度末の理事会において利用料規定を決定し、ネットワークシステムの運営経費の適正な負担を図った。 ・H28地域医療連携推進事業費補助金を活用し、データセンター及び県立総合病院連携サーバーの更新を行った。また、静岡県立こども病院、静岡県立こころの医療センター、医療法人社団アール・アンド・オーにてシステム整備を行った。 ・H29地域医療連携推進事業費補助金を活用し、藤枝市立総合病院のシステム更新を実施した。	A	ネットワークへの参加施設は順調に拡大を続けている。補助金を活用し、藤枝市立総合病院のシステム更新を実施した。	A	ネットワークへの参加施設は順調に拡大を続け、地域の医療機関等での連携が強化されている。システム機器の更新時期を迎えることを契機に、費用負担のあり方等を含めた事業の利用規程を理事会で決定し、ネットワークシステムの運営経費の適正な負担を図った。(H28年度から利用料の徴収を開始)補助金を活用し、システム機器の更新と新規開示施設でのシステム整備を行った。																																							
93	国内外の医療機関との映像情報を通じた研修や診断を実施する。	こども 心エコー画像遠隔診断実績 (単位: 件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設数</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>症例数</td> <td>15</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	施設数	4	4	4	4	4	4	症例数	15	9	7	5	2	8	A	国内外の医療機関と連携し、映像情報を通じたカンファレンスや診断を継続的に実施した。	A	期間中、国内外の医療機関と連携し、映像情報を通じたカンファレンスや診断を継続的に実施した。																		
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																							
施設数	4	4	4	4	4	4																																							
症例数	15	9	7	5	2	8																																							

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																																																											
						説明	説明																																																																												
(3) 社会的な要請への協力 県立病院が有する人材や知見を提供し、鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に積極的に協力すること。	(3) 社会的な要請への協力 公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請に対し、引き続き柔軟に対応していく。	I 4 (3)	社会的な要請への協力 ・公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請への対応	94	院内外の研修会等を定期的に開催し、地域の医療機関へ情報提供する。	総合	拡大キャンサーボード実績（開催予定含む） <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>6回</td> <td>6回</td> <td>6回</td> <td>6回</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">参加人数</td> <td>院内</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>161</td> <td>160</td> <td>156</td> <td>156</td> </tr> <tr> <td>院外</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>261</td> <td>172</td> <td>136</td> <td>136</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>237</td> <td>228</td> <td>422</td> <td>332</td> <td>292</td> <td>292</td> </tr> </tbody> </table>							区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	回数	5回	5回	6回	6回	6回	6回	参加人数	院内	-	-	161	160	156	156	院外	-	-	261	172	136	136	合計	237	228	422	332	292	292	A	地域の医療従事者も参加できるカンファレンス等(拡大キャンサーボード)を定期的に開催し、地域医療機関等との情報共有の場として積極的な意見交換を行った。	A	拡大キャンサーボードは、H25に年5回開催だったものを、H27から年6回開催に増やし、参加人数の増加に努めている。																														
							区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																						
							回数	5回	5回	6回	6回	6回	6回																																																																						
							参加人数	院内	-	-	161	160	156	156																																																																					
								院外	-	-	261	172	136	136																																																																					
合計	237	228	422	332	292	292																																																																													
95	他団体の講師派遣依頼に協力する。	総合	講師派遣実績 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>68</td> <td>73</td> <td>58</td> <td>62</td> <td>78</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>62</td> <td>72</td> <td>36</td> <td>4</td> <td>16</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>130</td> <td>145</td> <td>94</td> <td>66</td> <td>94</td> <td>94</td> </tr> </tbody> </table>							区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	医師	68	73	58	62	78	78	その他	62	72	36	4	16	16	計	130	145	94	66	94	94	A-	他団体等が主催する講演会の講師として医師や認定看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行った。	A-	期間を通じて、その他の職種についてはやや減少傾向であるが、医師については例年同件数である。引き続き積極的な地域支援を行っていく。																																										
			区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																										
			医師	68	73	58	62	78	78																																																																										
			その他	62	72	36	4	16	16																																																																										
			計	130	145	94	66	94	94																																																																										
96	他団体等が主催する講習会、研究会、学会への講師派遣を推進する。	こころ	院外講演会講師派遣状況(医師) (単位:回) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣回数</td> <td>17</td> <td>25</td> <td>30</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> </tbody> </table> 院外講演会講師派遣状況(看護師) (単位:回) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣回数</td> <td>24</td> <td>30</td> <td>22</td> <td>32</td> <td>28</td> <td>28</td> </tr> </tbody> </table>							区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	派遣回数	17	25	30	18	18	18	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	派遣回数	24	30	22	32	28	28	A	他団体等が主催する講演会の講師として医師や看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行った。	A	期間中、精神科医療に係る講師派遣等の社会的な要請に対し、医師、看護師を派遣する等、柔軟に対応した。																																										
			区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																										
			派遣回数	17	25	30	18	18	18																																																																										
			区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																										
			派遣回数	24	30	22	32	28	28																																																																										
97	医療にかかる鑑定等の要請への協力など積極的に対応する。	こころ	・H29 ・鑑定などへの対応 医療観察法の鑑定医として協力 CRT(静岡県こころの緊急支援活動) 支援員登録者1人 ・第2期中期目標期間(H26~30) 医療観察法による鑑定入院受入実績 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こころ</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>16</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table>							区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	こころ	6	10	7	9	16	16	A	県内精神医療の中核病院として、医療にかかる鑑定等の要請への協力などに積極的に対応した。	A	期間中、公的機関からの医療に係る鑑定や調査の社会的な要請に対し、県内精神医療の中核病院としての的確に対応できた。																																																								
			区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																										
			こころ	6	10	7	9	16	16																																																																										
			98	特別支援学校や児童相談所など教育機関や福祉機関との連携を強化するため、講座や相談会などを継続的に開催する。	こども	精神保健講座等開催実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神保健 講座</td> <td>15回</td> <td>16回</td> <td>5回</td> <td>20回</td> <td>5回</td> <td>22回</td> </tr> <tr> <td>児童養護施設 巡回相談</td> <td>153人</td> <td>8施設</td> <td>196人</td> <td>10施設</td> <td>166人</td> <td>11施設</td> </tr> <tr> <td>精神保健 講座</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>5回</td> </tr> <tr> <td>児童養護施設 巡回相談</td> <td>153人</td> <td>8施設</td> <td>196人</td> <td>10施設</td> <td>166人</td> <td>11施設</td> </tr> </tbody> </table>							区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	精神保健 講座	15回	16回	5回	20回	5回	22回	児童養護施設 巡回相談	153人	8施設	196人	10施設	166人	11施設	精神保健 講座	5回	5回	5回	5回	5回	5回	児童養護施設 巡回相談	153人	8施設	196人	10施設	166人	11施設	A	教師を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を継続的にを行い、学校・地域との連携強化を図った。	A	期間中、継続的に事業を実施し、学校・地域との連携強化を図った。																																
						区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																							
精神保健 講座	15回	16回				5回	20回	5回	22回																																																																										
児童養護施設 巡回相談	153人	8施設				196人	10施設	166人	11施設																																																																										
精神保健 講座	5回	5回				5回	5回	5回	5回																																																																										
児童養護施設 巡回相談	153人	8施設	196人	10施設	166人	11施設																																																																													
99	小児慢性特定疾患治療研究事業や障害者総合支援法、児童福祉法、精神保健福祉法等の公費負担医療を実施する。	せどい	公費負担患者状況 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児慢性</td> <td>1,621</td> <td>2,158</td> <td>1,901</td> <td>1,891</td> <td>1893</td> <td>1893</td> </tr> <tr> <td>育成医療</td> <td>831</td> <td>657</td> <td>721</td> <td>722</td> <td>733</td> <td>733</td> </tr> <tr> <td>養育医療</td> <td>224</td> <td>179</td> <td>258</td> <td>240</td> <td>225</td> <td>225</td> </tr> <tr> <td>特定疾患</td> <td>128</td> <td>134</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>特定疾病</td> <td>-</td> <td>33</td> <td>157</td> <td>138</td> <td>148</td> <td>148</td> </tr> <tr> <td>生活保護</td> <td>135</td> <td>100</td> <td>172</td> <td>181</td> <td>147</td> <td>147</td> </tr> <tr> <td>精神保健</td> <td>110</td> <td>117</td> <td>96</td> <td>102</td> <td>106</td> <td>106</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>123</td> <td>112</td> <td>97</td> <td>111</td> <td>111</td> <td>111</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,172</td> <td>3,490</td> <td>3,409</td> <td>3,391</td> <td>3370</td> <td>3370</td> </tr> </tbody> </table>							区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	小児慢性	1,621	2,158	1,901	1,891	1893	1893	育成医療	831	657	721	722	733	733	養育医療	224	179	258	240	225	225	特定疾患	128	134	7	6	7	7	特定疾病	-	33	157	138	148	148	生活保護	135	100	172	181	147	147	精神保健	110	117	96	102	106	106	その他	123	112	97	111	111	111	計	3,172	3,490	3,409	3,391	3370	3370	A	公費負担医療を提供するためには、本人による申請が必要となることから、証明書・診断書の発行など公費適応患者の利便性を重視して対応した。	A	期間中、継続的に公費負担医療が適用できる患者に対して、申請が円滑に出来るよう患者の申請に対応した。
			区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																																																										
			小児慢性	1,621	2,158	1,901	1,891	1893	1893																																																																										
			育成医療	831	657	721	722	733	733																																																																										
			養育医療	224	179	258	240	225	225																																																																										
特定疾患	128	134	7	6	7	7																																																																													
特定疾病	-	33	157	138	148	148																																																																													
生活保護	135	100	172	181	147	147																																																																													
精神保健	110	117	96	102	106	106																																																																													
その他	123	112	97	111	111	111																																																																													
計	3,172	3,490	3,409	3,391	3370	3370																																																																													

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績(H29・中期期間)	29実績 自己評価		第2期(H26～30)自己評価	
						説明	説明		
第2 5 災害等における医療救護 県民の安心・安全を守るため、医療救護活動の拠点機能を担うとともに、災害医療チームを派遣するなど医療救護に取り組むこと。	第2 5 災害等における医療救護 地震などによる大規模災害の発生が危惧される静岡県の県立病院として、災害等への日頃からの備えを進め、発生時には静岡県医療救護計画等に基づき、医療救護活動に従事する。	I 5				-	-	-	-
(1) 医療救護活動の拠点機能 災害等に対する日頃の備えに努め、大規模災害等における本県の医療救護活動の拠点機能を担うこと。特に、県立総合病院は、基幹災害拠点病院として、県内の災害時医療の中心的役割を果たすことができるよう機能強化を図ること、また、県立こころの医療センターは、災害時における精神医療分野の、県立こども病院は、災害時における小児医療分野のそれぞれにおける基幹的役割を果たすこと。	(1) 医療救護活動の拠点機能 日頃から実践的な災害医療訓練を定期的開催するなど、医療救護活動の拠点となる病院としての機能を維持向上していくとともに、災害等の発生時には重篤患者の受入れ、県内外DMAT（災害派遣医療チーム）・DPAT（災害派遣精神医療チーム）との連携など求められる機能を発揮する。特に、県立総合病院は基幹災害拠点病院として県内の災害医療の中心的役割を、県立こころの医療センター及び県立こども病院は、それぞれの分野で基幹的役割を果たすことができるよう体制整備に取り組む。	I 5 (1)	医療救護活動の拠点機能 ①災害拠点病院（小児分野を含む）等として、災害時の医療救護活動の拠点機能を担う ②小児専門医療機関間の災害時情報交換システムと相互協力関係の構築		総合 ・災害医療訓練を実施する。 ・災害対応マニュアル等の整備、見直しを行い発災時に迅速な対応ができるようにする。	-	A 情報伝達・避難訓練等、災害の発生を想定し、公的病院の役割を果たすべく各種訓練を企画、実施した。 引き続き、災害発生に備えた病院の機能の充実に努める。	A 期間中、実践的な災害医療訓練を定期的開催している。また、防災マニュアルの見直しを行うなど、発災時に迅速な対応がとれるよう努めている。 H28より県から静岡DMAT体制強化推進事業を受託するなど基幹災害拠点病院としての役割を果たしている。	
				100	総合 ・災害医療訓練を実施する。 ・災害対応マニュアル等の整備、見直しを行い発災時に迅速な対応ができるようにする。	H29実績 6.27 航空機事故を想定した緊急通報訓練に参加。 7.9 県からの委託事業として、静岡DMAT隊員ロジスティック研修会①を実施した。(50人) 8.1～23 院内各セクションに対し、消火設備等の取扱講習を実施した。(新規採用職員を中心に176名参加) 10.14～15 県からの委託事業として、静岡DMAT隊員養成研修を実施した。(80人) ・第2期中期期間（H26～30） 毎年度12月第1日曜日（静岡県地域防災の日）に全職種を対象としたトリアージ訓練（200名程度参加）を行っている。 H26に防災マニュアルの改訂を行った。 H28より県から静岡DMAT体制強化推進事業を受託	A	A	
				101	こころ ・災害等に対する日頃の備えに努め、大規模災害等における本県の精神分野の災害時医療に対応する。	H29防災訓練（避難訓練）の実績・企画 H29.7.29 政府訓練（大規模地震時医療活動訓練）における静岡DMAT訓練に参加。 H29.8.31 県総合防災訓練（本部運営）において、メール等による情報伝達訓練に参加。 H29.9.28 昼間の病棟における火災発生を想定した訓練を実施。 H29.9.13～15 DPAT先遣隊研修に参加。 H29.11.27 安全情報確認システムによる情報伝達訓練実施。夜間の病棟における火災発生を想定した避難訓練実施。 H30.1.15 県主催大規模向上訓練において、メール等による情報伝達訓練に参加。 ・第2期中期目標期間（H26～30） 院内だけではなく、県、市等と連携した防災訓練に参加した。	A	A	
				102	こども ・災害時における小児医療の拠点としての院内体制の整備に努める。 ・小児医療総合施設協議会において実施する小児専門医療機関間の災害時における情報交換システムに参加、協力していく。	H29年11月に全職種を対象にトリアージ訓練、H30年2月には、夜間想定防火避難訓練を実施する。	A	A	
(2) 他県等の医療救護への協力 他県等の大規模災害等においても、災害医療チームを派遣するなど、積極的に医療救護に協力すること。	(2) 他県等の医療救護への協力 災害時医療救護派遣マニュアルに基づき、速やかに医療チームを派遣できるよう定期的な要員訓練やマニュアルの点検を行う。	I 5 (2)	他県等の医療救護への協力 ・災害発生初期におけるDMAT（災害派遣医療チーム）・DPAT（災害派遣精神医療チーム）の派遣及び県からの要請に基づく支援等の実施	103	総合 災害医療救護応援班の訓練を実施する。	・H29 災害医療救護応援班の訓練を実施した。 H29実績 7.13 県と連携し、情報伝達訓練に参加。(県健康福祉部防災訓練) 7.29 大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）においてDMAT1チーム(4人)を派遣した。 8.31 県総合防災訓練（本部運営訓練）にDMAT隊員4人が参加した。 9.3 県・南駿地域総合防災訓練（実働）にDMAT1チーム(4人)が参加した。 DMAT訓練回数 (単位：回) 区分 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度見込 30年度見込 訓練 - 7 6 8 8 8	A	A	

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	29実績 自己評価		第2期(H26~30) 自己評価																																																																												
						説明	説明																																																																													
<p>第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項</p> <p>医療の質の向上を目指して、地方独立行政法人制度の特徴を最大限に活かし、業務運営の改善及び効率化に努め、生産性の向上を図ること。</p>	<p>第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりに努めるとともに、業務改善への職員の意欲を高め、効率的な業務運営の実現を図る。</p>	<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりに努めるとともに、業務改善への職員の意欲を高め、効率的な業務運営の実現を図る。</p>																																																																																		
<p>1 簡素で効率的な組織づくり</p> <p>医療を取り巻く環境の変化とそのスピードに迅速かつ的確に対応するため、簡素で効率的な組織体制を確立すること。</p>	<p>1 簡素で効率的な組織づくり</p> <p>医療環境の変化や県民の医療ニーズに的確に応じられるよう簡素で効率的な組織づくりを進めるとともに、適時適切な意思決定ができる組織運営に努める。</p>	<p>II 簡素で効率的な組織づくり</p> <p>1 ①意思決定の迅速化・情報の共有化等、機動的な法人運営 ②医療ニーズや業務量の適切な把握と組織体制等への反映 ③人事評価の制度化に向けた取組み</p>	104	<ul style="list-style-type: none"> 組織の効率化、各種権限の病院長への委任により事務のスピード化を図る。 理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を毎月開催（8月を除く）し、法人の運営情報に、予算の補正等の緊急な課題に対する即時的な対応を行う。 看護師、コメディカル、事務職員に対する勤務成績評価制度の試行を円滑に実施する。 	<p>理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を8月を除く毎月開催し、意思決定の迅速化に努めた。</p> <p>勤務成績評価制度の試行を行うとともに、平成30年4月から県に準拠した人事評価制度の導入することを職員組合と合意した。</p> <p>勤務成績評価制度試行状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>実施時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師（管理監督者）</td> <td>平成26年10月～</td> </tr> <tr> <td>看護師（副主任以上）</td> <td>平成28年4月～</td> </tr> <tr> <td>コメディカル（管理監督者）</td> <td>平成27年10月～</td> </tr> <tr> <td>コメディカル（副主任以上）</td> <td>平成28年4月～</td> </tr> <tr> <td>事務職員（プロパー職員副主査以上）</td> <td>平成28年4月～</td> </tr> </tbody> </table>	対象	実施時期	看護師（管理監督者）	平成26年10月～	看護師（副主任以上）	平成28年4月～	コメディカル（管理監督者）	平成27年10月～	コメディカル（副主任以上）	平成28年4月～	事務職員（プロパー職員副主査以上）	平成28年4月～	A	<p>毎月、機構内での情報の共有化、緊急案件についての対応が問題なく行われた。</p> <p>勤務成績評価制度の試行については、本部と各病院が連携し円滑に実施することができ、職員のモチベーション向上等への寄与が図られたものと考えている。</p>	A	<p>期間を通じて、意思決定の迅速化や情報の共有化を進め、緊急案件について即時的な対応が適切に行われた。</p> <p>勤務成績評価制度の試行を順次行い、県に準拠した人事評価制度の導入に向けて職員組合と合意し、H30から実施予定。</p>																																																															
対象	実施時期																																																																																			
看護師（管理監督者）	平成26年10月～																																																																																			
看護師（副主任以上）	平成28年4月～																																																																																			
コメディカル（管理監督者）	平成27年10月～																																																																																			
コメディカル（副主任以上）	平成28年4月～																																																																																			
事務職員（プロパー職員副主査以上）	平成28年4月～																																																																																			
<p>2 効率的な業務運営の実現</p>	<p>2 効率的な業務運営の実現</p> <p>各職員が専門性を十分に発揮できるよう体制を整備するとともに、業務量に応じた柔軟な職員配置に努める。</p>	<p>II 効率的な業務運営の実現</p> <p>2 効果的な職員採用 柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 看護師確保のため、看護師修学資金の活用推進や広報活動など多様かつ多角的な確保対策の実施</p>	105	<ul style="list-style-type: none"> 優秀な職員を確保する仕組みを設け、効果的な採用を実施する。 職員の採用に対し、広報等様々な取組みを行うことで、必要な職員数の確保に努める。 柔軟な採用試験の実施により、必要な人材の確保に努める。 パンフレット作成、ホームページへの情報掲載、就職セミナー等での周知を行う。 看護師修学資金制度の活用推進により、更なる看護師確保を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> H29 経営等に精通した事務職員1人を採用した。また、診療放射線技師（医学物理士）1人を採用した。 初めてアソシエイトの公募を医療技術職で実施し、栄養アソシエイト1名、言語聴覚アソシエイト2名を採用内定した。 第2期中期期間（H26～30）法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮した採用を実施した。H28年度からアソシエイトの制度を導入した。 <p>看護師修学資金の状況 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決定</td> <td>73</td> <td>74</td> <td>123</td> <td>88</td> <td>105</td> <td>60</td> <td>523</td> </tr> <tr> <td>継続</td> <td>52</td> <td>80</td> <td>99</td> <td>126</td> <td>163</td> <td>178</td> <td>698</td> </tr> <tr> <td>取消</td> <td>▲6</td> <td>▲12</td> <td>▲11</td> <td>▲5</td> <td>▲6</td> <td>▲8</td> <td>▲48</td> </tr> <tr> <td>貸与計</td> <td>119</td> <td>142</td> <td>211</td> <td>209</td> <td>262</td> <td>230</td> <td>1,173</td> </tr> <tr> <td>採用</td> <td>38</td> <td>33</td> <td>76</td> <td>40</td> <td>62</td> <td>-</td> <td>249</td> </tr> </tbody> </table> <p>アソシエイト採用実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>5</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>-</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>採用関係ホームページアクセス数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年間</td> <td>88,062</td> <td>69,555</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>9月末</td> <td>55,834</td> <td>42,548</td> <td>45,027</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H27に現システムを使用開始 H27は事務、コメディカル採用試験分を含む</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	計	決定	73	74	123	88	105	60	523	継続	52	80	99	126	163	178	698	取消	▲6	▲12	▲11	▲5	▲6	▲8	▲48	貸与計	119	142	211	209	262	230	1,173	採用	38	33	76	40	62	-	249	区分	28年度	29年度	看護師	5	1	事務	2	2	コメディカル	-	3	計	7	6	区分	27年度	28年度	29年度	年間	88,062	69,555	-	9月末	55,834	42,548	45,027	A	<p>事務職員・看護職員・コメディカルのうち、優秀な有期職員について、アソシエイトの登用を進めている。コメディカルのアソシエイトについては公募試験を開始した。</p> <p>ホームページへの掲載や就職セミナーへの参加など積極的に広報を行い、人材の確保につながっている。</p> <p>看護師修学資金については、一定数の募集が集まり、今後安定的な看護師確保が期待される。</p> <p>効率的・効果的な周知等を行い看護師の確保につながった。</p>	A	<p>アソシエイト制度の導入、経験者選考採用など多様な採用方法により、必要な人材を確保することができた。</p> <p>看護師修学資金については、一定数の募集が集まり、安定的な看護師確保がなされた。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	計																																																																													
決定	73	74	123	88	105	60	523																																																																													
継続	52	80	99	126	163	178	698																																																																													
取消	▲6	▲12	▲11	▲5	▲6	▲8	▲48																																																																													
貸与計	119	142	211	209	262	230	1,173																																																																													
採用	38	33	76	40	62	-	249																																																																													
区分	28年度	29年度																																																																																		
看護師	5	1																																																																																		
事務	2	2																																																																																		
コメディカル	-	3																																																																																		
計	7	6																																																																																		
区分	27年度	28年度	29年度																																																																																	
年間	88,062	69,555	-																																																																																	
9月末	55,834	42,548	45,027																																																																																	

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	29実績 自己評価		第2期(H26~30) 自己評価																																												
						説明		説明																																												
	<p>・診療報酬など収入の適正な確保を図るとともに、業務の内容に応じた多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト削減に取り組み、効率的な業務運営に努める。</p>	<p>・診療報酬など収入の適正な確保 ・業務の質を担保しつつ、多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト削減</p>	106	<p>・未収金の圧縮を図るため、未収金の収納勧奨等について外部の専門会社を活用する。 ・医療費に係る相談体制の充実・未収金回収のアウトソーシングの促進等、効率的な未収金対策を講じる。</p>	<p>24年度から弁護士法人へ委託先を変更した結果、回収率の改善が図られている。</p> <table border="1"> <caption>29年度9月末 未収金回収実績(弁護士事務所委託分) (単位:千円)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度末未回収額</th> <th>新規委託額</th> <th>回収額</th> <th>中止額</th> <th>H29.9月末未回収額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>19,120</td> <td>18,230</td> <td>6,739</td> <td>3,737</td> <td>26,874</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>6,873</td> <td>4,378</td> <td>556</td> <td>186</td> <td>10,509</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>8,483</td> <td>1,262</td> <td>1,447</td> <td>3,323</td> <td>4,975</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>34,476</td> <td>23,870</td> <td>8,742</td> <td>7,246</td> <td>42,358</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>未収金回収率の推移 (単位:%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回収率</td> <td>45.4%</td> <td>59.0%</td> <td>65.2%</td> <td>71.9%</td> <td>79.1%</td> <td>87.0%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度末未回収額	新規委託額	回収額	中止額	H29.9月末未回収額	総合	19,120	18,230	6,739	3,737	26,874	こころ	6,873	4,378	556	186	10,509	こども	8,483	1,262	1,447	3,323	4,975	計	34,476	23,870	8,742	7,246	42,358	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込	回収率	45.4%	59.0%	65.2%	71.9%	79.1%	87.0%	<p>A</p> <p>未収金回収業務の外部委託により回収率が改善しており、収入の適正な確保を図られている。</p>	A	<p>24年度から、医療費未収金の回収業務を弁護士法人に委託した。この結果、第1期中期計画期間の最終年度から第2期中期計画期間を通じ、未収金の回収率は右肩上がりに上昇(45.4%→72.2%)し、中期目標に掲げる効率的な収入の確保を図られている。</p>
区分	28年度末未回収額	新規委託額	回収額	中止額	H29.9月末未回収額																																															
総合	19,120	18,230	6,739	3,737	26,874																																															
こころ	6,873	4,378	556	186	10,509																																															
こども	8,483	1,262	1,447	3,323	4,975																																															
計	34,476	23,870	8,742	7,246	42,358																																															
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	30年度見込																																														
回収率	45.4%	59.0%	65.2%	71.9%	79.1%	87.0%																																														
			107	<p>SPD導入により、薬品・診療材料の期限切れ、病棟の在庫額減少に努める。</p>	<p>総合</p> <p>・H29 ・薬品、診療材料在庫額 薬品については、年2回の棚卸に薬品担当者が介入することで、精度の高い棚卸を実施。 診療材料は、パッキングする品目を増やし最小単位で定数を設定することや、SPDがこまめに病棟の棚をチェックして棚差を減らすことに努めた。また年2回の定数変更時に、定数在庫へ実在庫を合わせることで、過剰在庫の抑制を図った。 ・診療材料は手術室増加に伴い、前年度より増加している。手術室の増加率に対して、診療材料は▲10,672千円削減できている。 ・第2期中期期間(H26~30) 診材期限切れによる廃棄額は、H29.9末時点で399千円で、昨年同時期と比較して49%減である。これは適正在庫を先入れ先出しで運用できていることと、不動態在庫の使用促進の効果が出ているため。診材在庫は新棟の影響により手術室在庫が増えているが、病棟▲1,352千円、検査▲2,005千円と削減できている。</p> <table border="1"> <caption>薬品・診療材料在庫額 (単位:千円)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品</td> <td>162,822</td> <td>179,830</td> <td>114,860</td> <td>101,066</td> <td>104,713</td> </tr> <tr> <td>診療材料</td> <td>180,834</td> <td>169,947</td> <td>179,513</td> <td>191,861</td> <td>204,276</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H29年度 薬品・診療材料 手術室増加に伴う増加額 35,919千円</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込	薬品	162,822	179,830	114,860	101,066	104,713	診療材料	180,834	169,947	179,513	191,861	204,276	<p>A-</p> <p>期限切れについては、切迫品の可視化を行い部署へ啓蒙したり、他部署の使用状況をみて移管するなどの取り組みを行っている。また不動態在庫をリスト化し、使用促進の効果がでている。</p> <p>在庫額については、新棟手術室の影響で前回より増えているものの、その他の部署では定数設定の見直しや最小単位での管理品目を増加したことによって削減することができた。</p>	A- <p>SPD導入により、病棟等、医療現場では、有資格者が資格業務に専念できる環境を作ることについて一定の効果をえた。 期限切れについては、切迫品の可視化を行い部署へ啓蒙したり、他部署の使用状況をみて移管するなどの取り組みや不動態在庫をリスト化し、使用促進に取組み期限切れを防いだ。 在庫額については、新棟手術室増加の影響で28年度より増加しているものの、その他の部署では定数設定の見直しや最小単位での管理品目を増加したことによって在庫を圧縮することができた。引き続き期限切れ、在庫額圧縮に務める。</p>																											
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度見込																																															
薬品	162,822	179,830	114,860	101,066	104,713																																															
診療材料	180,834	169,947	179,513	191,861	204,276																																															
			108	<p>・積極的に施設基準を取得する。 ・診療報酬の適正請求にかかると研修会等を実施する。</p>	<p>・H29 診療報酬に係る研修を開催し、適正な収入確保に取り組んだ。(特定共同指導の結果について 1月開催予定、診療報酬改定について 3月開催予定)</p> <p>・H29施設基準取得状況 新棟開棟に伴い、重症病棟の充実化を進めた。(ICUのランクアップ、HCUの増床) ・精神患者への対応範囲を入院にも広げることで、総合入院体制加算のランクアップに繋がった。 ・新規医療技術について適切な評価を受けるために、基準を満たした項目について新規届出を行った。(在宅理込型補助人工心臓管理料、皮膚悪性腫瘍手術等)(こころ) ・診療体制における新たな取り組みに対する適切な評価を受けるために、基準を満たした項目について新規届出を行った。(患者サポート体制充実加算)</p>	<p>A</p> <p>請求精度の向上を目指して、研修会等を確実に開催した。</p> <p>新規やランクアップの届出が可能な項目について積極的に届出を行うよう務めた。</p>	A <p>研修会等を通じて、病院全体として適正請求に関する意識の向上を達成できた。特定共同指導では上から2番目の評価となる「経過観察」の結果を得ることができた。 新規やランクアップの届出を積極的に行い、患者単価の上昇を達成できた。</p>																																													

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																																																																																																													
						説明	説明																																																																																																																														
			109	・材料費等の節減のための対策を実施する。 ・診療材料、薬品の廃棄状況を要因別・部門別に明らかにし、破棄・破損について、削減のための対策を講じる。	・H29 ・各病院において、診療材料委員会を中心に関係職員の意識を徹底し、適正な調達に努めている。 ・診療材料単価低減を図るため、医療従事者と協働した購入材料の選定や価格交渉を推進した。 ・薬品費の節減と薬剤部門職員の業務軽減を図るため、一薬品メーカー・一卸業者制度を継続するとともに、機構に薬品を納入する卸業者の数を6社で競争を行い、ベンチマーク調査等を活用して周辺の値引率を把握しつつ、値引率向上を図っている。 ・破損など原因ごとに対策を講じて、診療材料の廃棄量の削減に努めている。 ・第2期中期期間(H26~30) 診療材料コスト削減実績 (単位:千円) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度実績</th> <th>26年度実績</th> <th>27年度実績</th> <th>28年度実績</th> <th>29年度見込</th> <th>30年度見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>2,159</td> <td>4,314</td> <td>68,499</td> <td>34,307</td> <td>21,292</td> <td>21,292</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>90</td> <td>0</td> <td>641</td> <td>107</td> <td>728</td> <td>728</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>2,422</td> <td>19,581</td> <td>6,707</td> <td>8,320</td> <td>6,548</td> <td>6,548</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,671</td> <td>23,895</td> <td>75,847</td> <td>42,734</td> <td>28,568</td> <td>28,568</td> </tr> </tbody> </table> 29年度新規導入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績(29.9末) (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">診療材料品目数</th> <th colspan="4">薬品品目数</th> </tr> <tr> <th>H29当初契約数(a)</th> <th>新規採用数(b)</th> <th>廃止数(c)</th> <th>契約数(a+b-c)</th> <th>H29当初契約数(a)</th> <th>新規採用数(b)</th> <th>廃止数(c)</th> <th>契約数(a+b-c)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>11,776</td> <td>4,615</td> <td>1,690</td> <td>14,701</td> <td>1,654</td> <td>31</td> <td>41</td> <td>1,644</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>408</td> <td>23</td> <td>23</td> <td>408</td> <td>710</td> <td>54</td> <td>61</td> <td>703</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>4,132</td> <td>18</td> <td>13</td> <td>4,137</td> <td>1,282</td> <td>17</td> <td>11</td> <td>1,288</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>16,316</td> <td>4,656</td> <td>1,726</td> <td>19,246</td> <td>3,646</td> <td>102</td> <td>113</td> <td>3,635</td> </tr> </tbody> </table> H29.9末 破棄・破損額(単位:千円) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>診療材料費</th> <th>薬品費</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>3,052</td> <td>2,901</td> <td>5,954</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>46</td> <td>88</td> <td>134</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>745</td> <td>1,116</td> <td>1,861</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3,843</td> <td>4,105</td> <td>7,949</td> </tr> </tbody> </table> H29年度 薬品 後発品採用率 (単位:%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度実績</th> <th>27年度実績</th> <th>28年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>10.3</td> <td>16.9</td> <td>24.3</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>18.3</td> <td>23.5</td> <td>27.2</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>12.4</td> <td>17.0</td> <td>20.5</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度見込	30年度見込	総合	2,159	4,314	68,499	34,307	21,292	21,292	こころ	90	0	641	107	728	728	こども	2,422	19,581	6,707	8,320	6,548	6,548	合計	4,671	23,895	75,847	42,734	28,568	28,568	区分	診療材料品目数				薬品品目数				H29当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	契約数(a+b-c)	H29当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	契約数(a+b-c)	総合	11,776	4,615	1,690	14,701	1,654	31	41	1,644	こころ	408	23	23	408	710	54	61	703	こども	4,132	18	13	4,137	1,282	17	11	1,288	合計	16,316	4,656	1,726	19,246	3,646	102	113	3,635	区分	診療材料費	薬品費	合計	総合	3,052	2,901	5,954	こころ	46	88	134	こども	745	1,116	1,861	合計	3,843	4,105	7,949	区分	26年度実績	27年度実績	28年度実績	総合	10.3	16.9	24.3	こころ	18.3	23.5	27.2	こども	12.4	17.0	20.5	A	(総合) ・自治体共済会MRPベンチマークシステムを用いて、卸・メーカーに対して診療材料の価格交渉や品目の切替を医療従事者の協力を得ながら行った。また、9月より共同購入組織である「一般社団法人日本ホスピタルアライアンス(略称:NHA)」に加盟し、より一層の診療材料費の低減を行っている。 診療材料費については、医療従事者と協働し、同種同効品の見直しなどに取り組むことで、平成29年度上半期は約14百万円削減した。 薬品費については、カテゴリ別に値引率と金額割合の分析を行った上での価格交渉を実施した。また、一部の高額医薬品について、院内処方へ切り替えて収益の増加を図った。	A	(総合) ・各年度、自治体共済会MRPベンチマークシステムを用いて、卸・メーカーに対して診療材料の価格交渉や品目の切替を医療従事者の協力を得ながら行った。また、H29年9月より共同購入組織である「一般社団法人日本ホスピタルアライアンス(略称:NHA)」に加盟し、より一層の診療材料費の低減を行っている。 診療材料費については、医療従事者と協働し、同種同効品の絞込みや価格交渉、安価な材料への切替等を進めた。さらに、SPDの有効活用により、在庫量の適正管理に努めた。 薬品費については、各病院薬剤部(室)長同席の下メーカー要請を行うなど、機構全体で値引率改善に向け取り組んだ。
区分	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度見込	30年度見込																																																																																																																															
総合	2,159	4,314	68,499	34,307	21,292	21,292																																																																																																																															
こころ	90	0	641	107	728	728																																																																																																																															
こども	2,422	19,581	6,707	8,320	6,548	6,548																																																																																																																															
合計	4,671	23,895	75,847	42,734	28,568	28,568																																																																																																																															
区分	診療材料品目数				薬品品目数																																																																																																																																
	H29当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	契約数(a+b-c)	H29当初契約数(a)	新規採用数(b)	廃止数(c)	契約数(a+b-c)																																																																																																																													
総合	11,776	4,615	1,690	14,701	1,654	31	41	1,644																																																																																																																													
こころ	408	23	23	408	710	54	61	703																																																																																																																													
こども	4,132	18	13	4,137	1,282	17	11	1,288																																																																																																																													
合計	16,316	4,656	1,726	19,246	3,646	102	113	3,635																																																																																																																													
区分	診療材料費	薬品費	合計																																																																																																																																		
総合	3,052	2,901	5,954																																																																																																																																		
こころ	46	88	134																																																																																																																																		
こども	745	1,116	1,861																																																																																																																																		
合計	3,843	4,105	7,949																																																																																																																																		
区分	26年度実績	27年度実績	28年度実績																																																																																																																																		
総合	10.3	16.9	24.3																																																																																																																																		
こころ	18.3	23.5	27.2																																																																																																																																		
こども	12.4	17.0	20.5																																																																																																																																		
			110	効率的な医療機器購入及び管理のための対策を実施する。	・各病院において、病院一体となって徹底した価格交渉や価格調査を行い、入札・見積合わせ等の徹底により競争性を確保することなどにより、効率的な購入及び管理に努めた。 ・価格交渉では事務と連携して医師等自らも業者と交渉するほか、スケールメリットを生かした複数台購入もしている。 ・機種選定では複数機種を原則とし、1機種に限定する場合でも複数業者間の競争を維持するよう努めている。 ・価格調査では、他病院実績の調査や関係団体への照会、ベンチマーク調査により目安となる金額の把握を徹底し、適正な金額設計に生かしている。 ・保守委託では、3病院一括の契約を結ぶなど、機器に応じた契約や保守内容の見直しを行いコスト低減を図っている。	A	・徹底した価格交渉や競争性確保に努めた結果、適正価格での購入が行えた。 ・案件に応じ「購入+保守管理」一括評価で調達を行い、トータルコストを削減した。 ・保守委託については3病院一括化・複数年契約等により、法人化や規模のメリットを生かしたコスト削減を図っている。	A	・全期間を通して、徹底した価格交渉や競争性確保、先端医学棟の高額機器など案件に応じた「購入+保守管理」一括評価といった工夫を行い、効率的な医療機器購入を行うことができた。 ・保守委託については、3病院一括契約により規模のメリットを生かすとともに、保守内容の継続的な見直しによりコスト削減を図った。																																																																																																																												

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																																																																									
						説明		説明																																																																																									
			111	複数年契約や集約化等による契約方法の見直しを継続的に実施する。	<p>・委託費の節減を図るため、複数病院一括化、複数年契約化を行った。また、契約の更新時に引き続き一括化・複数年化に適合するか見直した。(H29年度の契約更新においては、全て一括化・複数年化を継続)</p> <p>・委託の仕様の徹底した見直しを行った。</p> <p>・コスト削減による業務水準の低下を防ぐため、一部の委託については、定期的にモニタリング(委託業者の業務を評価)を行い、質の維持・向上を図った。</p> <p>29年度 委託契約等の見直し状況(単年度ベース) (単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>業務名(連携)</th> <th>連携</th> <th>年数</th> <th>期間</th> <th>種類</th> <th>H29決算額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>感染性産業廃棄物処理業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>H29.4~H30.3</td> <td>単価</td> <td>42,195</td> </tr> <tr> <td>寝具類貸借</td> <td>3病院</td> <td>3年</td> <td>H29.4~H32.3</td> <td>単価</td> <td>95,560</td> </tr> <tr> <td>消防設備点検業務委託</td> <td>3病院</td> <td>3年</td> <td>H29.4~H32.3</td> <td>定額</td> <td>9,678</td> </tr> <tr> <td>庭園管理業務委託</td> <td>心・子</td> <td>3年</td> <td>H29.4~H32.3</td> <td>定額</td> <td>11,359</td> </tr> <tr> <td>医療機器等保守点検業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>H29.4~H30.3</td> <td>定額</td> <td>175,336</td> </tr> <tr> <td>放射線機器保守管理等業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>H29.4~H30.3</td> <td>定額</td> <td>289,440</td> </tr> <tr> <td>シーメンス社製医療機器保守業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>H29.4~H30.3</td> <td>定額</td> <td>140,400</td> </tr> <tr> <td>建築基準法の定期報告業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>H29.9~H30.3</td> <td>定額</td> <td>9,720</td> </tr> <tr> <td colspan="5">合計</td> <td>773,688</td> </tr> </tbody> </table> <p>29年度 委託モニタリング評価結果 (H29.9末時点)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>第1期</th> <th>第2期</th> <th>第3期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給食</td> <td>可</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>第1四半期</th> <th>第2四半期</th> <th>第3四半期</th> <th>第4四半期</th> </tr> <tr> <td>清掃</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>警備(心・子)</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>医事(総・心)</td> <td>可</td> <td>-1%</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	業務名(連携)	連携	年数	期間	種類	H29決算額	感染性産業廃棄物処理業務委託	3病院	1年	H29.4~H30.3	単価	42,195	寝具類貸借	3病院	3年	H29.4~H32.3	単価	95,560	消防設備点検業務委託	3病院	3年	H29.4~H32.3	定額	9,678	庭園管理業務委託	心・子	3年	H29.4~H32.3	定額	11,359	医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	H29.4~H30.3	定額	175,336	放射線機器保守管理等業務委託	3病院	1年	H29.4~H30.3	定額	289,440	シーメンス社製医療機器保守業務委託	3病院	1年	H29.4~H30.3	定額	140,400	建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	H29.9~H30.3	定額	9,720	合計					773,688	区分	第1期	第2期	第3期	給食	可	-	-	区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	清掃	可	可	-	-	警備(心・子)	可	可	-	-	医事(総・心)	可	-1%	-	-	A		A	<p>複数病院で集約化した委託等の契約は21件、うち複数年化を行ったものは16件となり、一括化・複数年化による費用削減及び事務の簡素化につながっている。</p> <p>第1期に続いて、一括化・複数年化に伴う契約方法の見直しや委託モニタリングなどを、全期間を通して継続的に実施できた。</p>
業務名(連携)	連携	年数	期間	種類	H29決算額																																																																																												
感染性産業廃棄物処理業務委託	3病院	1年	H29.4~H30.3	単価	42,195																																																																																												
寝具類貸借	3病院	3年	H29.4~H32.3	単価	95,560																																																																																												
消防設備点検業務委託	3病院	3年	H29.4~H32.3	定額	9,678																																																																																												
庭園管理業務委託	心・子	3年	H29.4~H32.3	定額	11,359																																																																																												
医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	H29.4~H30.3	定額	175,336																																																																																												
放射線機器保守管理等業務委託	3病院	1年	H29.4~H30.3	定額	289,440																																																																																												
シーメンス社製医療機器保守業務委託	3病院	1年	H29.4~H30.3	定額	140,400																																																																																												
建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	H29.9~H30.3	定額	9,720																																																																																												
合計					773,688																																																																																												
区分	第1期	第2期	第3期																																																																																														
給食	可	-	-																																																																																														
区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期																																																																																													
清掃	可	可	-	-																																																																																													
警備(心・子)	可	可	-	-																																																																																													
医事(総・心)	可	-1%	-	-																																																																																													
	<p>・常に経営情報を把握するとともに、適時適切な措置を講じられるよう体制を整備する。また、経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上に努める。</p>	<p>・経営情報を把握及び適時適切な措置を講じられる体制整備</p> <p>・経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上</p>	112	<p>・毎月の理事会や病院幹部会議において、経営状況を報告・分析するとともに、それらの経営状況の職員への周知を図る。</p> <p>・より効率的で安定的な経営を維持するため原価計算への取組を推進する。</p> <p>・機構の直近の経営状況を職員(特に病院の幹部職員、県からの新しい派遣職員や新規採用職員)に認識させるため、会議や研修、広報誌等を通じて周知徹底する。</p>	<p>・理事会や運営会議において、毎月の月次決算により経営状況を分析し、報告を行っている。また、3病院合同幹部会議において各病院の幹部職員に定期的に報告し、周知を図っている。</p> <p>・月次決算において、費用計上を発生主義から年間平準化計上へ手法を改めることにより、適切な経営状況の把握に努めている。</p> <p>・職員研修などにおいて、病院経営や効率的な業務運営に関する取組等の科目を設け、意識の醸成を図った。</p> <p>・院内コミュニケーションシステムや職員報(トライアングル)を通じて、理事会資料等の経営情報を全職員に向け提供し、意識醸成を図っている。</p> <p>・主にH27年度から、上記取組を継続して行うことにより、経営情報の把握や適時適切な措置を講じられる体制の整備を図っている。</p>	A		A	<p>月次決算等により、経営状況の報告・分析を着実に進めている。</p> <p>また、会議や職員報を通して経営分析を職員に周知し、理事長、副理事長自ら研修等を行うことで、職員の経営に対する意識啓発が図られている。</p> <p>第2期中期目標期間を通じ、月次決算等の経営状況等の各会議への報告や、過去の実績等を踏まえた予算編成に取り組むことにより、中期目標に掲げる効率的な業務運営の実現を図った。</p>																																																																																								

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	29実績 自己評価		第2期(H26~30) 自己評価																																																																									
						説明	説明	説明	説明																																																																								
<p>3 事務部門の専門性の向上</p> <p>事務部門において、病院特有の事務に精通した職員を確保及び育成することにより、専門性の向上を図ること。</p>	<p>3 事務部門の専門性の向上</p> <p>経営管理機能を強化するため、引き続き法人固有の事務職員を採用するとともに、専門性の向上に計画的に取り組む。併せて、急速な経営環境の変化にも迅速に対応できるよう病院運営や医療事務等に精通した人材の確保に努める。</p>	<p>II</p> <p>3</p> <p>事務部門の専門性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務職員の計画的な採用 ・階層や職務に応じた効果的な研修の実施、学会発表等へ事務職員の参加など ・異動方針の弾力的運用及び各部署におけるOJT (on-the-job training) をはじめとする人材の育成・研修の推進 ・診療情報管理機能の強化 	113	<p>・階層や職務に応じた各種研修を実施する。</p> <p>・また、事務職員の機構外研修への積極的な参加を促す。</p> <p>・職員の適性等を考慮した弾力的な人事異動を行う。</p>	<p>・H29 採用内定者研修、事務職員基礎研修(新規採用職員)、会計研修等を実施し、業務関連知識を高めている。 職員の適正等を考慮し、適宜人事異動を行った。</p> <table border="1"> <caption>事務職員に対する研修状況</caption> <thead> <tr> <th>受講時期</th> <th>研修名</th> <th colspan="2">開催状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">新採年度</td> <td>新規採用職員研修</td> <td>5、6月</td> <td>2日間</td> </tr> <tr> <td>新規役付職員研修</td> <td>5月</td> <td>1日間</td> </tr> <tr> <td>係長級昇任時</td> <td>新任監督者研修</td> <td>8月</td> <td>1日間</td> </tr> <tr> <td>セクション長昇任時</td> <td>新任管理者・監督者研修</td> <td>9月</td> <td>1日間</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">管理者(毎年度)</td> <td>コーチング研修</td> <td>9月</td> <td>1日間</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション研修</td> <td>7月</td> <td>1日間</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">希望により任意参加</td> <td>ファシリテーション研修</td> <td>11月</td> <td>1日間</td> </tr> <tr> <td>メンタルサポート研修</td> <td>12月</td> <td>半日</td> </tr> <tr> <td>会計基礎研修</td> <td>4月</td> <td>半日</td> </tr> <tr> <td>会計中級研修</td> <td>9月</td> <td>半日</td> </tr> <tr> <td>未収金回収研修</td> <td>12月</td> <td>半日</td> </tr> </tbody> </table>	受講時期	研修名	開催状況		新採年度	新規採用職員研修	5、6月	2日間	新規役付職員研修	5月	1日間	係長級昇任時	新任監督者研修	8月	1日間	セクション長昇任時	新任管理者・監督者研修	9月	1日間	管理者(毎年度)	コーチング研修	9月	1日間	コミュニケーション研修	7月	1日間	希望により任意参加	ファシリテーション研修	11月	1日間	メンタルサポート研修	12月	半日	会計基礎研修	4月	半日	会計中級研修	9月	半日	未収金回収研修	12月	半日	A	<p>業務の基礎部分に対する研修体系は出来た。 事務職員の更なるレベルアップが必要である。</p>	A	<p>業務の基礎部分に対する研修体系は出来たので、引き続き継続をしつつ、必要な研修を取り入れていく。</p>																														
					受講時期	研修名	開催状況																																																																										
新採年度	新規採用職員研修	5、6月	2日間																																																																														
	新規役付職員研修	5月	1日間																																																																														
係長級昇任時	新任監督者研修	8月	1日間																																																																														
セクション長昇任時	新任管理者・監督者研修	9月	1日間																																																																														
管理者(毎年度)	コーチング研修	9月	1日間																																																																														
	コミュニケーション研修	7月	1日間																																																																														
希望により任意参加	ファシリテーション研修	11月	1日間																																																																														
	メンタルサポート研修	12月	半日																																																																														
	会計基礎研修	4月	半日																																																																														
	会計中級研修	9月	半日																																																																														
	未収金回収研修	12月	半日																																																																														
<p>・H29 診療情報管理士資格の取得支援制度を設け、資格者の増員を図っている。 がん登録業務を担当する職員に国立がん研究センター主催院内がん登録実務研修を受講させるなど、専門性の向上を図っている。</p> <p>・第2期中期期間(H26~30)</p>	<table border="1"> <caption>診療情報管理士資格取得状況 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29.9末</th> </tr> <tr> <th>資格取得者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格取得者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格取得者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格取得者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格取得者</th> <th>専門課程修了者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>3</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>5</td> <td>11</td> <td>5</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td></td> <td>5</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td></td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4</td> <td>18</td> <td>10</td> <td>18</td> <td>10</td> <td>18</td> <td>11</td> <td>17</td> <td>11</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 専門課程修了者：資格試験受験資格を有する者</p>	区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29.9末		資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	総合	3	11	6	13	6	13	5	11	5	10	こころ	1		1		1		1	1	1	2	こども		5	2	4	2	4	3	4	3	4	本部		2	1	1	1	1	2	1	2	1	計	4	18	10	18	10	18	11	17	11	17	A	<p>診療情報管理機能の強化をするため、診療情報管理士資格の取得支援制度を設け、資格者の増員を図っている。</p>	A	<p>診療情報管理機能の強化をするため、診療情報管理士資格の取得支援制度を設け、資格者の増員を図り、有資格者を診療情報業務に配置した。(総合) 診療情報管理業務について一部を外部委託していたが、H28年度より委託から直雇用に切替え、診療情報管理業務の充実を図った。がん登録や症例登録業務の体制を強化した。</p>
区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29.9末																																																																								
	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者																																																																							
総合	3	11	6	13	6	13	5	11	5	10																																																																							
こころ	1		1		1		1	1	1	2																																																																							
こども		5	2	4	2	4	3	4	3	4																																																																							
本部		2	1	1	1	1	2	1	2	1																																																																							
計	4	18	10	18	10	18	11	17	11	17																																																																							

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	29実績 自己評価		第2期(H26~30)自己評価																																																																																																																						
						説明		説明																																																																																																																						
			115	事務部門の業務マニュアルの作成等、業務の平準化や効率化のための取組を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> ・H29 ・業務の標準化を図るため、事務部門の業務マニュアル整備・活用に向けた取り組みを実施している。 ・院内コミュニケーションシステム上に整備したマニュアルを公開し、共有化している。 ・第2期中期目標期間(H26~30) ・事務部門における業務項目数に対して、マニュアル整備率を上げている。 <p>マニュアル整備状況 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">所属別</th> <th colspan="3">25年度</th> <th colspan="3">26年度</th> <th colspan="3">27年度</th> </tr> <tr> <th>業務項目数</th> <th>マニュアル整備数</th> <th>整備率</th> <th>業務項目数</th> <th>マニュアル整備数</th> <th>整備率</th> <th>業務項目数</th> <th>マニュアル整備数</th> <th>整備率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>268</td> <td>259</td> <td>97%</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>100%</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>163</td> <td>151</td> <td>93%</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>100%</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>252</td> <td>221</td> <td>88%</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>100%</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>879</td> <td>827</td> <td>94%</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>100%</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">所属別</th> <th colspan="3">28年度</th> <th colspan="3">29年度</th> </tr> <tr> <th>業務項目数</th> <th>マニュアル整備数</th> <th>整備率</th> <th>業務項目数</th> <th>マニュアル整備数</th> <th>整備率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>100%</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>100%</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>100%</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>100%</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	所属別	25年度			26年度			27年度			業務項目数	マニュアル整備数	整備率	業務項目数	マニュアル整備数	整備率	業務項目数	マニュアル整備数	整備率	総合	268	259	97%	268	268	100%	268	268	100%	こころ	163	151	93%	163	163	100%	163	163	100%	こども	252	221	88%	252	252	100%	252	252	100%	本部	196	196	100%	196	196	100%	196	196	100%	合計	879	827	94%	879	879	100%	879	879	100%	所属別	28年度			29年度			業務項目数	マニュアル整備数	整備率	業務項目数	マニュアル整備数	整備率	総合	268	268	100%	268	268	100%	こころ	163	163	100%	163	163	100%	こども	252	252	100%	252	252	100%	本部	196	196	100%	196	196	100%	合計	879	879	100%	879	879	100%	A	作成されたマニュアルを公開していることで、マニュアルの共有化が図られている。	A	業務項目数に対して、マニュアル整備率を上げ整備率を100%としている。また、作成されたマニュアルを公開していることで、マニュアルの共有化が図られている。
所属別	25年度			26年度			27年度																																																																																																																							
	業務項目数	マニュアル整備数	整備率	業務項目数	マニュアル整備数	整備率	業務項目数	マニュアル整備数	整備率																																																																																																																					
総合	268	259	97%	268	268	100%	268	268	100%																																																																																																																					
こころ	163	151	93%	163	163	100%	163	163	100%																																																																																																																					
こども	252	221	88%	252	252	100%	252	252	100%																																																																																																																					
本部	196	196	100%	196	196	100%	196	196	100%																																																																																																																					
合計	879	827	94%	879	879	100%	879	879	100%																																																																																																																					
所属別	28年度			29年度																																																																																																																										
	業務項目数	マニュアル整備数	整備率	業務項目数	マニュアル整備数	整備率																																																																																																																								
総合	268	268	100%	268	268	100%																																																																																																																								
こころ	163	163	100%	163	163	100%																																																																																																																								
こども	252	252	100%	252	252	100%																																																																																																																								
本部	196	196	100%	196	196	100%																																																																																																																								
合計	879	879	100%	879	879	100%																																																																																																																								
<p>4 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成</p> <p>業務改善に向けて、職員の意欲を高め、積極的な参画を促すなど、継続的に業務改善へ取り組む組織風土を醸成すること。</p>	<p>4 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成</p> <p>業務の改善改革への取組を奨励し、その活動を積極的に評価するとともに、職員の意見が反映されやすい風通しの良い組織運営を進めるなど、職員の意欲が高い活気に溢れた病院づくりに取り組む。</p>	II 4	業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成 ・業務の改善の取組等を通じた職員の意識向上及び病院運営の活性化	116	<ul style="list-style-type: none"> ・H29 業務改善について、院内コミュニケーションシステム等を利用して、誰もが経営・業務改善を常時提案できる体制の整備に努めた。また、他職員の改善提案を確認できるよう仕組みを整備している。 ・第2期中期目標期間(H26~30) 法人化後構築した「改革・改善推進制度」を、26年度から「改善運動推進制度」、28年度から「業務改善運動推進制度」と名称を改め、引き続き職員が改善運動に進んで取り組めるよう促した。 <p>業務改善運動推進制度実績件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>前年増減率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>39</td> <td>49</td> <td>46</td> <td>43</td> <td rowspan="5">実施集計中</td> <td></td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>30</td> <td>12</td> <td>34</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>46</td> <td>54</td> <td>53</td> <td>71</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>130</td> <td>127</td> <td>144</td> <td>166</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	前年増減率	総合	39	49	46	43	実施集計中		こころ	30	12	34	36	こども	46	54	53	71	本部	15	12	11	16	計	130	127	144	166	A	業務改善について、院内コミュニケーションシステム等を利用して、誰もが経営・業務改善を常時提案できる体制の整備を図った。 H29年度は現在実施・集計中である。	A	職員による経営・業務改善の提案数は増加傾向にある。 各病院及び本部での呼びかけや、院内コミュニケーションシステムの更新により、当制度が職員に浸透し、意識向上を図っている。																																																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	前年増減率																																																																																																																								
総合	39	49	46	43	実施集計中																																																																																																																									
こころ	30	12	34	36																																																																																																																										
こども	46	54	53	71																																																																																																																										
本部	15	12	11	16																																																																																																																										
計	130	127	144	166																																																																																																																										